



Sun Java Enterprise System 5 Update 1 インストールリ ファレンス (UNIX 版)



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 820-3136
2007 年 9 月

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目次

はじめに	13
1 Java ES の配布内容	19
Solaris SPARC の配布内容	19
Solaris x86 の配布内容	22
Linux の配布内容	24
2 デフォルトのインストールディレクトリとポート	29
デフォルトのインストールディレクトリ	29
デフォルトのポート番号	32
3 設定情報	37
この章の利用方法	37
「あとで設定」オプションを使用したインストール	38
「今すぐ設定」オプションを使用したインストール	38
インストーラにより提供される設定情報	38
「今すぐ設定」設定情報の表の使用	39
設定で使用する用語	40
共通設定	41
パスワード選択	41
共通サーバー設定	42
Access Manager 設定情報	43
Access Manager 管理情報	44
Access Manager Web コンテナ情報	45
Access Manager サービス	48
Access Manager: Directory Server 情報	54
Access Manager プロビジョニングされているディレクトリの情報	55

Access Manager SDK 設定情報	57
Access Manager SDK 管理情報	57
Access Manager SDK Directory Server 情報	59
Access Manager SDK プロビジョニングされているディレクトリの情報	59
Access Manager SDK Web コンテナ情報	61
Application Server の設定情報	62
Application Server 管理情報	62
Application Server ノードエージェント情報	63
Application Server ロードバランспラグイン情報	64
Directory Server 設定情報	65
Directory Server インスタンス作成の選択情報	65
Directory Server インスタンス作成情報	66
Directory Server 使用するインスタンスの選択	67
HADB の設定情報	67
Portal Server の設定情報	68
Portal Server Web コンテナの選択	69
Portal Server: Java ES Application Server が Web コンテナの場合	69
Portal Server: Java ES Web Server が Web コンテナの場合	71
Portal Server: BEA WebLogic が Web コンテナの場合	72
Portal Server: IBM WebSphere が Web コンテナの場合	73
Portal Server Web コンテナの配備に関する情報	75
Portal Server Secure Remote Access の設定情報	76
Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセス	77
Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ設定	78
Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシ設定	79
Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシ設定	80
Portal Server Secure Remote Access 証明書情報	80
Web Proxy Server の設定情報	81
Web Server の設定情報	82
Web Server の設定タイプの選択	83
Web Server 管理サーバー設定	83
Web Server 管理ノード設定	85
Web Server インスタンス設定	86
状態ファイルのみで使用されるパラメータ	87

4 設定ワークシート	89
共通設定の設定情報	89
Access Manager 設定情報	90
Access Manager 管理	90
Web コンテナ	91
Access Manager サービス	93
Access Manager: Directory Server	96
Access Manager のプロビジョニングされたディレクトリ	97
Access Manager SDK 設定情報	98
Access Manager SDK 管理	98
Access Manager SDK Directory Server	98
Access Manager SDK のプロビジョニングされたディレクトリ	99
Access Manager SDK Web コンテナ	100
Application Server の設定情報	101
Application Server 管理	101
Application Server ノードエージェント	102
Application Server ロードバランスプラグイン	103
Directory Server 設定情報	104
Directory Server インスタンス作成の選択	104
Directory Server インスタンス作成	104
HADB の設定情報	106
Portal Server の設定情報	106
Portal Server Web コンテナの選択	106
Java ES Application Server 上の Portal Server	107
Java ES Web Server 上の Portal Server	108
BEA WebLogic Server 上の Portal Server	109
IBM WebSphere Application Server 上の Portal Server	110
Web コンテナ上の Portal Server	112
Portal Server Secure Remote Access の設定情報	113
Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセス	113
Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ設定	114
Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシ	115
Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシ	116
Portal Server Secure Remote Access 証明書	116
Web Proxy Server の設定情報	117
Web Server の設定情報	118

Web Server 設定タイプ	118
Web Server 管理サーバー設定	118
Web Server 管理ノード設定	119
Web Server インスタンス設定	120
状態ファイル設定情報内でのみ使用されるパラメータ	121
5 インストール可能なパッケージの一覧	123
Solaris パッケージ	123
Solaris OS 用インストールパッケージ	123
Solaris OS 用アンインストールパッケージ	124
製品コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ	124
共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ	132
ローカライズされた Solaris パッケージ	134
Linux パッケージ	141
Linux 用インストールパッケージ	141
Linux 用アンインストールパッケージ	142
製品コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ	142
共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ	148
ローカライズされた Linux パッケージ	149
索引	155

表目次

表 1-1	Solaris SPARC の配布内容	19
表 1-2	Solaris x86 の配布内容	22
表 1-3	Linux x86 の配布内容	24
表 2-1	製品コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリ	30
表 2-2	デフォルトのポート番号	33
表 3-1	パスワード選択	42
表 3-2	共通サーバー設定	42
表 3-3	Access Manager 管理情報	44
表 3-4	Application Server を Access Manager の Web コンテナとして使用する場合	46
表 3-5	Web Server を Access Manager の Web コンテナとして使用する場合	47
表 3-6	Web コンテナ指定用の Access Manager サービス情報	49
表 3-7	Access Manager コンソールの Access Manager サービス情報	50
表 3-8	コンソールのみをインストールするための Access Manager サービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)	52
表 3-9	Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合)	52
表 3-10	連携管理をインストールするための Access Manager サービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)	54
表 3-11	Access Manager のインストール時に必要となる Directory Server に関する設定情報	55
表 3-12	Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報	56
表 3-13	Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合の設定情報	56
表 3-14	Access Manager SDK のインストール時に必要となる管理に関する設定情報	58
表 3-15	Access Manager SDK のインストール時に必要な Directory Server に関する設定情報	59
表 3-16	Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニング	

	された既存ディレクトリに関する設定情報	60
表 3-17	Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報	60
表 3-18	Access Manager SDK のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報	61
表 3-19	Application Server の管理に関する設定情報	62
表 3-20	Application Server のインストール時に必要となるノードエージェントに関する設定情報	63
表 3-21	Application Server のインストール時に必要となるロードバランスプラグインに関する設定情報	64
表 3-22	Directory Server のインスタンス作成選択	65
表 3-23	Directory Server のインスタンス作成情報	66
表 3-24	Directory Server: 使用するインスタンスの選択	67
表 3-25	HADB のポート選択情報	67
表 3-26	Portal Server の Web コンテナの選択	69
表 3-27	Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報	69
表 3-28	Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報	71
表 3-29	Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報	72
表 3-30	Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報	73
表 3-31	Portal Server Web コンテナの配備	75
表 3-32	Portal Server Secure Remote Access 情報	77
表 3-33	Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報	78
表 3-34	Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Netlet プロキシに関する設定情報	79
表 3-35	Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Rewriter プロキシに関する設定情報	80
表 3-36	Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報	81
表 3-37	Web Proxy Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報	81
表 3-38	Web Server の設定タイプの選択	83
表 3-39	Web Server 用の管理サーバー設定	84
表 3-40	Web Server の管理ノード設定	85

表 3-41	Web Server のインスタンス設定	86
表 3-42	状態ファイルのパラメータ	87
表 4-1	共通サーバー設定の設定用ワークシート	90
表 4-2	Access Manager 管理情報の設定用ワークシート	91
表 4-3	Application Server を Web コンテナとする Access Manager の設定用ワークシート	92
表 4-4	Web Server を Web コンテナとする Access Manager の設定用ワークシート	93
表 4-5	Access Manager コンソールの Access Manager サービス情報の設定用ワークシート	94
表 4-6	Access Manager Directory Server の設定用ワークシート	94
表 4-7	Access Manager インストールコンソール(コアはインストール済み)の設定用ワークシート	95
表 4-8	インストールコンソール(コアは未インストール)の設定用ワークシート	96
表 4-9	連携管理のインストール(コアはインストール済み)の設定用ワークシート	96
表 4-10	Access Manager Directory Server の設定用ワークシート	96
表 4-11	プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合	97
表 4-12	Access Manager SDK 管理の設定用ワークシート	98
表 4-13	Access Manager SDK Directory Server の設定用ワークシート	99
表 4-14	Access Manager SDK のプロビジョニングされたディレクトリの設定用ワークシート	99
表 4-15	Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報	100
表 4-16	Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報	100
表 4-17	Access Manager SDK Web コンテナの設定用ワークシート	101
表 4-18	アプリケーションサーバー管理の設定用ワークシート	102
表 4-19	Application Server ノードエージェントの設定用ワークシート	102
表 4-20	Application Server ロードバランスプラグインの設定用ワークシート	103
表 4-21	Directory Server インスタンス作成の選択の設定用ワークシート	104
表 4-22	Directory Server インスタンス作成の設定用ワークシート	105
表 4-23	HADB の設定用ワークシート	106
表 4-24	Portal Server Web コンテナ選択の設定用ワークシート	107
表 4-25	Java ES Application Server 上の Portal Server の設定用ワークシート	107
表 4-26	Java ES Web Server 上の Portal Server の設定用ワークシート	108
表 4-27	BEA WebLogic Server 上の Portal Server の設定用ワークシート	109

表 4-28	IBM WebSphere Application Server 上の Portal Server の設定用ワークシート 110
表 4-29	Web Container 上の Portal Server の設定用ワークシート 112
表 4-30	Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセスの設定用ワークシート 113
表 4-31	Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイの設定用ワークシート 114
表 4-32	Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシの設定用ワークシート 115
表 4-33	Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシの設定用ワークシート 116
表 4-34	Portal Server Secure Remote Access 証明書の設定用ワークシート 116
表 4-35	Web Proxy Server 管理の設定用ワークシート 117
表 4-36	Web Server 設定タイプの設定用ワークシート 118
表 4-37	Web Server Administration Server 設定の設定用ワークシート 119
表 4-38	Web Server 管理ノード設定の設定用ワークシート 119
表 4-39	Web Server インスタンス設定の設定用ワークシート 120
表 4-40	状態ファイルで使用されるパラメータの設定用ワークシート 121
表 5-1	Solaris OS 用インストールパッケージ 123
表 5-2	Solaris OS 用アンインストールパッケージ 124
表 5-3	Solaris OS 用 Access Manager パッケージ 124
表 5-4	Solaris OS 用 Application Server パッケージ 125
表 5-5	Solaris OS 用 Directory Preparation Tool パッケージ 126
表 5-6	Solaris OS 用 Directory Server パッケージ 126
表 5-7	Solaris OS 用 HADB パッケージ 127
表 5-8	Java DB Solaris パッケージ 127
表 5-9	Solaris OS 用 Message Queue パッケージ 128
表 5-10	Solaris OS 用 Monitoring Console パッケージ 128
表 5-11	Solaris OS 用 Portal Server パッケージ 128
表 5-12	Solaris OS 用 Portal Server SRA パッケージ 129
表 5-13	Solaris OS 用 Service Registry パッケージ 129
表 5-14	Solaris OS 用 Sun Cluster Geographic Edition パッケージ 129
表 5-15	Solaris 9 OS 用 Sun Cluster ソフトウェアパッケージ 130
表 5-16	Solaris 10 OS 用 Sun Cluster パッケージ 130
表 5-17	Solaris OS 用 Sun Cluster Agents for Sun Java System パッケージ 131
表 5-18	Solaris OS 用 Web Server パッケージ 131
表 5-19	Solaris OS 用 Web Proxy Server パッケージ 131

表 5-20	Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ	132
表 5-21	パッケージ名に含まれる言語略号	134
表 5-22	Solaris 用グローバル言語パッケージ	135
表 5-23	簡体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ	136
表 5-24	繁体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ	136
表 5-25	フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ	137
表 5-26	ドイツ語にローカライズされた Solaris パッケージ	138
表 5-27	日本語にローカライズされた Solaris パッケージ	139
表 5-28	韓国語にローカライズされた Solaris パッケージ	140
表 5-29	スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ	140
表 5-30	Linux 用インストールパッケージ	141
表 5-31	Linux 用アンインストールパッケージ	142
表 5-32	Linux 用 Access Manager パッケージ	142
表 5-33	Linux 用 Application Server パッケージ	143
表 5-34	Linux 用 Directory Preparation Tool パッケージ	144
表 5-35	Linux 用 Directory Server パッケージ	144
表 5-36	Linux 用 HADB パッケージ	145
表 5-37	Java DB Linux パッケージ	145
表 5-38	Linux 用 Message Queue パッケージ	146
表 5-39	Linux 用 Monitoring Console パッケージ	146
表 5-40	Linux 用 Portal Server パッケージ	146
表 5-41	Linux 用 Portal Server SRA パッケージ	147
表 5-42	Linux 用 Service Registry パッケージ	147
表 5-43	Linux 用 Web Server パッケージ	147
表 5-44	Linux 用 Web Proxy Server パッケージ	147
表 5-45	Linux 用共有コンポーネントパッケージ	148
表 5-46	Linux 用グローバル言語パッケージ	150
表 5-47	簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ	151
表 5-48	繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ	151
表 5-49	フランス語にローカライズされた Linux パッケージ	152
表 5-50	ドイツ語にローカライズされた Linux パッケージ	152
表 5-51	日本語にローカライズされた Linux パッケージ	153
表 5-52	韓国語にローカライズされた Linux パッケージ	153
表 5-53	スペイン語にローカライズされた Linux パッケージ	154

はじめに

『Java Enterprise System インストールリファレンス』には、Sun Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS)、Linux オペレーティング環境で Sun Java™ Enterprise System (Java ES) ソフトウェアをインストールするために必要な情報が記載されています。このマニュアルは、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Installation Guide for UNIX』とともに使用してください。

このマニュアルには、特定のプラットフォームのみに当てはまり、異なるプラットフォームには適用されない情報も含まれます。こうした情報は、プラットフォーム名を明記して記載されています。プラットフォーム名が明記されていない情報は、すべてのプラットフォームに適用されます。

対象読者

このマニュアルに記載される内容は、Java ES ソフトウェアをインストールする評価担当者、システム管理者、およびソフトウェア技術者を対象としています。このマニュアルは、次の事項に習熟している方を対象に記述されています。

- エンタープライズレベルのソフトウェア製品のインストール
- サポートする Java ES プラットフォーム上のシステム管理とネットワークング
- クラスタリングモデル (クラスタリングソフトウェアをインストールする場合)
- インターネットと World Wide Web

このマニュアルの内容

このマニュアルには、Java ES ソフトウェアのインストールに関連する参照情報が含まれています。情報の多くは、付録などでよく使用されるリストや表の形式になっています。このマニュアルには、操作手順の説明は含まれません。次に示す章は、一般的な使用順序に合わせて配列されています。

- **第1章。** Java ES 配布バンドルは、オペレーティングシステム順に掲載されています。各表には、該当するオペレーティングシステムと関係のあるすべてのバンドルが含まれます。Java ES ソフトウェアの取得方法については、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Installation Guide for UNIX』の「Getting the Java ES Software」を参照してください。

- **第2章**。製品コンポーネントのインストール時に、Java ES インストーラにより、デフォルトのインストールディレクトリおよびポートが使用されます。たいていの場合、代替の場所およびポートの選択が可能です。
- **第3章**。「今すぐ設定」インストールタイプの設定情報は、製品コンポーネントごとに示されます。各設定情報は、自動(サイレント)インストールの状態ファイルスクリプトで使用される状態ファイルパラメータで識別されます。表内では、これらの状態ファイルパラメータはUNIX 対話式インストールの画面に表示されるフィールド名とともに表記されています。インストール後の設定については、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Installation Guide for UNIX』の第6章「Completing Postinstallation Configuration」を参照してください。
- **第4章**。設定ワークシートは、設定情報の章に記載されている情報に対応します。ワークシートを使って情報を収集してから、インストールを実行してください。
- **第5章**。インストール済みの Java ES パッケージが、オペレーティングシステムによりリスト表示されます。オペレーティングシステムに対応する節ごとに、次のようにパッケージが表示されます。
 - インストール
 - アンインストール
 - 製品コンポーネント
 - 共有コンポーネント
 - ローカライズされたバージョン

Java ES ドキュメントセット

Java ES ドキュメントセットには、配備計画およびシステムインストールに関する情報が記載されています。システムドキュメントの URL は <http://docs.sun.com/coll/1286.3> です。Java ES の概要を理解するため、次の表に紹介されているマニュアルを、記載されている順番に参照してください。

表 P-1 Java Enterprise System のマニュアル

マニュアルタイトル	内容
『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Release Notes』	既知の問題など、Java ES に関する最新の情報が記載されています。ほかには、ReleaseNotes Collection (http://docs.sun.com/coll/1315.2) に記載された、コンポーネントごとのリリースノートがあります。
『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 技術の概要』	Java ES の技術的および概念的な基礎について説明します。コンポーネント、アーキテクチャー、プロセス、および機能について説明しています。

表 P-1 Java Enterprise System のマニュアル (続き)

マニュアルタイトル	内容
『Sun Java Enterprise System Deployment Planning Guide 』	Java ES に基づく企業配備ソリューションの計画および設計に関する情報を提供します。配備の計画および設計に関する基本的概念と原則を示し、ソリューションのライフサイクルについて説明し、Java ES に基づくソリューションを計画する際に使用する高度な例と戦略を提供します。
『Sun Java Enterprise System 5 インストール計画ガイド 』	Java ES の配備に関し、ハードウェア、オペレーティングシステム、およびネットワーク面の実装仕様の開発に役立つ情報を提供します。インストールおよび設定計画を遂行する上で注意すべきコンポーネントの依存関係などの問題について説明します。
『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Installation Guide for UNIX 』	Java ES のインストールのプロセスについて説明します。また、インストール後にコンポーネントを設定する方法、および設定したコンポーネントが正常に機能するかどうかを確認する方法についても説明します。
『Sun Java Enterprise System 5 Installation Guide for Microsoft Windows 』	
『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 インストールリファレンス (UNIX 版) 』	設定パラメータに関する追加情報を提供し、設定計画で使用するワークシートを用意しています。さらに、Solaris オペレーティングシステムおよび Linux オペレーティング環境におけるデフォルトのディレクトリやポート番号などの参考情報を一覧にして示します。
『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX 』	以前にインストールしたバージョンから Java ES 5 Update1 にアップグレードする手順について、説明します。
『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for Microsoft Windows 』	
『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide 』	各製品コンポーネント用の Monitoring Framework を設定する方法、および Monitoring Console を使用したリアルタイムデータの表示方法や監視規則の作成方法について説明します。
『Sun Java Enterprise System Glossary 』	Java ES ドキュメントで使用する用語について説明します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>machine_name% you have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>machine_name% su</code> <code>Password:</code>
aabbcc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、`filename` は省略してもよいことを示しています。

|は区切り文字(セパレータ)です。この文字で分割されている引数のうち1つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します(例:Shift キーを押します)。ただし、キーボードによってはEnter キーがReturn キーの動作をします。

ダッシュ(-)は2つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D はControl キーを押したままD キーを押すことを意味します。

コマンド例のシェルプロンプト

次の表は、デフォルトのシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを示しています。

表 P-3 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX および Linux システムの C シェル	machine_name%
UNIX および Linux システムの C シェルのスーパーユーザー	machine_name#
UNIX および Linux システムの Bourne シェルと Korn シェル	\$
UNIX および Linux システムの Bourne シェルと Korn シェルのスーパーユーザー	#

記号の表記規則

次の表に、このマニュアルで使用する記号の表記規則を示します。

表 P-4 記号の表記規則

記号	説明	例	意味
[]	オプションの引数およびコマンドオプションを含みます。	ls [-l]	-l オプションは省略可能です。
{ }	必須コマンドオプションの選択肢を含みます。	-d {y n}	-d オプションは、引数 y または n のいずれかを使用する必要があります。
\${ }	変数の参照を示します。	\${com.sun.javaRoot}	com.sun.javaRoot 変数の値を参照します。

表 P-4 記号の表記規則 (続き)

記号	説明	例	意味
-	同時に押すキーを連結します。	Control-A	Control キーと A キーを同時に押します。
+	連続して押すキーを連結します。	Ctrl+A+N	Control キーを押し、放してから、以後のキーを続けて押します。
→	グラフィカルユーザーインタフェースで選択するメニュー項目を示します。	「ファイル」→「新規」 →「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから、「テンプレート」を選択します。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよび トレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

Java ES の配布内容

この章の表に、Java ES ソフトウェアの配布内容の一覧を示します。バンドル名の中に、そのバンドルが対応するオペレーティングシステムが示されていますたとえば、`java_es-5u1-ga-solaris-sparc.zip` は、Solaris SPARC プラットフォーム版の Java ES 5 一般リリースを示します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 19 ページの「[Solaris SPARC の配布内容](#)」
- 22 ページの「[Solaris x86 の配布内容](#)」
- 24 ページの「[Linux の配布内容](#)」

Solaris SPARC の配布内容

表 1-1 Solaris SPARC の配布内容

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Solaris SPARC プラットフォーム	すべての製品および共有コンポーネント インストーラ アンインストーラ	<code>java_es-5u1-ga-solaris-sparc.zip</code>

表 1-1 Solaris SPARC の配布内容 (続き)

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Application Platform Suite	Access Manager	java_es-5u1-appsuite-ga-solaris-sparc.zip
	Application Server	
	Directory Server	
	Directory Preparation Tool	
	HADB	
	Java DB	
	Message Queue	
	Portal Server	
	Portal Server Secure Remote Access	
	Service Registry	
	Monitoring Console	
	Web Proxy Server	
	Web Server	
	すべての共有コンポーネント	
	インストーラ	
	アンインストーラ	
Availability Suite	Sun Cluster ソフトウェア	java_es-5u1-availsuite-ga-solaris-sparc.zip
	Sun Cluster Agents for Java ES	
	Sun Cluster Geographic Edition	
	すべての共有コンポーネント	
	インストーラ	
	アンインストーラ	

表 1-1 Solaris SPARC の配布内容 (続き)

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Identity Management Suite	Access Manager	java_es-5u1-identsuite-ga-solaris-sparc.zip
	Application Server	
	Directory Server EE (Directory Server および Directory Proxy Server を含む)	
	Directory Preparation Tool	
	HADB	
	Java DB	
	Message Queue	
	Monitoring Console	
	Web Server	
	すべての共有コンポーネント	
	インストーラ	
	アンインストーラ	
Web Infrastructure Suite	Access Manager	java_es-5u1-websuite-ga-solaris-sparc.zip
	Application Server	
	Directory Server EE (Directory Server および Directory Proxy Server を含む)	
	Directory Preparation Tool	
	HADB	
	Java DB	
	Message Queue	
	Monitoring Console	
	Service Registry	
	Web Proxy Server	
	Web Server	
	すべての共有コンポーネント	
	インストーラ	
	アンインストーラ	

Solaris x86 の配布内容

表 1-2 Solaris x86 の配布内容

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Solaris x86 プラットフォーム	すべての製品および共有コンポーネント	java_es-5u1-ga-solaris-x86.zip
	インストーラ	
	アンインストーラ	
Application Platform Suite	Access Manager	java_es-5u1-appsuite-ga-solaris-x86.zip
	Application Server	
	Directory Server	
	Directory Preparation Tool	
	HADB	
	Java DB	
	Message Queue	
	Portal Server	
	Portal Server Secure Remote Access	
	Service Registry	
	Monitoring Console	
	Web Proxy Server	
	Web Server	
	すべての共有コンポーネント	
	インストーラ	
	アンインストーラ	

表 1-2 Solaris x86 の配布内容 (続き)

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Availability Suite	Sun Cluster ソフトウェア Sun Cluster Agents for Java ES Sun Cluster Geographic Edition すべての共有コンポーネント インストーラ アンインストーラ	java_es-5u1-availsuite-ga-solaris-x86.zip
Identity Management Suite	Access Manager Application Server Directory Server EE (Directory Server および Directory Proxy Server を含 む) Directory Preparation Tool HADB Java DB Message Queue Monitoring Console Web Server すべての共有コンポーネント インストーラ アンインストーラ	java_es-5u1-identsuite-ga-solaris-x86.zip

表 1-2 Solaris x86 の配布内容 (続き)

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Web Infrastructure Suite	Access Manager Application Server Directory Server EE (Directory Server および Directory Proxy Server を含 む) Directory Preparation Tool HADB Java DB Message Queue Monitoring Console Service Registry Web Proxy Server Web Server すべての共有コンポーネン ト インストーラ アンインストーラ	java_es-5u1-websuite-ga-solaris-x86.zip

Linux の配布内容

表 1-3 Linux x86 の配布内容

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Linux x86 プラットフォーム	すべての製品および共有コ ンポーネント インストーラ アンインストーラ	java_es-5u1-ga-linux-x86.zip

表 1-3 Linux x86 の配布内容 (続き)

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Application Platform Suite	Access Manager	java_es-5u1-appsuite-ga-linux-x86.zip
	Application Server	
	Directory Server	
	Directory Preparation Tool	
	HADB	
	Java DB	
	Message Queue	
	Portal Server	
	Portal Server Secure Remote Access	
	Service Registry	
	Monitoring Console	
	Web Proxy Server	
	Web Server	
	すべての共有コンポーネント	
	インストーラ	
	アンインストーラ	

表 1-3 Linux x86 の配布内容 (続き)

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Identity Management Suite	Access Manager Application Server Directory Server EE (Directory Server および Directory Proxy Server を含 む) Directory Preparation Tool HADB Java DB Message Queue Monitoring Console Web Server すべての共有コンポーネン ト インストーラ アンインストーラ	java_es-5u1-identsuite-ga-linux-x86.zip

表 1-3 Linux x86 の配布内容 (続き)

配布内容	含まれる内容	バンドル名
Web Infrastructure Suite	Access Manager Application Server Directory Server EE (Directory Server および Directory Proxy Server を含 む) Directory Preparation Tool HADB Java DB Message Queue Monitoring Console Service Registry Web Proxy Server Web Server すべての共有コンポーネン ト インストーラ アンインストーラ	java_es-5u1-websuite-ga-linux-x86.zip

デフォルトのインストールディレクトリとポート

この章では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラがデフォルトで使用するインストールディレクトリおよびポート番号を示します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [29 ページの「デフォルトのインストールディレクトリ」](#)
- [32 ページの「デフォルトのポート番号」](#)

デフォルトのインストールディレクトリ

Java ES インストーラは、特に指定しないかぎり、製品コンポーネントをデフォルトディレクトリに自動的にインストールします。たいいていの場合、インストール時またはインストール後に設定値を指定することで、デフォルトの位置を別の位置に変更できます。製品コンポーネントをインストールする際、可能であればデフォルトのインストールディレクトリを使用してください。別のインストールディレクトリを指定する場合は、設定時にコンポーネントがインストールディレクトリを常に認識するようにする必要があります。

注- 次のコンポーネントのインストールディレクトリは変更できません。HADB、JavaDB、Message Queue、Monitoring Console、Sun Cluster コンポーネント。

次の表は、Java ES 製品コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリのリストを示します。

表 2-1 製品コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリ

ラベルと状態ファイルのパラメータ	デフォルトディレクトリ	コメント
Access Manager CMN_IS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWam Linux の場合: /opt/sun/identity	
Application Server CMN_AS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合: /opt/sun/appserver	Application Server のユーティリティ、実行ファイル、およびライブラリが含まれます。
Application Server ドメイン CMN_AS_DOMAINDIR	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains	管理ドメインが作成されるデフォルトの領域。
Directory Preparation Tool CMN_DSSETUP_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWcomds Linux の場合: /opt/sun/comms/dssetup	
Directory Server コア DSEE_BASE	Solaris OS の場合: /opt/SUNWdsee/ds6 Linux の場合: /opt/sun/ds6	別の場所に配置される Directory Server EE のサブコンポーネントには、Directory Server コア、Directory Service Control Center、および Directory Proxy Server が含まれます。
Directory Service Control Center DSEE_BASE	Solaris OS の場合: /opt/SUNWdsee/dscc6 Linux の場合: /opt/sun/dscc6	
Directory Proxy Server DSEE_BASE	Solaris OS の場合: /opt/SUNWdsee/dps6 Linux の場合: /opt/sun/dps6	
Directory Server インスタンスディレクトリ DSEE_INSTANCE_DIR	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWdsee/dsins1 Linux の場合: /var/opt/sun/dsins1	
HADB CMN_HADB_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWhadb Linux の場合: /opt/SUNWhadb	HADB のインストール場所は、Java ES インストール時には再配置できません。
インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィールド、または状態ファイルのパラメータは存在しません。	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWhadb Linux の場合: /var/opt/SUNWhadb	HADB のリポジトリデータとログの場所。
	Solaris OS の場合: /etc/opt/SUNWhadb Linux の場合: /etc/opt/SUNWhadb	HADB 管理エージェント設定ファイル
	Solaris OS および Linux の場合: /etc/init.d/ma-initd	HADB 管理エージェント起動スクリプト

表 2-1 製品コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリ (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	デフォルトディレクトリ	コメント
Java DB JAVADB_BASDIR インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィールド、または状態ファイルのパラメータは存在しません。	Solaris の場合: /opt/SUNWjavadb Linux の場合: /opt/sun/javadb	
Message Queue インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィールド、または状態ファイルのパラメータは存在しません。	なし	Solaris OS の場合: /usr/bin /usr/share/lib /usr/share/lib/imq /etc/imq /var/imq /usr/share/javadoc/imq /usr/demo/imq /opt/SUNWimq Linux の場合: /opt/sun/mq /etc/opt/sun/mq /var/opt/sun/mq
Monitoring Console CMN_MC_INSTALLDIR インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィールド、または状態ファイルのパラメータは存在しません。	Solaris OS の場合: /opt/SUNWjesmc Linux の場合: /opt/sun/jesmc	
Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWportal Linux の場合: /opt/sun/portal	
Portal Server Secure Remote Access CMN_SRA_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWportal Linux の場合: /opt/sun/portal	Portal Server Secure Remote Access コアは、Portal Server と同じディレクトリにインストールする必要があります。
Service Registry CMN_REG_SERVER_ROOT	Solaris OS の場合: /opt/SUNWsrcv-registry Linux の場合: /opt/sun/srcv-registry	

表 2-1 製品コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリ (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	デフォルトディレクトリ	コメント
Sun Cluster インストールディレクトリを変更できないため、インストーラのフィード、または状態ファイルのパラメータは存在しません。	なし	Sun Cluster コンポーネントは、Solaris OS でのみサポートされています。 Sun Cluster ソフトウェアは、Solaris OS 上の次の場所にインストールされます。 / /usr/opt /usr/cluster
Web Proxy Server CMN_WPS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWproxy Linux の場合: /opt/sun/webproxyserver	
Web Server ディレクトリ CMN_WS_INSTALLDIR	Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr7 Linux の場合: /opt/sun/webserver7	
Web Server インスタンスディレクトリ CMN_WS_INSTANCEDIR	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7 Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7	

デフォルトのポート番号

Java ES インストーラは、ポート番号の指定をユーザーに求める際、使用中のポートの実行時チェックを実行して適切なデフォルト値を表示します。別のコンポーネント、または同じ製品コンポーネントの別のインスタンスがデフォルトのポート番号を使用している場合、インストーラは別の値を示します。

次の表は、Java ES 製品コンポーネントのデフォルトのポート番号および各ポートの目的を示しています。

注 - Portal Server は、配備先の Web コンテナのポート番号付けを使用するため、この表には含まれません。

表 2-2 デフォルトのポート番号

製品コンポーネント	ポート	目的
Access Manager	58946	UNIX 認証ヘルパー
	58943	セキュリティー保護された ID 認証ヘルパー (Solaris SPARC のみ)
Application Server	8080	標準インスタンスの HTTP ポート
	3700	標準の IIOP ポート
	4849	管理サーバーの HTTPS ポート
	7676	標準の Message Queue ポート
	8686	JMX ポート
	8181	標準インスタンスの HTTPS ポート
共通エージェントコンテナ	11162	JMX ポート (TCP)
	11161	SNMP アダプタポート (UDP)
	11162	トラップ用 SNMP アダプタポート (UDP)
	11163	Commandstream アダプタポート (TCP)
	11164	RMI 接続ポート (TCP)
Sun Cluster および Sun Cluster Geographic Edition 用の共通エージェントコンテナ	10162	JMX ポート (TCP)
	10161	SNMP アダプタポート (UDP)
	10162	トラップ用 SNMP アダプタポート (UDP)
	10163	Commandstream アダプタポート (TCP)
	10164	RMI 接続ポート (TCP)
Directory Proxy Server	389	標準の LDAP リスナー
	636	LDAPS over SSL
Directory Server	389	標準の LDAP リスナー
	636	LDAPS over SSL
Directory Server Control Center	6789	Sun Java Web コンソールリスナー
HADB	1862	管理エージェントのポート (JMX)
	15200	デフォルトのポートベース

表 2-2 デフォルトのポート番号 (続き)

製品コンポーネント	ポート	目的
Java DB	1527	Apache Derby と兼用
Message Queue	80	標準の HTTP ポート
	7676	ポートマッパー
	7674	HTTPS トンネリングサーブレットポート
	7675	HTTP トンネリングサーブレットポート
Monitoring Console	6789	Sun Java Web コンソール経由でのアクセス
Monitoring Framework	8765	Master Agent Web サービスアダプタ用の Job Factories ポート
	11161	Monitoring Framework 用の SNMP ポート
	11164	Monitoring Framework 用の RMI ポート
	54320	Monitoring Framework 発見プロトコル用のマルチキャストポート
Portal Server Secure Remote Access	8080	標準の HTTP ポート
	443	HTTP over SSL
	10443	Rewriter プロキシポート
	10555	Netlet プロキシポート
Service Registry	6480	HTTP ポート
	6443	HTTPS ポート
	6484	Message Queue ポート
	6485	IIOP ポート
	6486	IIOP SSL ポート
	6487	IIOP 相互認証ポート
	6488	JMX ポート
	6489	Application Server ドメインの管理ポート

表 2-2 デフォルトのポート番号 (続き)

製品コンポーネント	ポート	目的
Sun Cluster ソフトウェア	23	Sun Fire 15000 システムコントローラ用に Telnet ポート 23 を使用します
	161	SNMP (Simple Network Management Protocol) エージェント通信ポート
	3000	SunPlex インストーラポート
	5000-5010	コンソールアクセスポート (物理ポート番号に 5000 を加算。)
	6789	Sun Java Web コンソールを介して SunPlex Manager にアクセスします
	8059-8062	クラスタプライベート相互接続
Web Proxy Server	8888	管理ポート
	8080	プロキシインスタンスポート
Web Server	8800	管理 HTTP ポート
	8989	管理 SSL ポート。管理サーバーの場合、SSL ポートは必須、HTTP ポートはオプションです。
	80	インスタンス HTTP ポート

設定情報

この章では、インストール時にコンポーネントを設定するために、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラに指定する必要がある情報について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 37 ページの「この章の利用方法」
- 41 ページの「共通設定」
- 43 ページの「Access Manager 設定情報」
- 57 ページの「Access Manager SDK 設定情報」
- 62 ページの「Application Server の設定情報」
- 65 ページの「Directory Server 設定情報」
- 67 ページの「HADB の設定情報」
- 68 ページの「Portal Server の設定情報」
- 76 ページの「Portal Server Secure Remote Access の設定情報」
- 81 ページの「Web Proxy Server の設定情報」
- 82 ページの「Web Server の設定情報」
- 87 ページの「状態ファイルのみで使用されるパラメータ」

この章の利用方法

この章では、インストール時に(「今すぐ設定」設定オプションを使用して)設定可能な製品コンポーネントの設定情報について説明します。この章は、[第4章](#)に記載されているワークシートとともに使用してください。

「あとで設定」オプションを使用したインストール

「あとで設定」インストールタイプを選択する場合、インストール時に設定する必要はほとんどありません。

注-Java ES インストーラでは設定できないため、インストール後に設定する必要があるコンポーネントには、Directory Proxy Server、Java DB、Monitoring Console、Service Registry、および Sun Cluster コンポーネントがあります。

インストールを実行したあと、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Installation Guide for UNIX』の第6章「Completing Postinstallation Configuration」で、これらの製品コンポーネントの設定方法を参照してください。

「今すぐ設定」オプションを使用したインストール

「今すぐ設定」オプションを使用する場合、Java ES のインストーラにより、選択されたコンポーネントの設定ページが表示されます。インストール時に、このページを使って設定できます。デフォルトの情報をそのまま使用することも、別の情報を入力することもできます。別の情報を指定する場合は、設定時にコンポーネントがそのディレクトリまたはポートを常に認識するようにする必要があります。「今すぐ設定」インストールのデフォルトの共通サーバー設定については、[41 ページ](#)の「**共通設定**」を参照してください。個別のコンポーネントコンフィギュレータを使用して、追加の変更を加えることもできます。

たいていの場合、インストール時に設定可能なコンポーネントの設定をインストール後に完了する際、このマニュアルの表とワークシートおよび『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Installation Guide for UNIX』の第6章「Completing Postinstallation Configuration」の説明を参照することが役立ちます。

インストーラにより提供される設定情報

インストールセッションの最後に、インストール中に設定された設定値がサマリーファイルに記録されます。このファイルは、インストーラの最後のページ、またはこのファイルが保存されている次のディレクトリから表示することができます。

Solaris OS の場合: /var/sadm/install/logs

Linux の場合: /var/opt/sun/install/logs

「今すぐ設定」設定情報の表の使用

この章に示す表には、「ラベルと状態ファイルのパラメータ」および「説明」という2つの列があります。「ラベルと状態ファイルのパラメータ」列には、次の情報が含まれます。

- ラベル:対話的グラフィカルインストーラのページ内の情報を識別するためのテキスト。これは、通常は入力フィールドに付けられたラベルです。テキストベースのインストーラでも、同じ用語が使用されます。
- 状態ファイルのパラメータ:状態ファイルのパラメータをキーとして使用して、サイレントインストール状態ファイル内の情報を識別できます。状態ファイルのパラメータは、大文字のモノスペースフォントで表示されます。たとえば、`AS_ADMIN_USER_NAME` のようになります。

ヒント-パラメータの使用方法を理解するには、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Installation Guide for UNIX』の付録C「Example State File」で示されている状態ファイルの例を検討するのがよい方法です。

「説明」列には、「ラベルと状態ファイルのパラメータ」列のパラメータに関する説明が含まれます。パラメータにデフォルト値が設定されている場合は、そのデフォルト値を示します。説明列で、サイレントモードの状態ファイル用に別の値が示される場合を除き、インストーラのすべてのモードにデフォルト値が適用されます。状態ファイルの値は、特に明記されていないかぎり大文字と小文字が区別されます。パラメータに適用されるその他の情報があれば、例、パス、そのパラメータについての注意事項を説明した注記などの情報が示されます。

この章の情報を参考にして、「今すぐ設定」インストールの実行中にインストーラから要求される設定情報を入力するには、次のようにします。

1. この章の中で、該当する製品コンポーネントについて説明している節を特定します。
2. 表示されているインストーラページに対応する表を探します。表には、インストーラのそれぞれのページに含まれるすべてのフィールドと質問が記載されています。
3. この章で状態ファイルのパラメータに関する情報を参照するには、次のようにします。
 - オンラインガイドを使用している場合は、HTML または PDF の検索機能を使用してパラメータ文字列を検索します。
 - 印刷されているマニュアルを使用している場合は、索引を参照します。索引には、各パラメータ名の項目が記載されています。実際のパラメータ名または「状態ファイルパラメータ」の項目内を参照してください。

設定で使用する用語

インストールおよび設定時に、さまざまなタイプのドメイン、組織、および関連する設定情報の値を指定するように求められます。

- **DNS (Domain Name System)**。DNS (Domain Name System) は、分散インターネットディレクトリサービスです。たいていの場合、DNS は、ドメイン名と IP アドレス間の変換および電子メールの配信を制御するために使用されます。
- **DNS ドメイン名**。DNS ドメイン名は、ネットワーク上のサーバーのグループを識別します。ドメイン名の例: `example.com`、`red.example.com`
- **完全修飾ドメイン名 (FQDN: Fully Qualified Domain Name)**。FQDN は、サーバー、ルーターなどのネットワークデバイス上に存在するネットワークインタフェースの TCP/IP アドレスに対応する、人間に解読可能な名前です。サーバーの FQDN には、ホスト名とドメイン名の両方が含まれます。サーバーの FQDN の例: `myComputer.example.com`
- **ホスト名**。ホスト名は、ネットワーク上でサーバーを識別する一意の名前です。ホスト名は、サーバーのローカル名と組織のドメイン名の組み合わせで表現できます。これは、サーバーの FQDN でもあります。ドメインのコンテキスト内では、ホスト名をローカル名だけで表せます。これは、ローカル名がドメイン内部で一意でなければならないためです。ホスト名の例:
 - FQDN 表現: `myComputer.red.example.com`
 - `red.example.com` ドメイン内で一意のローカル名表現: `myComputer`
- **設定ディレクトリ**。さまざまな管理ドメインの設定情報を格納する Directory Server のインスタンス。管理サーバーは、これらのドメインを管理する際に、設定ディレクトリにアクセスします。設定情報を保持するサブツリーのベースサフィックスは、常に `o=NetscapeRoot` になります。
- **ユーザー/グループディレクトリ**。LDAP 階層内の組織情報を格納する Directory Server のインスタンス。通常、組織は、LDAP 階層内の DNS ドメイン名で表現されます。階層内の各組織には、人、組織単位、プリンタ、ドキュメントなどを表すエントリを含めることができます。
- **管理ドメイン**。Directory Server 設定ディレクトリサーバー内で表現され、Sun Java System サーバーコンソールで管理されるサーバーのセット。通常、管理ドメインは、LDAP 階層内で DNS ドメイン名を使用して表現されますが、任意の名前を使用して、管理ドメインを構成するサーバーグループを表現できます。
- **電子メールドメイン**。電子メールのルーティングに使用される DNS 内の一意のドメイン。組織の電子メールドメインには DNS ドメイン名を使用できますが、別のドメインを使用して電子メールをルーティングすることも可能です。たとえば、DNS ドメインが `example.com` で、電子メールドメインが `sfbay.example.com` などです。Sun の LDAP スキーマ 2 では、電子メールドメインは、ユーザー/グループディレクトリで組織の属性として表現されます。

- 認証ドメイン。Access Manager では、トラストサークルは認証ドメインとして実装されます。認証ドメインは DNS ドメインではありません。Access Manager では、認証ドメインは、アイデンティティを連携する目的でグループ化されるエンティティを表します。
- 組織 DN。ユーザー/グループディレクトリの LDAP 階層内の組織の一意名。通常、組織は、o、ou、または dc LDAP 属性を使用して、LDAP 階層内の DNS ドメイン名で表現されます。組織には、サブ組織を含めることができます。
- ディレクトリマネージャー。UNIX のスーパーユーザーに相当する、権限のある Directory Server 管理者。デフォルトのディレクトリマネージャー DN は cn=Directory Manager ですが、これは変更可能です。インストールおよび設定時に、ディレクトリマネージャー DN およびパスワードを指定して、LDAP 設定を変更する必要があります。

共通設定

「今すぐ設定」オプションを使用して製品コンポーネントをインストールする場合、インストーラにより表示されるページを使って、インストール時の設定で一部の共通設定がどのように処理されるかを指定できます。

- [41 ページの「パスワード選択」](#)
- [42 ページの「共通サーバー設定」](#)



注意-サイレントインストールで作成される状態ファイルでは、管理者のパスワードなどの機密データを変数を使って指定できます。配備しても安全なように、ファイルが保護されていることを確認してください。

パスワード選択

「今すぐ設定」インストールでは、「管理者アカウント設定情報の指定」画面から、管理者設定を使用するすべての製品コンポーネントに対して単一の管理者アカウントおよびパスワードを指定できます。

表 3-1 パスワード選択

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
デフォルトの管理者アカウントとパスワードを使用する場合に選択します。 USE_DEFAULT_PASSWORD	「今すぐ設定」インストールの場合、すべての製品コンポーネントに対して単一の管理者アカウントおよびパスワードを指定できます。これはデフォルトで有効です。このまま受け入れると、後続の設定ページでこのデータの入力は求められません。 製品コンポーネントごとに異なる管理者アカウントを使用する場合は、コンポーネントの設定ページで管理者アカウントとパスワードの入力が求められます。 デフォルト値は true です。 注意: Java ES インストーラでは、管理パスワードに、空白文字および ; & () ! < > ' " \$ ^ \ # / , @ % 記号は使用できません。

共通サーバー設定

共通サーバー設定は、設定を使用する製品コンポーネントのデフォルト値を指定する場合に使用します。

インストーラの設定ページで「共有デフォルト値」という表記は、その設定が「共通サーバー設定」ページで設定されたデフォルト値であることを示します。デフォルト値をそのまま使用することも、設定中の製品コンポーネントに固有の値を入力することによってデフォルト値を変更することもできます。

表 3-2 共通サーバー設定

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 CMN_HOST_NAME	Java ES コンポーネントのインストール先ホストのホスト名。 hostname コマンドの出力。例: thishost
DNS ドメイン名 CMN_DOMAIN_NAME	インストール先ホストのドメイン。ローカル DNS サーバーに登録されている、このコンピュータのドメイン名。形式は subdomain.domain.com です。例: example.com
ホスト IP アドレス CMN_IPADDRESS	インストール先ホスト (ローカルホスト) の IP アドレス。例: 127.51.91.192

表 3-2 共通サーバー設定 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザーID CMN_ADMIN_USER	インストールされるすべてのコンポーネントの管理者のデフォルトユーザー ID。例: admin 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
管理者パスワード CMN_ADMIN_PASSWORD	インストールされるすべてのコンポーネントの管理者のデフォルトパスワード。 デフォルト値は存在しません。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。 注意: Java ES インストーラでは、管理パスワードに、空白文字および ; & () ! < > ' " \$ ^ \ # / , @ % 記号は使用できません。
システムユーザー CMN_SYSTEM_USER	コンポーネントプロセスの実行に適用されるユーザー ID (UID)。 デフォルト値は root です。
システムグループ CMN_SYSTEM_GROUP	システムユーザーのグループ ID (GID)。 デフォルト値は root です。

Access Manager 設定情報

Java ES インストーラでは、Access Manager の次のサブコンポーネントをインストールできます。

- [44 ページの「Access Manager 管理情報」](#)
- [45 ページの「Access Manager Web コンテナ情報」](#)
- [48 ページの「Access Manager サービス」](#)
- [54 ページの「Access Manager: Directory Server 情報」](#)
- [55 ページの「Access Manager プロビジョニングされているディレクトリの情報」](#)

注 - Access Manager SDK はアイデンティティ管理とポリシーサービスコアの一部として自動的にインストールされますが、SDK はリモートホストに個別にインストールすることもできます。Access Manager SDK の個別のインストールについては、[57 ページの「Access Manager SDK 設定情報」](#)を参照してください。

Access Manager 管理情報

表 3-3 Access Manager 管理情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールタイプ AM_REALM	インストール時のインストールタイプとしてレルムモードを使用するかどうかを示します。 インストールタイプは、その他のコンポーネントとの相互運用性のレベルを示します。「レルムモード (Version 7.x スタイル)」または「旧バージョンモード (Version 6.x スタイル)」のいずれかを選択します。デフォルト値は「Disabled」で、旧バージョンモードが使用されます。(レルムモードを使用する場合はAM_REALMを「Enabled」に、旧バージョンモードを使用する場合は「Disabled」に設定する。) 注意: Access Manager を Portal Server とともにインストールする場合は、Access Manager のレルムモード (Access Manager 7.x 互換) または旧バージョンモード (6.x 互換) のいずれかを選択できます。 Portal Server をインストールする場合は、Directory Server および Access Manager SDK がすでにインストールされて設定されている場合にのみ、レルムモードを使用できます。 Communications 製品を使用している場合は、旧バージョンモードが必要です。
管理者ユーザー ID IS_ADMIN_USER_ID	Access Manager の最上位管理者。このユーザーは、Access Manager が管理するすべてのエントリに対する無制限のアクセス権を持ちます。 デフォルト名の amadmin を変更することはできません。これにより、Access Manager 管理者のロールおよび権限の作成と Directory Server へのマッピングが正しく行われることが保証されるため、ユーザーはインストール後すぐに Access Manager にログオンできます。
管理者パスワード IS_ADMINPASSWD	amadmin ユーザーのパスワード。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。
LDAP ユーザー ID IS_LDAP_USER	LDAP サービス、Membership サービス、および Policy サービスに対するバインド DN ユーザー。このユーザーは、Directory Server のすべてのエントリに対する読み取りおよび検索アクセス権を持ちます。 デフォルトユーザー名の amldapuser は変更できません。

表 3-3 Access Manager 管理情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
LDAP パスワード IS_LDAPUSERPASSWD	amldapuser ユーザーのパスワード。このパスワードを amadmin ユーザーのパスワードと同じにすることはできません。有効な任意のディレクトリサービスのパスワードを指定できます。
パスワードの暗号鍵 AM_ENC_PWD	Access Manager がユーザーパスワードの暗号化に使用する文字列。 対話式インストーラは、デフォルトのパスワード暗号化鍵を生成します。デフォルト値を受け入れることも、J2EE 乱数発生関数の生成する任意の鍵を指定することもできます。パスワードの暗号鍵は、空白にすることも、12 文字以上の文字にすることもできます。 Access Manager のインストール時にプロパティファイルが更新され、am.encryption.pwd プロパティはこの値に設定されます。プロパティファイルは AMConfig.properties です。このファイルは次の場所にあります。 Solaris OS の場合: /etc/opt/SUNWam/config Linux の場合: /etc/opt/sun/identity/config Access Manager のサブコンポーネントはすべて、アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアが使用するのと同じ暗号化鍵を使用する必要があります。Access Manager のサブコンポーネントを複数のホスト間で配布し、管理コンソールまたは連携管理の共有ドメインサービスをインストールする場合、コアのインストールで生成された am.encryption.pwd の値をコピーし、このフィールドにペーストします。

Access Manager Web コンテナ情報

Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアのサブコンポーネントは、Web コンテナ (通常は Web Server または Application Server) 内で稼働します。

注 - Access Manager は、サードパーティーの Web コンテナ (具体的には IBM WebSphere Application Server または BEA WebLogic Server) でも稼働します。「あとで設定」オプションを使用して Access Manager をインストールしてから、amconfig スクリプトを実行して、インストール後の設定を行います。IBM または BEA のマニュアルに従って、サードパーティーの Web コンテナをインストールおよび設定してください。

インストーラが要求する情報は、Web コンテナの種類によって異なります。

Application Server を Web コンテナとする Access Manager

この節では、Application Server が Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントの Web コンテナである場合に、インストーラに指定する必要がある情報を示します。

表 3-4 Application Server を Access Manager の Web コンテナとして使用する場合

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
セキュリティ保護されたサーバーインスタンスポート IS_IAS81INSTANCE_PORT	Application Server がインスタンスへの接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。 選択内容が Application Server 用に設定したプロトコルと対応していない場合、エラーが表示されます。作業を続ける前にこの状態を解決する必要があります。
セキュリティ保護された管理サーバーポート IS_IAS81_ADMINPORT	Application Server の管理サーバーが接続を待機するポート。 デフォルト値は 4849 です。
管理者ユーザー ID IS_IAS81_ADMIN	Application Server 管理者のユーザー ID デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
管理者パスワード IS_IAS81_ADMINPASSWORD	デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した管理者パスワードです。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。 注意: Java ES インストーラでは、管理パスワードに、空白文字および ; & () ! < > ' " \$ ^ \ # / , @ % 記号は使用できません。

Web Server を Web コンテナとする Access Manager

この節では、Web Server が Access Manager のアイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントの Web コンテナである場合に、インストーラに指定する必要がある情報を示します。

表 3-5 Web Server を Access Manager の Web コンテナとして使用する場合

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 IS_WS_HOST_NAME	ホストの完全修飾ドメイン名。 たとえば、このホストが <code>siroe.example.com</code> の場合、値は <code>siroe.example.com</code> となります。 デフォルト値は、現在のホストの完全修飾ドメイン名です。
管理者ユーザー ID IS_WS_ADMIN_ID	Web Server 管理者のユーザー ID。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
管理者パスワード IS_WS_ADMIN_PASSWORD	Web Server マスター管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した管理者パスワードです。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。 注意: Java ES インストーラでは、管理パスワードに、空白文字および <code> ; () ! < > ' " \$ ^ \ # / , @ %</code> 記号は使用できません。
ドキュメントルートディレクトリ IS_WS_DOC_DIR	Web Server がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリ。 Solaris OS の場合: <code>/var/opt/SUNWwbsvr7/https-hostname.domain/docs</code> Linux の場合: <code>/var/opt/sun/webserver7/https-hostname.domain/docs</code>
Web Server のポート IS_WS_INSTANCE_PORT	Web Server 管理インスタンスが HTTPS 接続を待機するポート。このポートが使用中の場合は、使用可能なポートを選択するよう求められます。 デフォルト値は 80 です。

表 3-5 Web Server を Access Manager の Web コンテナとして使用する場合 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Web Server インスタンスディレクトリ IS_WS_INSTANCE_DIR	Web Server のインスタンスがインストールされたディレクトリへのパス。パスの構文は次のとおりです。 <i>WebServer-base/https- webserver-instancename</i> このセッションで Web Server をインストールする場合、 <i>WebServer-base</i> のデフォルト値は、次に示す Web Server のインスタンスディレクトリです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7 Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7
Web Server プロトコル IS_WS_PROTOCOL	Web Server が Web Server ポート上で待機する際に使用するプロトコル。セキュリティー保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティー保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルト値は HTTP です。

Access Manager サービス

次に示す Access Manager のサブコンポーネントでは、インストーラに指定する Access Manager サービスの情報が異なります。

- 48 ページの「Access Manager Web コンテナ情報」
- 50 ページの「Access Manager コンソールのサービス情報」
- 51 ページの「Access Manager コンソールのインストール(コアがすでにインストールされている場合)」
- 52 ページの「Access Manager コンソールのインストール(コアがまだインストールされていない場合)」
- 54 ページの「連携管理のインストール(コアはインストール済み)」

Access Manager Web コンテナ情報

この節では、Web コンテナの詳細設定を行う際にインストーラに指定する必要のあるサービス情報について説明します。

表 3-6 Web コンテナ指定用の Access Manager サービス情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 IS_SERVER_HOST	Java ES をインストールするホストの完全修飾ドメイン名。 デフォルト値は、ローカルホストの完全修飾ドメイン名です。
サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI	アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI (Uniform Resource Identifier) プレフィックス。この URI は、レルム (AccessManager 7.x 互換) コンソールにアクセスするために使用します。 デフォルト値は <code>amserver</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI	Web コンテナ上の共通ドメインサービスにアクセスするための URI プレフィックス。 デフォルト値は <code>amcommon</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
Cookie ドメイン COOKIE_DOMAIN_LIST	Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に、Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。 この値は、<code>example.com</code> などの単一の最上位ドメインに限定することができます。この場合、セッション ID で <code>example.com</code> のすべてのサブドメインの認証が得られます。 また、<code>.corp.example.com</code>、<code>.sales.example.com</code> のように、コンマで区切ってサブドメインを指定することもできます。この場合、セッション ID でリスト内のすべてのサブドメインの認証が得られます。 リスト内の各ドメインの先頭に、ドット (.) を指定する必要があります。 デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。
パスワード配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	Access Manager を実行する Web コンテナが使用する、ユーザー指定の文字列と対応する配備済みアプリケーション間のマッピングを決定する URI。これは、Access Manager パスワードリセットサービスの URI です。 デフォルト値は <code>ampassword</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。

表 3-6 Web コンテナ指定用の Access Manager サービス情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
コンソールプロトコル CONSOLE_PROTOCOL	Web Server が Web Server ポート上で待機する際に使用するプロトコル。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルト値は HTTP です。

Access Manager コンソールのサービス情報

この節では、インストーラの実行時に指定する必要のある Access Manager コンソールのサービス情報について説明します。

表 3-7 Access Manager コンソールの Access Manager サービス情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理コンソール: 新しいコンソールを配備または既存コンソールを使用 USE_DSAME_SERVICES_WEB_CONTAINER CONSOLE_REMOTE	Access Manager がインストールされるホストの Web コンテナにコンソールを配備するには、新規コンソールの配備を選択します。 レルムモードのリモートホストに配置されている (またはこれから配備する) 既存のコンソールを使用する場合は、「既存コンソールを使用」を選択します。デフォルト値は False です。 どちらの場合も、コンソール配備 URI とパスワード配備 URI を指定します。既存のコンソールを使用する場合は、コンソールホスト名とコンソールポートも指定する必要があります。
コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI	Access Manager の旧バージョンモード (AccessManager 6.x 互換) コンソールに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。旧バージョンモードだけに適用されます。デフォルト値は amconsole です。 注意: AM_REALM が Enabled の場合 (レルムモード 7.x を設定)、CONSOLE_DEPLOY_URI は無視されます。

表 3-7 Access Manager コンソールの Access Manager サービス情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
コンソールホスト名 CONSOLE_HOST	既存のコンソールをホストするサーバーの完全修飾ドメイン名。コンソールを新たに配備する場合は、この値を指定する必要はありません。グラフィカルインストールモードでは、既存のコンソールを使用する場合のみ、このフィールドを編集できます。 デフォルト値には、「ホスト」に指定した値 (IS_SERVER_HOST)、ドット、および共通サーバー設定で指定した「DNS ドメイン名」の値が含まれます。 たとえば、ホストが siroe、ドメインが example.com であれば、デフォルト値は siroe.example.com になります。
コンソールポート CONSOLE_PORT	既存のコンソールが接続を待機しているか、これから待機するポート。0 ～ 65535 の範囲内で、有効かつ未使用の任意のポート番号を使用できます。 コンソールを新たに配備する場合は、この値を指定する必要はありません。グラフィカルインストールモードでは、既存のコンソールを使用する場合のみ、このフィールドを編集できます。 デフォルト値は、次のいずれかの Web コンテナポートで指定した値となります。 ■ Web Server のデフォルト値は 80 です。 ■ Application Server のデフォルト値は 8080 です。

Access Manager コンソールのインストール(コアがすでにインストールされている場合)

この節では、次の両方の条件にあてはまる場合に、インストーラに指定するサービス情報を示します。

- Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントのみをインストールする。
- アイデンティティ管理とポリシーサービスコアサブコンポーネントが同一のホストにインストール済みである。

注 - AM コンソール単体のインストールは、レルムモード (AccessManager 7.x 互換) でのみ実行できます。旧バージョンモード (6.x 互換) では実行できません。

表 3-8 コンソールのみをインストールするための Access Manager サービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI	Access Manager の旧バージョンモード (AccessManager 6.x 互換) コンソールに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。旧バージョンモードだけに適用されます。 デフォルト値は amconsole です。 AM_REALM が Enabled の場合 (レルムモード 7.x を設定)、CONSOLE_DEPLOY_URI は無視されます。
パスワードサービス配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	Access Manager を実行する Web コンテナが使用する、ユーザー指定の文字列と対応する配備済みアプリケーション間のマッピングを決定する URI。これは、Access Manager パスワードリセットサービスの URI です。 デフォルト値は ampassword です。先頭にスラッシュを入力しないでください。

Access Manager コンソールのインストール(コアがまだインストールされていない場合)

この節では、次の両方の条件にあてはまる場合に、インストーラに指定するサービス情報を示します。

- Access Manager 管理コンソールサブコンポーネントのみをインストールする。
- アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが、異なるホストにインストールされる。

表 3-9 Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Access Manager 管理コンソール用の Web コンテナ	
コンソールホスト名 CONSOLE_HOST	インストール先のホストの完全修飾ドメイン名。

表 3-9 Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合) (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
コンソール配備 URI CONSOLE_DEPLOY_URI	Access Manager の旧バージョンモード (AccessManager 6.x 互換) コンソールに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。旧バージョンモードだけに適用されます。デフォルト値は <code>amconsole</code> です。 AM_REALM が Enabled の場合 (レルムモード 7.x を設定)、CONSOLE_DEPLOY_URI は無視されます。
パスワードサービス配備 URI PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	パスワードサービス用の配備 URI。 デフォルト値は <code>ampassword</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
Access Manager サービス用の Web コンテナ	
サービスホスト名 IS_SERVER_HOST	アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントのインストール先ホストの完全修飾ドメイン名。 デフォルト値は、このホストの完全修飾ドメイン名です。デフォルト値は指定形式を示す例としてだけ用い、値を編集して正しいリモートホスト名を指定する必要があります。 状態ファイルでは、リモートホストの完全修飾ドメイン名を指定します。
ポート CONSOLE_PORT	アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが接続を待機するポート。このポートは、Web コンテナが使用する HTTP ポートまたは HTTPS ポートです。
サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI	アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントに関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。この URI は、レルム (AccessManager 7.x 互換) コンソールにアクセスするために使用します。 デフォルト値は <code>amserver</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。

表 3-9 Access Manager コンソールをインストールするためのサービス情報 (コアがまだインストールされていない場合) (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Cookie ドメイン COOKIE_DOMAIN_LIST	Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に、Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。 この値を <code>example.com</code> などの単一の最上位ドメインに限定できます。この場合、セッション ID で <code>example.com</code> のすべてのサブドメインの認証が得られます。 また、<code>.corp.example.com</code> のように、コンマで区切ってサブドメインを指定することもできます。この場合、セッション ID でリスト内のすべてのサブドメインの認証が得られます。 各ドメインの先頭に、ドット (.) を指定する必要があります。 デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。

連携管理のインストール(コアはインストール済み)

この節では、連携管理サブコンポーネントの共有ドメインサービスのみをインストールする場合に、インストーラに指定するサービス情報を示します。

表 3-10 連携管理をインストールするための Access Manager サービス情報 (コアがすでにインストールされている場合)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
共通ドメイン配備 URI CDS_DEPLOY_URI	Web コンテナ上の共通ドメインサービスにアクセスするための URI プレフィックス。 デフォルト値は <code>amcommon</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。

Access Manager: Directory Server 情報

アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアをインストールする場合に、インストーラに指定する情報は次のとおりです。

表 3-11 Access Manager のインストール時に必要となる Directory Server に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server ホスト IS_DS_HOSTNAME	Directory Server が存在するホストを決定するホスト名または値。 デフォルト値は、ローカルホストの完全修飾ドメイン名です。たとえば、ローカルホストが <code>siroe.example.com</code> の場合、デフォルト値は <code>siroe.example.com</code> となります。
Directory Server ポート IS_DS_PORT	Directory Server がクライアント接続を待機するポート。 デフォルト値は 389 です。
Access Manager ディレクトリルートサフィックス IS_ROOT_SUFFIX	Access Manager ルートサフィックスとして設定する識別名 (DN)。 デフォルト値は、このホストの完全修飾ホスト名からホスト名を除いた値に基づきます。たとえば、このホストが <code>siroe.subdomain.example.com</code> の場合、値は <code>dc=subdomain,dc=example,dc=com</code> となります。
ディレクトリマネージャー DN IS_DIRMGRDN	Directory Server への無制限のアクセス権を持つユーザーの DN。 デフォルト値は <code>cn=Directory Manager</code> です。
ディレクトリマネージャーパスワード IS_DIRMGRPASSWD	ディレクトリマネージャーのパスワード。

Access Manager プロビジョニングされているディレクトリの情報

プロビジョニングされたディレクトリの設定に必要な情報は、インストーラがホスト内でプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出するかどうかによって異なります。インストーラは、状態ファイルを生成するとき、プロビジョニングされた既存ディレクトリを検出すると、状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=y` を書き込みます。プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合、インストーラは状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=n` を書き込みます。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出した場合は、次の情報を指定します。

表 3-12 Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR	プロビジョニングされたディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。 デフォルト値は uid です。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出しない場合、プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを選択できます。次の表の最初の質問に対して yes を指定した場合、表に記載されている残りの質問に対しても情報を指定する必要があります。

表 3-13 Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合の設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server にユーザーデータが準備されていますか？ IS_LOAD_DIT	プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを指定します。y または n を指定できます。 デフォルト値は n です。
組織マーカーオブジェクトクラス IS_ORG_OBJECT_CLASS	プロビジョニングされた既存ディレクトリ内で組織に対して定義されているオブジェクトクラス。この値は、この表の最初の項目の値を y に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は SunISManagedOrganization です。
組織ネーミング属性 IS_ORG_NAMING_ATTR	プロビジョニングされている既存ディレクトリ内で組織の定義に使用されるネーミング属性。この値は、この表の最初の項目の値を y に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は o です。
ユーザーマーカーオブジェクトクラス IS_USER_OBJECT_CLASS	プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して定義されているオブジェクトクラス。この値は、この表の最初の項目の値を y に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は inetorgperson です。

表 3-13 Access Manager のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合の設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR	プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。この値は、この表の最初の項目の値を y に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は uid です。

Access Manager SDK 設定情報

Access Manager のサブコンポーネントであるアイデンティティ管理とポリシーサービスコアをインストールすると、Access Manager SDK が自動的にインストールされます。Access Manager SDK は、Access Manager コアサービスから離れたリモートホストに独立した製品コンポーネントとしてインストールすることもできます。

Access Manager SDK をインストールする前に、リモートホストに Access Manager コアサービスがインストールされ、稼働している必要があります。このインストールの実行中に指定する Web コンテナの情報と Directory Server の設定情報は、Access Manager コアサービスのインストール時に指定した Web コンテナ情報および Directory Server 設定情報と一致している必要があります。

注 - インストーラが Web コンテナと Directory Server に関する情報を要求するとき、ローカルホストの設定に基づいたデフォルト値が表示されます。

デフォルト値は形式の例としてだけ使用し、これらの値をそのまま適用しないでください。ここでは、デフォルト値の代わりに、正しいリモート情報を指定する必要があります。

Access Manager SDK を別個の製品コンポーネントとしてインストールする場合は、次の情報を指定する必要があります。

- 57 ページの「[Access Manager SDK 管理情報](#)」
- 59 ページの「[Access Manager SDK Directory Server 情報](#)」
- 59 ページの「[Access Manager SDK プロビジョニングされているディレクトリの情報](#)」
- 61 ページの「[Access Manager SDK Web コンテナ情報](#)」

Access Manager SDK 管理情報

Access Manager SDK のみをインストールする場合、インストーラは次の管理情報を要求します。

表 3-14 Access Manager SDK のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー ID IS_ADMIN_USER_ID	Access Manager の最上位管理者。このユーザーは、Access Manager が管理するすべてのエントリに対する無制限のアクセス権を持ちます。 デフォルト名の amadmin を変更することはできません。これにより、Access Manager 管理者のロールおよび権限の作成と Directory Server へのマッピングが正しく行われることが保証されるため、ユーザーはインストール後すぐに Access Manager にログオンできます。
管理者パスワード IS_ADMINPASSWD	amadmin ユーザーのパスワード。パスワードは 8 文字以上で指定する必要があります。 リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
LDAP ユーザー ID IS_LDAP_USER	LDAP サービス、Membership サービス、および Policy サービスに対するバインド DN ユーザー。このユーザーは、Directory Server のすべてのエントリに対する読み取りおよび検索アクセス権を持ちます。 デフォルトユーザー名の amldapuser は変更できません。
LDAP パスワード IS_LDAPUSERPASSWD	amldapuser ユーザーのパスワード。このパスワードを amadmin ユーザーのパスワードと同じにすることはできません。有効な任意のディレクトリサービスのパスワードを指定できます。 リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
パスワードの暗号鍵 AM_ENC_PWD	Access Manager がユーザーパスワードの暗号化に使用する文字列。 Access Manager のサブコンポーネントはすべて、アイデンティティ管理およびポリシーサービスコアサブコンポーネントが使用するのと同じ暗号化鍵を使用する必要があります。パスワードの暗号鍵は、空白にすることも、12 文字以上の文字にすることもできます。 Access Manager SDK の暗号化鍵を指定するには、次の手順を実行します。 1. コアのインストールで生成された am.encryption.pwd の値をコピーします。 2. コピーした値をこのフィールドにペーストします。

Access Manager SDK Directory Server 情報

ほかの Access Manager サブコンポーネントなしで Access Manager SDK をインストールする場合、インストーラは Directory Server に関する次の情報を要求します。

表 3-15 Access Manager SDK のインストール時に必要な Directory Server に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server ホスト IS_DS_HOSTNAME	Directory Server が存在するホストを決定するホスト名または値。リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
Directory Server ポート IS_DS_PORT	Directory Server がクライアント接続を待機するポート。リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
Access Manager ディレクトリルートサフィックス IS_ROOT_SUFFIX	Directory Server のインストール時に Access Manager のルートサフィックスとして指定した識別名 (DN)。ルートサフィックスは、Access Manager により管理されるディレクトリの一部を示します。リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。 デフォルト値は、このホストの完全修飾ホスト名からホスト名を除いた値に基づきます。たとえば、このホストが <code>siroe.subdomain.example.com</code> の場合、値は <code>dc=subdomain,dc=example,dc=com</code> になります。 デフォルト値は、形式を示す例としてだけ利用します。
ディレクトリマネージャー DN IS_DIRMGRDN	Directory Server への無制限のアクセス権を持つユーザーの DN。リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。 デフォルト値は <code>cn=Directory Manager</code> です。
ディレクトリマネージャーパスワード IS_DIRMGRPASSWD	ディレクトリマネージャーのパスワード。リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。

Access Manager SDK プロビジョニングされているディレクトリの情報

プロビジョニングされたディレクトリの設定に必要な情報は、インストーラがホスト内でプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出するかどうかによって異なります。

インストーラは、状態ファイルを生成するとき、プロビジョニングされた既存ディレクトリを検出すると、状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=y` を書き込み

ます。プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合、インストーラは状態ファイルに `IS_EXISTING_DIT_SCHEMA=n` を書き込みます。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出した場合は、次の情報を指定します。

表 3-16 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ユーザーネーミング属性 <code>IS_USER_NAMING_ATTR</code>	プロビジョニングされたディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。 デフォルト値は <code>uid</code> です。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合

インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出しない場合、プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを選択できます。次の表の最初の質問に対して `yes` を指定した場合、表に記載されている残りの質問に対しても情報を指定する必要があります。

表 3-17 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server にユーザーデータが準備されていますか？ <code>IS_LOAD_DIT</code>	プロビジョニングされた既存ディレクトリを使用するかどうかを指定します。 <code>y</code> または <code>n</code> を指定できます。 デフォルト値は <code>n</code> です。
組織マーカーオブジェクトクラス <code>IS_ORG_OBJECT_CLASS</code>	プロビジョニングされた既存ディレクトリ内で組織に対して定義されているオブジェクトクラス。この値は、この表の最初の項目の値を <code>y</code> に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は <code>SunISManagedOrganization</code> です。
組織ネーミング属性 <code>IS_ORG_NAMING_ATTR</code>	プロビジョニングされている既存ディレクトリ内で組織の定義に使用されるネーミング属性。この値は、この表の最初の項目の値を <code>y</code> に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は <code>o</code> です。

表 3-17 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ユーザーマーカーオブジェクトクラス IS_USER_OBJECT_CLASS	プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して定義されているオブジェクトクラス。この値は、この表の最初の項目の値を y に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は inetorgperson です。
ユーザーネーミング属性 IS_USER_NAMING_ATTR	プロビジョニングされた既存ディレクトリ内でユーザーに対して使用されるネーミング属性。この値は、この表の最初の項目の値を y に設定した場合にだけ使用されます。 デフォルト値は uid です。

Access Manager SDK Web コンテナ情報

Access Manager SDK だけをインストールする場合、インストーラは Web コンテナに関する次の情報を要求します。

表 3-18 Access Manager SDK のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト IS_WS_HOST_NAME	Access Manager コアサービスを実行する Web コンテナのホスト名。リモートホストに Access Manager をインストールするときに指定した値を使用します。 デフォルト値は存在しません。
サービス配備 URI SERVER_DEPLOY_URI	Access Manager に関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI プレフィックス。リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。この URI は、レルム (AccessManager 7.x 互換) コンソールにアクセスするために使用します。 デフォルト値は amserver です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
Cookie ドメイン COOKIE_DOMAIN_LIST	Access Manager がユーザーにセッション ID を付与する場合に、Access Manager がブラウザに返す、信頼できる DNS ドメインの名前。リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。 デフォルト値は、現在のドメインにプレフィックスとしてドット (.) を付加した値となります。

表 3-18 Access Manager SDK のインストール時に必要となる Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Web コンテナのホスト名 IS_SERVER_HOST	Access Manager コアサービスを実行する Web コンテナが存在するホスト名。
Web コンテナポート IS_SERVER_PORT	Access Manager コアサービスを実行する Web コンテナのポート番号。
Web コンテナプロトコル IS_SERVER_PROTOCOL	Access Manager Web コンテナポート上での待機に使用するプロトコル。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルト値は HTTP です。
サービスポート IS_WS_INSTANCE_PORT IS_IAS81INSTANCE_PORT	Access Manager コアサービスを実行する Web コンテナインスタンスのポート番号。Access Manager コアサービスのインストール時に指定したポート番号を使用します。 Web Server のデフォルト値は 80 です。 Application Server のデフォルト値は 8080 です。

Application Server の設定情報

インストール時に、Application Server について次の情報を指定する必要があります。

- 62 ページの「[Application Server 管理情報](#)」
- 63 ページの「[Application Server ノードエージェント情報](#)」
- 64 ページの「[Application Server ロードバランスプラグイン情報](#)」

Application Server 管理情報

表 3-19 Application Server の管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ユーザー名 AS_ADMIN_USER_NAME	Application Server 管理者のユーザー ID デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。

表 3-19 Application Server の管理に関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
パスワード AS_PASSWORD	Application Server の管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。 注意: Java ES インストーラでは、管理パスワードに、空白文字および ; & () ! < > ' “ \$ ^ \ # / , @ % 記号は使用できません。
管理ポート AS_ADMIN_PORT	Application Server の管理サーバーが HTTPS 接続を待機するポート。管理ツールにアクセスするために必要です。 デフォルト値は 4849 です。
JMX ポート AS_JMX_PORT	Application Server が JMX 接続を待機するポート。 デフォルト値は 8686 です。
HTTP ポート AS_HTTP_PORT	Application Server が HTTP 接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。デフォルトポートが使用中の場合、インストーラにより別の値が表示されます。
HTTPS ポート AS_HTTPS_PORT	Application Server が HTTPS 接続を待機するポート。 デフォルト値は 8181 です。
マスターパスワード AS_MASTER_PASSWORD	ドメイン管理サーバーやノードエージェントの起動などの asadmin 操作で使用する SSL 証明書データベースパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。

Application Server ノードエージェント情報

表 3-20 Application Server のインストール時に必要となるノードエージェントに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ホスト名 ASNA_ADMIN_HOST_NAME	ノードエージェントが接続可能なドメイン管理用ホストの名前。 デフォルト値は、ドメインを含むローカルホストの名前です。

表 3-20 Application Server のインストール時に必要となるノードエージェントに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ユーザー名 ASNA_ADMIN_USER_NAME	Application Server 管理ユーザーのユーザー ID。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
パスワード ASNA_PASSWORD	Application Server 管理ユーザーのパスワード。 デフォルト値は存在しません。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。 注意: 管理者パスワードには、空白文字および ; & () ! < > ' " \$ ^ \ # / , @ % 記号は使用できません。
マスターパスワード ASNA_MASTER_PASSWORD	ドメイン管理サーバーやノードエージェントの起動などの asadmin 操作で使用される SSL 証明書データベースパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した管理パスワードの値です。
管理ポート ASNA_ADMIN_PORT	Application Server のノードエージェントが接続を待機するポート。管理ツールにアクセスするために必要です。 デフォルト値は 4849 です。
ノードエージェント名 ASNA_NODE_AGENT_NAME	ローカルノードの名前。 デフォルト値はローカルホスト名です。

Application Server ロードバランスプラグイン情報

表 3-21 Application Server のインストール時に必要となるロードバランスプラグインに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ロードバランスプラグインが使用する Web サーバー AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE	Sun Java System Web Server または Apache Web Server を選択します。 デフォルト値は Sun Java System Web Server です。

表 3-21 Application Server のインストール時に必要となるロードバランスプラグインに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Web Server インストールディレクトリ AS_WEB_SERVER_LOCATION	Web Server または Apache HTTP Server のインストールディレクトリ。 デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt Linux の場合: /opt/sun
Web Server インスタンスディレクトリ CMN_WS_INSTANCE_DIR	Web Server または Apache HTTP Server のインスタンスディレクトリ。 デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7/https-hostname.domainname Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7/https-hostname.domainname

Directory Server 設定情報

インストール時に、Directory Server について次の情報を指定する必要があります。

- 65 ページの「[Directory Server インスタンス作成の選択情報](#)」
- 66 ページの「[Directory Server インスタンス作成情報](#)」
- 67 ページの「[Directory Server 使用するインスタンスの選択](#)」

Directory Server インスタンス作成の選択情報

表 3-22 Directory Server のインスタンス作成選択

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ディレクトリインスタンスを作成しますか？ CREATE_INSTANCE	インストール中にディレクトリインスタンスを作成することができます。これは必須ではありません。デフォルト値は Yes です。 デフォルトを受け入れると、インスタンスの作成に必要な情報を指定するよう求められます。

Directory Server インスタンス作成情報

「Directory Server インスタンス選択パネル」で「はい」を選択すると、このページが表示されます。「いいえ」を選択した場合、このページは表示されません。別のコンポーネントが Directory Server インスタンスを必要とする場合、このページで作成可能なインスタンス、またはインストールおよび設定済みの Directory Server インスタンスのどちらを使用するか、選択を求められます。

表 3-23 Directory Server のインスタンス作成情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インスタンスディレクトリ DSEE_INSTANCE_DIR	新規インスタンスの位置。 デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWdsee/dsins1 Linux の場合: /var/opt/sun/dsins1
ディレクトリインスタンスポート DSEE_INSTANCE_PORT	新しいインスタンスのセキュリティー保護されていないポート。 デフォルト値は 389 です。
ディレクトリインスタンス SSL ポート DSEE_INSTANCE_SSL_PORT	新しいインスタンスのセキュリティー保護されたポート。 デフォルト値は 636 です。
ディレクトリマネージャー DN DSEE_DN_MANAGER	Directory Server に対して無制限のアクセス権を持つユーザーの識別名 (DN)。 デフォルト値は cn=Directory Manager です。
システムユーザー DSEE_INSTANCE_USER	新しいインスタンスを実行するユーザー ID。 デフォルト値は root です。
システムグループ DSEE_INSTANCE_GROUP	新しいインスタンスのグループ ID。 デフォルト値は root です。
ディレクトリマネージャーパスワード DSEE_INSTANCE_PASSWORD	ディレクトリマネージャーのパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。

表 3-23 Directory Server のインスタンス作成情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
サフィックス DSEE_SUFFIX	このインスタンスによって管理される初期ディレクトリサフィックス。 デフォルト値は、現在のホストの完全修飾ドメイン名のセグメントから構成されます。たとえば、インストール先が siroe.sub1.example.com の場合、デフォルト値は dc=sub1,dc=example,dc=com になります。

Directory Server 使用するインスタンスの選択

表 3-24 Directory Server: 使用するインスタンスの選択

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Directory Server インスタンスの選択 CREATE_INSTANCE	インストール中に作成した Directory Server インスタンスを使用するか、既存の Directory Server インスタンスを使用するかを選択できます。デフォルトの代わりに既存のインスタンスを使用する場合は、代替インスタンスがすでに設定されている必要があります。 デフォルト値は yes です。

HADB の設定情報

インストール時に、HADB について次の情報を指定する必要があります。

表 3-25 HADB のポート選択情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
HADB 管理ポート HADB_DEFAULT_ADMINPORT	HADB 管理が待機するポート。 デフォルト値は 1862 です。
HADB リソースディレクトリ HADB_DEFAULT_RESDIR	HADB がリソースの内容を格納する場所。 デフォルト値は /var/opt です。
HADB 管理者グループ HADB_DEFAULT_GROUP	HADB のデフォルトインスタンスの実行時ユーザーが所属する UNIX グループ (GID)。 デフォルト値は other です。

表 3-25 HADB のポート選択情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
システム再起動時に自動的に HADB を起動 HADB_AUTO_START	インストーラに対し、システムの再起動時に HADB を自動的に起動するように指示する場合に、このオプションを選択します。 デフォルト値は yes です。
グループ管理の許可 HADB_ALLOW_GROUPMANAGE	HADB を HADB 管理グループによって管理する場合は、このオプションを選択してください。このパラメータを yes に設定した場合は、そのグループ (HADB_DEFAULT_GROUP) に属するすべてのメンバーが HADB を実行および管理できます。 デフォルト値は no です。

Portal Server の設定情報

Portal Server を実行するには Web コンテナが必要です。インストールを実行する際、選択する Web コンテナに応じて、以降の節で示す設定情報を指定してください。

- 69 ページの「Portal Server Web コンテナの選択」
- 69 ページの「Portal Server: Java ES Application Server が Web コンテナの場合」
- 71 ページの「Portal Server: Java ES Web Server が Web コンテナの場合」
- 72 ページの「Portal Server: BEA WebLogic が Web コンテナの場合」
- 73 ページの「Portal Server: IBM WebSphere が Web コンテナの場合」
- 75 ページの「Portal Server Web コンテナの配備に関する情報」

Portal Server Web コンテナの選択

表 3-26 Portal Server の Web コンテナの選択

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
Portal Server 用 Web コンテナの選択 PS_DEPLOY_TYPE	Portal Server 用の Web コンテナを選択できません。次の選択肢があります。 ■ Java ES Application Server ■ Java ES Web Server ■ BEA WebLogic Server ■ IBM WebSphere Application Server デフォルト値は Web Server です。 注意: サードパーティーの Web コンテナを使用する場合は、このインストール時にその Web コンテナが実行されている必要があります。

Portal Server: Java ES Application Server が Web コンテナの場合

この節では、Portal Server の Web コンテナが Application Server の場合にインストーラが必要とする情報を示します。

表 3-27 Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR	Application Server のインストール先ディレクトリ。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合: /opt/sun/appserver
ドメイン名 PS_DEPLOY_DOMAIN	Portal Server が配備される Application Server ドメイン。 デフォルト値は domain1 です。
サーバーインスタンスディレクトリ PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR	ドメインの、この Portal Server インスタンスを配備する Application Server ディレクトリへのパス。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1 Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1

表 3-27 Portal Server と Application Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT	Application Server がインスタンスへの接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。
ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT	スタティックページが保持されるディレクトリの名前。 デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot
管理ポート PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	Application Server 管理インスタンスが、Portal Server のインストール先ドメインで稼働するポート。 デフォルト値は 4849 です。
管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN	Portal Server が Application Server に管理者としてアクセスする際に使用するユーザー ID。これは、Access Manager のユーザー ID とパスワードです。 デフォルト値は admin です。
管理者パスワード PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	Portal Server が Application Server に管理者としてアクセスする際に使用するパスワード。
セキュリティー保護されたサーバーインスタンスプロトコル PS_DEPLOY_PROTOCOL	このプロトコルは、サーバーインスタンスポートの値がセキュリティ保護されたポートを参照するかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。
セキュリティー保護された管理サーバーポート PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	このプロトコルは、管理ポートの値がセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は https です。

Portal Server: Java ES Web Server が Web コンテナの場合

この節では、Portal Server の Web コンテナが Web Server の場合にインストーラが必要とする情報を示します。

表 3-28 Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR	Web Server のインストール先ディレクトリ。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr7 Linux の場合: /opt/sun/webserver7
管理ドメイン PS_DEPLOY_DOMAIN	Portal Server の配備先の Web Server ドメイン。 デフォルト値は domain1 です。
インスタンスディレクトリ PS_INSTANCE_DIR	Web Server インスタンスのインストール先ディレクトリ。デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7-hostname.domainname Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7-hostname.domainname
サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT	Web Server が HTTP 接続に対して待機するポート。 デフォルト値は 8800 です。 このインストーラセッションで Web Server をインストールする場合、デフォルト値は「Web Server HTTP ポート」の値 (WS_HTTP_PORT) となります。
管理ホスト PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	管理サーバーのホスト名。
管理ポート PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	Portal Server のインストール先ドメインで Web Server 管理インスタンスが実行されているポート。 デフォルト値は 8989 です。

表 3-28 Portal Server と Web Server を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
セキュリティ保護されたサーバー管理プロトコル PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	このプロトコルは、Web Server インスタンスのポートがセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は https です。

Portal Server: BEA WebLogic が Web コンテナの場合

この節では、Portal Server の Web コンテナが BEA WebLogic の場合にインストーラが要求する情報を示します。

表 3-29 Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR	BEA WebLogic のインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルト値は /usr/local/bean/weblogic81 です。
インスタンスディレクトリ PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR	BEA WebLogic がユーザープロジェクトを格納するディレクトリへのパス。 デフォルト値は /usr/local/bean/user_projects/domains です。
JDK ホームディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR	BEA WebLogic が使用する JDK のコピーのインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルト値は /usr/local/bean/jdk142_05 です。
サーバー/クラスタポート PS_DEPLOY_PORT	BEA WebLogic が配備されるポートの番号。 デフォルト値は 7001 です。
サーバー/クラスタプロトコル PS_DEPLOY_PROTOCOL	「サーバー/クラスタポート」の値がセキュリティ保護されたポートを参照するかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルト値は http です。

表 3-29 Portal Server と BEA WebLogic を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN	BEA WebLogic 管理者 (システムユーザー) のユーザー名。 デフォルト値はweblogic です。
管理者パスワード PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	BEA WebLogic 管理者 (システムユーザー) のパスワード。
管理ホスト PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	管理サーバーホスト名。完全修飾ドメイン名。たとえば、mycomputer.example.com です。
管理ポート PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	デフォルト値は 7001 です。
管理プロトコル PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	管理ポートがセキュリティー保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティー保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティー保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルト値は http です。
管理対象サーバー PS_DEPLOY_NOW	BEA WebLogic Server が管理対象サーバーであるかどうかを指定します。 状態ファイルで、管理対象サーバーの場合は n を、管理対象サーバーではない場合は y を指定します。デフォルト値は n です。

Portal Server: IBM WebSphere が Web コンテナの場合

この節では、Portal Server の Web コンテナが IBM WebSphere Application Server の場合にインストーラが要求する情報を示します。

表 3-30 Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
インストールディレクトリ PS_DEPLOY_DIR	IBM WebSphere Application Server のインストール先ディレクトリへのパス。 デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer です。

表 3-30 Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
セル名 PS_DEPLOY_CELL	IBM WebSphere Application Server セルの名前。 デフォルト値は DefaultNode です。
ノード名 PS_DEPLOY_NODE	IBM WebSphere Application Server ノードの名前。 デフォルト値は DefaultNode です。
サーバーインスタンス PS_DEPLOY_INSTANCE	IBM WebSphere Application Server インスタンスの名前。 デフォルト値は server1 です。
サーバーインスタンスポート PS_DEPLOY_PORT	IBM WebSphere アプリケーションインスタンスが HTTP 接続を待機するポート。この値は、通常はフロントエンド Web サーバーから設定されます。 デフォルト値は 7080 です。
サーバーインスタンスプロトコル PS_DEPLOY_PROTOCOL	「サーバーインスタンスポート」がセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は http です。
ドキュメントルートディレクトリ PS_DEPLOY_DOCROOT	IBM WebSphere Application Server がコンテンツドキュメントを格納するディレクトリ。 デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/web/docs です。 英語以外の言語を使用する場合は、パス名の最後の部分を変更する必要があります。
JDK ホームディレクトリ PS_DEPLOY_JDK_DIR	IBM WebSphere Application Server が使用する JDK インストールへのパス。 デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/java です。
管理者ユーザー ID PS_DEPLOY_ADMIN	WebSphere 管理者 (システムユーザー) のユーザー名。 デフォルト値は weblogic です。
管理者パスワード PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	WebSphere 管理者 (システムユーザー) のパスワード。

表 3-30 Portal Server と IBM WebSphere を連動させる場合の Web コンテナに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理ホスト PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	管理サーバーホスト名。完全修飾ドメイン名。たとえば、mycomputer.example.com です。
管理ポート PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	デフォルト値は 7090 です。
管理プロトコル PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	管理ポートがセキュリティ保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルト値は http です。

Portal Server Web コンテナの配備に関する情報

この節では、インストーラが Portal Server 用に必要とする Web コンテナの配備に関する情報を示します。

表 3-31 Portal Server Web コンテナの配備

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ポータルアクセス URL PS_PORTALACCESS_URL	プライマリポータルインスタンスアクセス URL。http://hostname.domain:port/portal/dt の形式を使用します。例: http://mycomputer.example.com:8080/portal Gateway/Rewriter/Netlet プロキシ専用ノード以外のロードバランサ URL に設定できます。これらのノードの場合は、ポータルアクセス URL はロードバランサ URL ではなく、プライマリポータルインスタンス URL にしてください。
ポータル ID PS_PORTAL_ID	ポータルを表す一意の識別子。 デフォルト値は portal1 です。
検索 ID PS_SEARCH_ID	ポータル内の検索インスタンスを表す一意の識別子。 デフォルト値は search1 です。

表 3-31 Portal Server Web コンテナの配備 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
配備 URI PS_DEPLOY_URI	Portal Server に関連する HTML ページ、クラス、および JAR ファイルにアクセスするための URI (Uniform Resource Identifier) プレフィックス。 値の先頭にスラッシュを含め、かつそれ以外のスラッシュを含んでいてはなりません。 <code>http://hostname.domain:port/portal</code> の形式を使用し、ポータルアクセス URL と同じでなければなりません。 デフォルト値は <code>/portal</code> です。
ポータルインスタンス ID PS_INSTANCE_ID	ポータル内のポータルインスタンスを表す一意の識別子。 <i>hostname-port</i> の形式を使用します。例: <code>mycomputer-8080</code>
Secure Remote Access を有効 SRA_SWITCH_CORE	このパラメータを <code>Enabled</code> に設定した場合は、インストーラによって、Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ情報を要求されます。 デフォルト値は <code>Disabled</code> です。
開発者サンプル PS_DEVELOPER_PORTAL	この開発者向けの機能を含むサンプルを設定するかどうかを選択します。 デフォルトでオンになっています。
エンタープライズサンプル PS_ENTERPRISE_PORTAL	このビジネスポータル内の機能を含むサンプルを設定するかどうかを選択します。 デフォルトでオンになっています。
コミュニティーサンプル PS_COMMUNITY_PORTAL	このコラボレーションとコミュニティー用の機能を含むサンプルを設定するかどうかを選択します。 デフォルトでオンになっています。

Portal Server Secure Remote Access の設定情報

この節では、Portal Server Secure Remote Access のサブコンポーネントをインストールするのに必要な設定情報について説明します。

- [77 ページの「Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセス」](#)
- [78 ページの「Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ設定」](#)
- [79 ページの「Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシ設定」](#)
- [80 ページの「Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシ設定」](#)
- [80 ページの「Portal Server Secure Remote Access 証明書情報」](#)

Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ アクセス

Portal Server のインストール時に、Portal Server Secure Remote Access コアがインストールされます。「Secure Remote Access を有効」をオンにすると(デフォルト値はオフ)、次の表に示す情報を指定するようインストーラにより求められます。

表 3-32 Portal Server Secure Remote Access 情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ゲートウェイプロトコル SRA_GATEWAY_PROTOCOL	Portal Server との通信時にゲートウェイが使用するプロトコル。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は <code>https</code> を、セキュリティ保護されていないポートの場合は <code>http</code> を指定します。デフォルト値は <code>https</code> です。
Portal Server ドメイン SRA_SERVER_DOMAIN	Portal Server のインストール先ドメインの名前。デフォルト値は、ホストのドメイン名です。 たとえば、完全修飾ドメイン名が <code>siroe.subdomain1.example.com</code> の場合、<code>subdomain1.example.com</code> を入力します。
ゲートウェイドメイン SRA_GATEWAY_DOMAIN	ゲートウェイのインストール先ドメインの名前。デフォルト値はホストのデフォルトドメインです。 たとえば、ゲートウェイホストの完全修飾ドメイン名が <code>siroe.subdomain1.example.com</code> である場合は、<code>subdomain1.example.com</code> と入力します。
ゲートウェイポート SRA_GATEWAY_PORT	ゲートウェイホストの待機ポート。 デフォルト値は 443 です。
ゲートウェイプロファイル名 SRA_GATEWAY_PROFILE	リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は <code>default</code> です。
ログのユーザーパスワード SRA_LOG_USER_PASSWORD	ルート以外のアクセス権を持つ管理者がゲートウェイログファイルにアクセスするためのパスワード。

Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ設定

この節では、ゲートウェイサブコンポーネントのインストール時に、インストーラに指定するゲートウェイ情報を示します。

表 3-33 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
プロトコル SRA_GW_PROTOCOL	ゲートウェイが通信に使用するプロトコル (HTTP または HTTPS)。セキュリティ保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティ保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。ほとんどの場合、ゲートウェイでは HTTPS を使用する必要があります。 状態ファイルで、セキュリティ保護されたポートの場合は https を、セキュリティ保護されていないポートの場合は http を指定します。デフォルト値は https です。
ホスト名 SRA_GW_HOSTNAME	ゲートウェイサブコンポーネントのインストール先ホストの名前。たとえば、完全修飾ドメイン名が siroe.subdomain1.example.com の場合、ホスト名は siroe です。 デフォルト値は、ローカルホストの名前です。
サブドメイン SRA_GW_SUBDOMAIN	ゲートウェイホストのサブドメイン名。 デフォルト値は存在しません。
ドメイン SRA_GW_DOMAIN	ゲートウェイホストのドメイン名。たとえば、完全修飾ドメイン名が siroe.example.com の場合、この値は example.com となります。 デフォルト値は、ローカルホストのドメインです。
ホスト IP アドレス SRA_GW_IPADDRESS	Access Manager ホストの IP アドレス。Portal Server に対して Access Manager がインストールされたホストの IP アドレスを指定します。 デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。
アクセスポート SRA_GW_PORT	ゲートウェイホストの待機ポート。 デフォルト値は 443 です。

表 3-33 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイのインストール時に必要となるゲートウェイに関する設定情報 (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ゲートウェイプロファイル名 SRA_GW_PROFILE	ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連する情報を含むゲートウェイプロファイル。 デフォルト値は default です。

Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシ設定

この節では、Netlet プロキシのインストール時に、インストーラに指定する Netlet プロキシ情報を示します。

表 3-34 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシのインストール時に必要となる Netlet プロキシに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 SRA_NLP_HOSTNAME	Netlet プロキシサブコンポーネントのインストール先ホストの名前。 たとえば、完全修飾ドメイン名が <code>siroe.subdomain1.example.com</code> の場合、ホスト名は <code>siroe</code> です。 デフォルト値は、ローカルホストの名前です。
サブドメイン SRA_NLP_SUBDOMAIN	Netlet プロキシのインストール先サブドメインの名前。 デフォルト値は存在しません。
ドメイン SRA_NLP_DOMAIN	Netlet プロキシのインストール先ドメインの名前。 デフォルト値は、ローカルホストのドメインです。
ホスト IP アドレス SRA_NLP_IPADDRESS	Netlet プロキシのインストール先ホストの IP アドレス。 デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。
アクセスポート SRA_NLP_PORT	Netlet プロキシの待機ポート。 デフォルト値は 10555 です。
ゲートウェイプロファイル名 SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE	リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は default です。

Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシ設定

この節では、Rewriter プロキシのインストール時に、インストーラに指定する Rewriter プロキシ情報を示します。

表 3-35 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる Rewriter プロキシに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ホスト名 SRA_RWP_HOSTNAME	Rewriter プロキシサブコンポーネントのインストール先ホストの名前。 たとえば、完全修飾ドメイン名が <code>siroe.subdomain1.example.com</code> の場合、ホスト名は <code>siroe</code> です。 デフォルト値は、ローカルホストの名前です。
サブドメイン SRA_RWP_SUBDOMAIN	Rewriter プロキシのインストール先サブドメインの名前。 デフォルト値は存在しません。
ドメイン SRA_RWP_DOMAIN	Rewriter プロキシのインストール先ドメインの名前。 デフォルト値は、ローカルホストのドメイン名です。
ホスト IP アドレス SRA_RWP_IPADDRESS	Rewriter プロキシのインストール先ホストの IP アドレス。 デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。
アクセスポート SRA_RWP_PORT	Rewriter プロキシの待機ポート。 デフォルト値は <code>10443</code> です。
ゲートウェイプロファイル名 SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE	リスナポート、SSL オプション、プロキシオプションなどのゲートウェイ設定情報を含むプロファイル。 デフォルト値は <code>default</code> です。

Portal Server Secure Remote Access 証明書情報

ゲートウェイ、Netlet プロキシ、または Rewriter プロキシをインストールする場合、Portal Server, Secure Remote Access で使用する自己署名付き証明書を作成するための情報を指定できます。証明書を設定するには、インストーラに次の情報を指定する必要があります。

注 - 証明書情報には、マルチバイト文字を使用することはできません。

表 3-36 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシのインストール時に必要となる証明書に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
組織 SRA_CERT_ORGANIZATION	所属する組織または会社名。
部署 SRA_CERT_DIVISION	所属する部署名。
市 / 地域 SRA_CERT_CITY	居住する市または地域。
州 / 都道府県名 SRA_CERT_STATE	居住する都道府県名。
国名コード SRA_CERT_COUNTRY	2 文字の国名コード。
証明書データベースパスワード SRA_CERT_PASSWORD	自己署名付き証明書にのみ適用されるパスワード (および確認用パスワード)。

Web Proxy Server の設定情報

表 3-37 Web Proxy Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー ID WPS_ADMIN_USER	Web Proxy Server 管理者のユーザー ID。 デフォルト値は、admin または共通サーバー設定で指定した値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。

表 3-37 Web Proxy Server のインストール時に必要となる管理に関する設定情報 (続き)	
ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者パスワード WPS_ADMIN_PASSWORD	Web Proxy Server 管理者のパスワード。 デフォルト値は、共通サーバー設定で指定したパスワードの値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。 注意: Java ES インストーラでは、管理パスワードに、空白文字および ; & () ! < > ' “ \$ ^ \ # / , @ % 記号は使用できません。
プロキシサーバードメイン名 WPS_PROXY_DOMAIN	Proxy Server ホストの完全修飾ドメイン名。次に例を示します。 <code>hostname.domain</code>
管理ポート WPS_ADMIN_PORT	Web Proxy Server の管理サーバーが接続を待機するポート。 デフォルト値は 8888 です。
管理サーバー実行時ユーザー ID WPS_ADMIN_RUNTIME_USER	Web Proxy Server 管理サーバーは、このユーザー (UID) としてシステムで稼働します。ユーザー ID 番号ではなく、名前を使用してください。デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した値です。
インスタンス実行時ユーザー ID WPS_INSTANCE_RUNTIME_USER	既存の非スーパーユーザー。 デフォルト値は <code>nobody</code> です。
プロキシインスタンスポート WPS_INSTANCE_PORT	Web Proxy Server が接続を待機するポート。 デフォルト値は 8080 です。
システム再起動時に自動的に Web Proxy Server を起動 WPS_INSTANCE_AUTO_START	Web Proxy Server インスタンスの自動起動に使用されます。システムの再起動時に Web Proxy Server を起動する必要がある場合に、このパラメータを選択します。y または n を指定できます。 デフォルト値は n です。

Web Server の設定情報

インストール時に、Web Server に関する次の情報を指定する必要があります。

- [83 ページの「Web Server の設定タイプの選択」](#)
- [83 ページの「Web Server 管理サーバー設定」](#)
- [85 ページの「Web Server 管理ノード設定」](#)
- [86 ページの「Web Server インスタンス設定」](#)

Web Server の設定タイプの選択

表 3-38 Web Server の設定タイプの選択

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理インスタンスをサーバーとして設定 WS_ADMIN_IS_SERVER_MODE	管理サーバーは、管理の目的にのみに使用される、特別に設定された Web Server インスタンスです。 サーバーファームの環境の場合、このサーバーがインスタンス管理命令をノードに送信する、マスター管理インスタンスになります。管理アプリケーションは、このサーバーに配備されます。 Web Server のスタンドアロンインストールの場合は、常に「管理インスタンスをサーバーとして設定」を選択してください。 後続のページで、この設定情報を指定するように求められます。 デフォルトでオンになっています。
管理インスタンスをノードとして設定 WS_ADMIN_IS_NODE_MODE	管理ノードは、特別に設定された Web Server インスタンスであり、登録された管理サーバーからのコマンドを受け取って、その特定のノード上で、Web Server インスタンスの作成、削除、起動、停止などの限られたアクションを実行します。 後続のページで、この設定情報を指定するように求められます。 デフォルトでオフになっています。
システム起動後にサーバーを起動 WS_START_ON_BOOT	システムを再起動したときに Web Server が自動的に起動されるように設定します。Web Server は、システムの再起動時に Access Manager の起動スクリプトによって起動されるため、Access Manager を Web Server に配備した場合、この値は無視されます。 状態ファイルで、T または F (True または False) を指定できます。デフォルト値は F です。

Web Server 管理サーバー設定

Web Server 管理サーバーが稼働するポートは、SSL (デフォルトは 8989) および非 SSL (デフォルトは 8800) の 2 つです。HTTP を選択する場合は、非 SSL 管理ポートを参照するように PS_DEPLOY_ADMIN_PORT パラメータを変更する必要があります。デフォルトの非 SSL 管理ポートは 8800 です。

表 3-39 Web Server 用の管理サーバー設定

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
管理者ユーザー名 WS_LOGIN_USER	Web Server 管理者のユーザー ID。 デフォルト値は、admin または共通サーバー設定で指定した値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
ログインパスワード WS_LOGIN_PASSWORD	Web Server 管理者のパスワード。 デフォルトは、共通サーバー設定で指定した値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。 注意: Java ES インストーラでは、管理パスワードに、空白文字および ; & () ! < > ' " \$ ^ \ # / , @ % 記号は使用できません。
サーバーホスト WS_ADMIN_HOST	ローカルホストとして解決されるホストとドメインの値。この値を使用して、Web Server インスタンスのサーバールート内にディレクトリが作成されます。 デフォルト値は、共通サーバー設定の「ホスト名」と「DNS ドメイン名」に指定した値を結合して自動的に作成されます。値の書式は <i>hostname.domainname</i> です。
SSL ポート WS_ADMIN_SSL_PORT	管理サーバーをセキュリティー保護されたモードで実行するために使用されるポート。有効な SSL ポートでなければなりません。このポートを選択した場合は、URL を起動するときに HTTPS を指定する必要があります。 デフォルト値は 8989 です。
HTTP ポート WS_ADMIN_HTTP_PORT	Web Server が HTTP 接続に対して待機するポート。 デフォルト値は 8800 です。
実行時ユーザー ID WS_ADMIN_SERVER_USER	デフォルトは、root または共通サーバー設定で指定した値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。

Web Server 管理ノード設定

表 3-40 Web Server の管理ノード設定

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
ノードホスト WS_NODE_HOST	ドメイン名を含むホストの完全修飾名。
SSL ポート WS_NODE_SSL_PORT	Web Server がエージェントとして HTTPS 接続を待機するポート。有効な SSL ポートでなければなりません。 デフォルト値は 8989 です。
実行時ユーザー ID WS_INSTANCE_USER	Web Server のデフォルトインスタンスがシステムでの実行に使用するユーザー ID。 Access Manager または Portal Server をインストールする場合は、この値を root に設定し、「実行時グループ」の値を other に設定しますこれらの値は、インストール後に変更できます。その他のサーバーの場合、「実行時ユーザー ID」をルート以外のユーザーに設定する必要があります。 デフォルト値は root です。
ノードをリモート管理サーバーに登録する WS_REGISTER_NODE	デフォルトでオンになっています。ノードをリモート管理サーバーに登録することを選択した場合は、次の 4 つのフィールドに入力する必要があります。
リモートサーバーホスト WS_ADMIN_HOST	管理サーバーのインストール先リモートホストの完全修飾ドメイン名。
リモートサーバーの SSL ポート WS_ADMIN_SSL_PORT	リモート管理サーバーが待機する SSL ポート。 デフォルト値は 8989 です。
リモートサーバーユーザー名 WS_ADMIN_LOGIN_USER	リモート管理サーバーにログインするために使用する管理者ユーザー名。
リモートサーバーパスワード WS_ADMIN_LOGIN_PASSWORD	リモート管理サーバーにログインするために使用するパスワード。

Web Server インスタンス設定

表 3-41 Web Server のインスタンス設定

ラベルと状態ファイルのパラメータ	説明
サーバー名 WS_SERVER_NAME	ローカルホストとして解決されるホストとドメインの値。この値を使用して、Web Server インスタンスのサーバールート内にディレクトリが作成されます。 デフォルト値は、共通サーバー設定の「ホスト名」と「DNS ドメイン名」に指定した値を結合して自動的に作成されます。値の書式は <i>hostname.domainname</i> です。
HTTP ポート WS_HTTP_PORT	Web Server インスタンスが HTTP 接続を待機するポート。 デフォルト値は 80 です。
実行時 UNIX ユーザー ID WS_SERVER_USER	既存の非スーパーユーザー。Access Manager または Portal Server をインストールする場合は、この値を root に設定し、「実行時グループ」の値を other に設定します。これらの値は、インストール後に変更できます。その他のサーバーの場合、「実行時ユーザー ID」をルート以外のユーザーに設定する必要があります。 注意: Web Server を Web コンテナとして使用する場合は、Web Server 実行時インスタンス値を root に設定する必要があります。 デフォルト値は webservd です。
ドキュメントルートディレクトリ WS_DOCROOT	Web Server がコンテンツドキュメントを格納する場所。 デフォルト以外の値を使用するには、指定するディレクトリがファイルシステムにすでに存在していることを確認します。存在しないディレクトリを指定しても、インストーラはディレクトリを作成しません。 デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: <code>/var/opt/SUNWwbsvr7/https-hostname.domain /docs</code> Linux の場合: <code>/var/opt/sun/webserver7/https-hostname.domain /docs</code>

状態ファイルのみで使用されるパラメータ

次の表は、製品コンポーネントの設定に関係しない状態ファイルパラメータに関する情報を示しています。パラメータ名は、アルファベット順に記載されています。

表 3-42 状態ファイルのパラメータ

パラメータ名	説明
CCCP_UPGRADE_EXTERNAL_ \\ INCOMPATIBLE_JDK	JDK がホスト内で検出されたが、Java ES により配布される JDK とは互換性がない場合に、アップグレードするかどうかを指定します。yes または no を指定できます。このパラメータでは、大文字と小文字は区別されます。 デフォルト値は no です。
CONFIG_TYPE	設定の種類を定義します。指定できる値は、Custom (インストール時に設定、「今すぐ設定」と同じ) または Skip (インストール後に設定、「あとで設定」と同じ) です。 デフォルト値は Custom です。 重要: 状態ファイルにこの値を設定してはなりません。インストーラを実行して状態ファイルを生成する場合にのみ、この値を指定します。設定タイプは、インストーラの処理ロジックにさまざまな方法で影響を及ぼします。状態ファイルの生成後に値を変更した場合、エラーが発生する場合があります。
DeploymentServer	Access Manager の Web コンテナの種類を指定します。指定可能な値は、WebServer および AppServer です。 デフォルト値は AppServer (Application Server) です。
PSDEPLOYTYPE	Portal Server の Web コンテナの種類を指定します。指定可能な値は、IWS、SUNONE8、WEBLOGIC、WEBSPHERE です。
LOCALE	英語以外の言語パッケージをインストールするかどうかを指定します。値は True または False です。このオプションはコンポーネント選択とともに表示されます。値が True の場合、選択したすべてのコンポーネント用の多言語パッケージがインストールされます。False の場合は、ローカルパッケージはインストールされません。 デフォルト値は False です。

表 3-42 状態ファイルのパラメータ (続き)

パラメータ名	説明
LICENSE_TYPE	指定可能な値は「Evaluation」および「Deployment」ですが、このフィールドは使用されません。
PSP_EXIT_ON_DEPENDENCY_WARNING	選択した製品コンポーネントの依存関係が要件を満たしていない場合に終了するようにインストーラに指示します。通常、警告を確認することで、設定時に指定可能なリモートコンポーネントに適した依存関係を識別できます。 依存関係の警告が表示されたらインストールを終了する場合は Yes を指定し、警告に関係なく処理を続行する場合は No を指定します。デフォルト値は No です。 このパラメータでは、大文字と小文字が区別されません。
PSP_LOG_CURRENTLY_INSTALLED	現在インストールされている製品リストのログファイルへの書き出しをインストーラに指示します。このオプションは、グラフィカルインストーラの「コンポーネントの選択」ページの「インストール済みの製品」ボタンをクリックする操作に相当します。指定可能な値は、Yes および No です。このパラメータでは、大文字と小文字が区別されません。 デフォルト値は Yes です。
PSP_SELECTED_COMPONENTS	インストールする製品コンポーネントおよびサブコンポーネントのコンマ区切りのリスト。 デフォルト値は All です。

設定ワークシート

この章では、「今すぐ設定」設定オプションでのインストールに必要な設定情報を収集するためのワークシートを示します。これらのワークシートは、[第3章](#)の設定情報を参照しながら活用してください。ワークシートは、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラを使って設定可能な製品コンポーネントだけを対象としています。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [89 ページの「共通設定の設定情報」](#)
- [90 ページの「Access Manager 設定情報」](#)
- [98 ページの「Access Manager SDK 設定情報」](#)
- [101 ページの「Application Server の設定情報」](#)
- [104 ページの「Directory Server 設定情報」](#)
- [106 ページの「HADB の設定情報」](#)
- [106 ページの「Portal Server の設定情報」](#)
- [113 ページの「Portal Server Secure Remote Access の設定情報」](#)
- [117 ページの「Web Proxy Server の設定情報」](#)
- [118 ページの「Web Server の設定情報」](#)
- [121 ページの「状態ファイル設定情報内でのみ使用されるパラメータ」](#)

共通設定の設定情報

このワークシートの各フィールドの詳細については、[42 ページの「共通サーバー設定」](#)の表を参照してください。

表 4-1 共通サーバー設定の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト名	データ: _____
CMN_HOST_NAME	デフォルト値はローカルホスト名です。例: mycomputer
DNS ドメイン名	データ: _____
CMN_DOMAIN_NAME	デフォルト値は、ローカルホストのドメイン名です。例: example.com
ホスト IP アドレス	データ: _____
CMN_IPADDRESS	デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。
管理者ユーザー ID	データ: _____
CMN_ADMIN_USER	注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
管理者パスワード	データ: _____
CMN_ADMIN_PASSWORD	注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
システムユーザー	データ: _____
CMN_SYSTEM_USER	デフォルト値は root です。
システムグループ	データ: _____
CMN_SYSTEM_GROUP	デフォルト値は root です。

Access Manager 設定情報

この節には、次のトピック用のワークシートが含まれます。

- 90 ページの「Access Manager 管理」
- 91 ページの「Web コンテナ」
- 93 ページの「Access Manager サービス」
- 96 ページの「Access Manager: Directory Server」
- 97 ページの「Access Manager のプロビジョニングされたディレクトリ」

Access Manager 管理

このワークシートの各フィールドの詳細については、44 ページの「Access Manager 管理情報」の表を参照してください。

表 4-2 Access Manager 管理情報の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールタイプ	データ: _____
AM_REALM	旧バージョンモードがデフォルトで使用されます。
管理者ユーザー ID	データ: amadmin
IS_ADMIN_USER_ID	変更することはできません。
管理者パスワード	データ: _____
IS_ADMINPASSWD	(8 文字以上を指定する必要がある)
LDAP ユーザー ID	データ: amldapuser
IS_LDAP_USER	変更することはできません。
LDAP パスワード	データ: _____
IS_LDAPUSERPASSWD	制限: 管理者パスワードとは異なる必要があります。
パスワードの暗号鍵	データ: _____
AM_ENC_PWD	新規インストールの場合、パスワードの暗号鍵は 12 文字以上にしてください。また、空白にしてもかまいません。アップグレードの場合、パスワードは 12 文字よりも短くできます。リモートポータルインストールに必要です。

Web コンテナ

Access Manager の管理コンソールをインストールする場合、インストーラは次の情報を要求します。Access Manager 用のワークシートは 2 つあります。それぞれのワークシートが、Access Manager を配備可能な各 Web コンテナに対応しています。

- 91 ページの「[Application Server を Web コンテナとする Access Manager](#)」
- 92 ページの「[Web Server を Web コンテナとする Access Manager](#)」

Application Server を Web コンテナとする Access Manager

このワークシートの各フィールドの詳細については、[46 ページの「Application Server を Web コンテナとする Access Manager」](#)の表を参照してください。

表 4-3 Application Server を Web コンテナとする Access Manager の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	データ: _____ デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合: /opt/sun/appserver
セキュリティ保護された管理サーバーポート IS_IAS81_ADMINPORT	データ: _____ デフォルト値は 4849 です。
Access Manager 実行時インスタンス インスタンスディレクトリ /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1	デフォルト値は <i>server</i> です。
Access Manager インスタンスポート	データ: _____ デフォルト値は 8080 です。
ドキュメントルート	データ: _____ デフォルト値は次のとおりです。 /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot
セキュリティ保護されたサーバーインスタンスポート	
管理者ユーザー ID IS_IAS81_ADMIN	データ: _____ デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した管理者ユーザー ID の値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
管理者パスワード IS_IAS81_ADMINPASSWD	データ: _____ デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者のユーザーパスワード」の値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。

Web Server を Web コンテナとする Access Manager

このワークシートの各フィールドの詳細については、[46 ページの「Web Server を Web コンテナとする Access Manager」](#)の表を参照してください。

表 4-4 Web Server を Web コンテナとする Access Manager の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト名	データ: _____
IS_WS_HOST_NAME	デフォルト値は、現在のホストの完全修飾ドメイン名です。
管理者ユーザー ID	データ: _____
IS_WS_ADMIN_ID	デフォルト値は、 41 ページ の「共通設定」で指定した管理者ユーザー ID の値です。
管理者パスワード	データ: _____
IS_WS_ADMIN_PASSWORD	デフォルト値は、 41 ページ の「共通設定」で指定した管理者ユーザー ID の値です。
ドキュメントルートディレクトリ	データ: _____
IS_WS_DOC_DIR	デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7/https:-hostname.domain /docs Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7/https:-hostname.domain /docs
Web Server のポート	データ: _____
IS_WS_INSTANCE_PORT	デフォルト値は 80 です。
Web Server インスタンスディレクトリ	データ: _____
IS_WS_INSTANCE_DIR	パスの構文は次のとおりです。 <i>WebServer-base/https- webserver-instancename</i> このセッションで Web Server をインストールする場合、 <i>WebServer-base</i> のデフォルト値は、次に示す Web Server のインストールディレクトリです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7 Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7
Web Server のプロトコル	データ: _____
IS_WS_PROTOCOL	デフォルト値は HTTP です。

Access Manager サービス

Access Manager はさまざまな方法でインストールできます。

- [94 ページ](#)の「Access Manager コンソールの情報指定」
- [94 ページ](#)の「Access Manager コンソールの情報指定」
- [95 ページ](#)の「Access Manager インストールコンソール (コアはインストール済み)」

- 95 ページの「Access Manager コンソールのインストール(コアは未インストール)」
- 96 ページの「連携管理のインストール(コアはインストール済み)」

Access Manager コンソールの情報指定

表 4-5 Access Manager コンソールの Access Manager サービス情報の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト名	データ: _____
IS_SERVER_HOST	
サービス配備 URI	データ: _____
SERVER_DEPLOY_URI	デフォルト値は amserver です。 注意: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
共通ドメイン配備 URI	データ: _____
CDS_DEPLOY_URI	デフォルト値は amcommon です。 注意: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
Cookie ドメイン	データ: _____
COOKIE_DOMAIN_LIST	例: .example.com 注意: 先頭にピリオド (.) が必要です。
パスワード配備 URI	データ: _____
PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	デフォルト値は ampassword です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
コンソールプロトコル	データ: _____
CONSOLE_PROTOCOL	デフォルト値は HTTP です。

Access Manager コンソールの情報指定

表 4-6 Access Manager Directory Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理コンソール	データ: _____
USE_DSAME_SERVICES_WEB_CONTAINER	デフォルト値は true (新規コンソールを配備) です。
CONSOLE_REMOTE	

表 4-6 Access Manager Directory Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
コンソール配備 URI	データ: _____
CONSOLE_DEPLOY_URI	デフォルト値は <code>amconsole</code> です。
コンソールホスト名	データ: _____
CONSOLE_HOST	デフォルト値は、このホストの完全修飾ドメイン名に基づきます。例: <code>mycomputer.example.com</code>
コンソールポート	データ: _____
CONSOLE_PORT	デフォルト値は <code>8080</code> です。

Access Manager インストールコンソール(コアはインストール済み)

このワークシートの各フィールドの詳細については、51 ページの「[Access Manager コンソールのインストール\(コアがすでにインストールされている場合\)](#)」の表を参照してください。

表 4-7 Access Manager インストールコンソール(コアはインストール済み) の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
コンソール配備 URI	データ: _____
CONSOLE_DEPLOY_URI	旧バージョンモード (6.x) だけに関係があります。デフォルト値は次のとおりです。 <code>amconsole</code> 注意: 先頭にスラッシュを入力しないでください。
パスワードサービス配備 URI	データ: _____
PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	デフォルト値は次のとおりです。 <code>ampassword</code> 注意: 先頭にスラッシュを入力しないでください。

Access Manager コンソールのインストール(コアは未インストール)

このワークシートの各フィールドの詳細については、52 ページの「[Access Manager コンソールのインストール\(コアがまだインストールされていない場合\)](#)」の表を参照してください。

表 4-8 インストールコンソール(コアは未インストール)の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
コンソール配備 URI	データ: _____
CONSOLE_DEPLOY_URI	デフォルト値は amconsole です。
パスワードサービス配備 URI	データ: _____
PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI	デフォルト値は ampassword です。先頭にスラッシュを入力しないでください。

連携管理のインストール(コアはインストール済み)

このワークシートの各フィールドの詳細については、54 ページの「[連携管理のインストール\(コアはインストール済み\)](#)」の表を参照してください。

表 4-9 連携管理のインストール(コアはインストール済み)の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
共通ドメイン配備 URI	データ: _____
CDS_DEPLOY_URI	デフォルト値は amcommon です。先頭にスラッシュを入力しないでください。

Access Manager: Directory Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、54 ページの「[Access Manager: Directory Server 情報](#)」の表を参照してください。

表 4-10 Access Manager Directory Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Directory Server ホスト	データ: _____
IS_DS_HOSTNAME	デフォルト値は、ローカルホストの完全修飾ドメイン名です。
Directory Server ポート	データ: _____
IS_DS_PORT	デフォルト値は 389 です。
Access Manager ディレクトリルートサフィックス	データ: _____
IS_ROOT_SUFFIX	デフォルト値は、このホストの完全修飾ホスト名からホスト名を除いた値に基づきます。たとえば、このホストが siroe.subdomain.example.com の場合、値は dc=subdomain,dc=example,dc=com になります。

表 4-10 Access Manager Directory Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ディレクトリマネージャー DN	データ: _____
IS_DIRMGRDN	デフォルト値は cn=Directory Manager です。
ディレクトリマネージャーパスワード	データ: _____
IS_DIRMGRPASSWD	

Access Manager のプロビジョニングされたディレクトリ

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合
詳細については、次の表を参照してください。

表 4-11 プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Directory Server にユーザーデータが準備されていますか？	データ: _____ デフォルト値は No です。
IS_LOAD_DIT	
組織マーカーオブジェクトクラス	データ: _____
IS_ORG_OBJECT_CLASS	デフォルト値は SunISManagedOrganization です。
組織ネーミング属性	データ: _____
IS_ORG_NAMING_ATTR	デフォルト値は o です。
ユーザーマーカーオブジェクトクラス	データ: _____
IS_USER_OBJECT_CLASS	デフォルト値は inetorgperson です。
ユーザーネーミング属性	データ: _____
IS_USER_NAMING_ATTR	デフォルト値は uid です。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合
必要な情報はありません。

Access Manager SDK 設定情報

この節には、次のトピックが含まれます。

- 98 ページの「Access Manager SDK 管理」
- 98 ページの「Access Manager SDK Directory Server」
- 99 ページの「Access Manager SDK のプロビジョニングされたディレクトリ」
- 100 ページの「Access Manager SDK Web コンテナ」

Access Manager SDK 管理

このワークシートの各フィールドの詳細については、57 ページの「Access Manager SDK 管理情報」の表を参照してください。

表 4-12 Access Manager SDK 管理の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理者ユーザー ID	データ: _____
IS_ADMIN_USER_ID	デフォルト名の amadmin を変更することはできません。
管理者パスワード	データ: _____
IS_ADMINPASSWD	リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
LDAP ユーザー ID	データ: _____
IS_LDAP_USER	デフォルトユーザー名の amldapuser は変更できません。
LDAP パスワード	データ: _____
IS_LDAPUSERPASSWD	リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
パスワードの暗号鍵	データ: _____
AM_ENC_PWD	新規インストールの場合、パスワードの暗号鍵は 12 文字以上にしてください。また、空白にしてもかまいません。アップグレードの場合、パスワードは 12 文字よりも短くできます。リモートポータルインストールに必要です。

Access Manager SDK Directory Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、59 ページの「Access Manager SDK Directory Server 情報」の表を参照してください。

表 4-13 Access Manager SDK Directory Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Directory Server ホスト	データ: _____
IS_DS_HOSTNAME	リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
Directory Server ポート	データ: _____
IS_DS_PORT	リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。
Access Manager ディレクトリルートサフィックス	データ: _____
IS_ROOT_SUFFIX	リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。 デフォルト値は、このホストの完全修飾ホスト名からホスト名を除いた値に基づきます。たとえば、このホストが <code>siroe.subdomain.example.com</code> の場合、値は <code>dc=subdomain,dc=example,dc=com</code> になります。 デフォルト値は、形式を示す例としてだけ利用します。
ディレクトリマネージャー DN	データ: _____
IS_DIRMGRDN	リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。 デフォルト値は <code>cn=Directory Manager</code> です。
ディレクトリマネージャーパスワード	データ: _____
IS_DIRMGRPASSWD	リモートホスト上の Access Manager が使用する値と同じ値を設定します。

Access Manager SDK のプロビジョニングされたディレクトリ

このワークシートの各フィールドの詳細については、[59 ページの「Access Manager SDK プロビジョニングされているディレクトリの情報」](#)の表を参照してください。

表 4-14 Access Manager SDK のプロビジョニングされたディレクトリの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ユーザーネーミング属性	データ: _____
IS_USER_NAMING_ATTR	デフォルト値は <code>uid</code> です。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合
インストーラがプロビジョニングされた既存ディレクトリを検出した場合は、次の情報を指定します。

このワークシートの各フィールドの詳細については、[60 ページの「プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出された場合」](#)の表を参照してください。

表 4-15 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリに関する設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ユーザーネーミング属性	データ: _____
IS_USER_NAMING_ATTR	デフォルト値は uid です。

プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合

このワークシートの各フィールドの詳細については、[60 ページの「プロビジョニングされた既存ディレクトリが検出されない場合」](#)の表を参照してください。

表 4-16 Access Manager SDK のインストール時に必要となる、プロビジョニングされた既存ディレクトリが存在しない場合の設定情報

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Directory Server にユーザーデータが準備されていますか？	データ: _____ デフォルト値は No です。
IS_LOAD_DIT	
組織マーカーオブジェクトクラス	データ: _____
IS_ORG_OBJECT_CLASS	デフォルト値は SunISManagedOrganization です。
組織ネーミング属性	データ: _____
IS_ORG_NAMING_ATTR	デフォルト値は o です。
ユーザーマーカーオブジェクトクラス	データ: _____
IS_USER_OBJECT_CLASS	デフォルト値は inetorgperson です。
ユーザーネーミング属性	データ: _____
IS_USER_NAMING_ATTR	デフォルト値は uid です。

Access Manager SDK Web コンテナ

このワークシートの各フィールドの詳細については、[61 ページの「Access Manager SDK Web コンテナ情報」](#)の表を参照してください。

表 4-17 Access Manager SDK Web コンテナの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト	データ: _____
IS_WS_HOST_NAME	デフォルト値は存在しません。
サービス配備 URI	データ: _____
SERVER_DEPLOY_URI	デフォルト値は <code>amserver</code> です。先頭にスラッシュを入力しないでください。
Cookie ドメイン	データ: _____
COOKIE_DOMAIN_LIST	デフォルト値は現在のドメインの前にドット (.) を付けた値です。例: <code>.example.com</code>
Web コンテナのホスト名	データ: _____
IS_SERVER_HOST	
Web コンテナのポート	データ: _____
IS_SERVER_PORT	
Web コンテナのプロトコル	データ: _____
IS_SERVER_PROTOCOL	
サービスポート	データ: _____
IS_WS_INSTANCE_PORT	Access Manager コアサービスのインストール時に指定したポート番号を使用します。Web Server のデフォルト値は 80、Application Server のデフォルト値は 8080 です。
IS_IAS81INSTANCE_PORT	

Application Server の設定情報

この節には、次のトピック用のワークシートが含まれます。

- [101 ページの「Application Server 管理」](#)
- [102 ページの「Application Server ノードエージェント」](#)
- [103 ページの「Application Server ロードバランスプラグイン」](#)

このワークシートの各フィールドの詳細については、[43 ページの「Access Manager 設定情報」](#)の表を参照してください。

Application Server 管理

このワークシートの各フィールドの詳細については、[62 ページの「Application Server 管理情報」](#)の表を参照してください。

表 4-18 アプリケーションサーバー管理の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理ユーザー名 AS_ADMIN_USER_NAME	データ: _____ デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。 41 ページの「共通設定」 を参照してください。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
パスワード AS_PASSWORD	データ: _____ デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。 41 ページの「共通設定」 を参照してください。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
管理ポート AS_ADMIN_PORT	データ: _____ デフォルト値は 4849 です。
JMX ポート AS_JMX_PORT	データ: _____ デフォルト値は 8686 です。
HTTP ポート AS_HTTP_PORT	データ: _____ デフォルト値は 8080 です。デフォルトポートが使用中の場合、インストーラにより別の値が表示されます。
HTTPS ポート AS_HTTPS_PORT	データ: _____ デフォルト値は 8181 です。
マスターパスワード AS_MASTER_PASSWORD	データ: _____ デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。

Application Server ノードエージェント

このワークシートの各フィールドの詳細については、[63 ページの「Application Server ノードエージェント情報」](#)の表を参照してください。

表 4-19 Application Server ノードエージェントの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理ホスト名 ASNA_ADMIN_HOST_NAME	データ: _____ デフォルト値は、ドメインを含むローカルホストの名前です。

表 4-19 Application Server ノードエージェントの設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理ユーザー名 ASNA_ADMIN_USER_NAME	データ: _____ デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者ユーザー ID」の値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
パスワード ASNA_PASSWORD	データ: _____ Application Server 管理ユーザーのパスワード。 デフォルト値は存在しません。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
マスターパスワード ASNA_MASTER_PASSWORD	データ: _____ デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。
管理ポート ASNA_ADMIN_PORT	データ: _____ デフォルト値は 4849 です。
ノードエージェント名 ASNA_NODE_AGENT_NAME	データ: _____ ローカルノードの名前。 デフォルト値はローカルホスト名です。

Application Server ロードバランスプラグイン

このワークシートの各フィールドの詳細については、[64 ページ](#)の「[Application Server ロードバランスプラグイン情報](#)」の表を参照してください。

表 4-20 Application Server ロードバランスプラグインの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ロードバランスプラグインが使用する Web サーバー AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE	データ: _____ デフォルト値は Sun Java System Web Server です。

表 4-20 Application Server ロードバランスプラグインの設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Web Server インストールディレクトリ	データ: _____
AS_WEB_SERVER_LOCATION	デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWwbsvr7 Linux の場合: /opt/sun/webserver7
Web Server インスタンスディレクトリ	データ: _____
CMN_WS_INSTANCE_DIR	デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7 Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7

Directory Server 設定情報

この節には、次のトピック用のワークシートが含まれます。

- 104 ページの「[Directory Server インスタンス作成の選択](#)」
- 104 ページの「[Directory Server インスタンス作成](#)」

Directory Server インスタンス作成の選択

このワークシートの各フィールドの詳細については、65 ページの「[Directory Server インスタンス作成の選択情報](#)」の表を参照してください。

表 4-21 Directory Server インスタンス作成の選択の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ディレクトリインスタンスを作成しますか？	データ: _____ デフォルト値は Yes です。
CREATE_INSTANCE	デフォルトを受け入れると、インスタンスの作成に必要な情報を指定するよう求められます。

Directory Server インスタンス作成

このワークシートの各フィールドの詳細については、66 ページの「[Directory Server インスタンス作成情報](#)」の表を参照してください。

表 4-22 Directory Server インスタンス作成の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インスタンスディレクトリ DSEE_INSTANCE_DIRECTORY	データ: デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWdsee/dsinst1 Linux の場合: /var/opt/sun/dsinst1
ディレクトリインスタンスポート DSEE_INSTANCE_PORT	データ: デフォルト値は 389 です。
ディレクトリインスタンス SSL ポート DSEE_INSTANCE_SSL_PORT	データ: デフォルト値は 636 です。
ディレクトリマネージャー DN DSEE_DN_MANAGER	データ: デフォルト値は cn=Directory Manager です。
システムユーザー DSEE_INSTANCE_USER	データ: デフォルト値は root です。
システムグループ DSEE_INSTANCE_GROUP	データ: デフォルト値は root です。
ディレクトリマネージャーパスワード DSEE_INSTANCE_PASSWORD	データ: デフォルト値は、共通サーバー設定で指定した「管理者パスワード」の値です。最低 8 文字以上です。 41 ページの「共通設定」 を参照してください。
サフィックス DSEE_SUFFIX	データ: デフォルト値は、現在のホストの完全修飾ドメイン名のセグメントから構成されます。たとえば、インストール先が siroe.sub1.example.com の場合、デフォルト値は dc=sub1,dc=example,dc=com になります。

HADB の設定情報

このワークシートの各フィールドの詳細については、67 ページの「[HADB の設定情報](#)」の表を参照してください。

表 4-23 HADB の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
HADB 管理ポート	データ:
HADB_DEFAULT_ADMINPORT	例: 1862
HADB リソースディレクトリ	データ:
HADB_DEFAULT_RESDIR	例: /var/opt
HADB 管理者グループ	データ:
HADB_DEFAULT_GROUP	デフォルト値は other です。
システム再起動時に自動的に HADB を起動	データ:
HADB_AUTO_START	デフォルト値は Yes です。
グループ管理の許可	データ:
HADB_ALLOW_GROUPMANAGE	デフォルト値は No です。

Portal Server の設定情報

この節には、次のトピック用のワークシートが含まれます。

- 106 ページの「[Portal Server Web コンテナの選択](#)」
- 107 ページの「[Java ES Application Server 上の Portal Server](#)」
- 108 ページの「[Java ES Web Server 上の Portal Server](#)」
- 109 ページの「[BEA WebLogic Server 上の Portal Server](#)」
- 110 ページの「[IBM WebSphere Application Server 上の Portal Server](#)」
- 112 ページの「[Web コンテナ上の Portal Server](#)」

Portal Server Web コンテナの選択

このワークシートの各フィールドの詳細については、69 ページの「[Portal Server Web コンテナの選択](#)」の表を参照してください。

表 4-24 Portal Server Web コンテナ選択の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
Portal Server の Web コンテナの選択	データ:
PS_DEPLOY_TYPE	デフォルト値は Web Server です。

Java ES Application Server 上の Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、69 ページの「Portal Server: Java ES Application Server が Web コンテナの場合」の表を参照してください。

表 4-25 Java ES Application Server 上の Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_DIR	デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt/SUNWappserver/appserver Linux の場合: /opt/sun/appserver
ドメイン名	データ:
PS_DEPLOY_DOMAIN	デフォルト値は domain1 です。
サーバーインスタンスディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR	デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1 Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1
サーバーインスタンスポート	データ:
PS_DEPLOY_PORT	デフォルト値は 8080 です。
ドキュメントルートディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_DOCROOT	Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/docroot Linux の場合: /var/opt/sun/appserver/domains/domain1/docroot

表 4-25 Java ES Application Server 上の Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理ポート	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	デフォルト値は 4849 です。
管理者ユーザー ID	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN	デフォルト値は admin です。
管理者パスワード	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	デフォルト値は共通サーバー設定の値です。
セキュリティ保護されたサーバインス タンスプロトコル	データ:
PS_DEPLOY_PROTOCOL	デフォルト値は http です。
セキュリティ保護された管理サー バープロトコル	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	デフォルト値は http です。

Java ES Web Server 上の Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、71 ページの「Portal Server: Java ES Web Server が Web コンテナの場合」の表を参照してください。

表 4-26 Java ES Web Server 上の Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_DIR	デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /opt Linux の場合: /opt
インスタンスディレクトリ	データ:
PS_INSTANCE_DIR	デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7/https-hostname.domainame Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7/https-hostname.domainame

表 4-26 Java ES Web Server 上の Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
サーバーインスタンスポート	データ:
PS_DEPLOY_PORT	デフォルト値は 80 です。
管理ホスト	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	完全修飾ドメイン名。例: mycomputer.example.com
管理ポート	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	デフォルト値は 8989 です。
セキュリティ保護されたサーバー管理プロトコル	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	デフォルト値は https です。

BEA WebLogic Server 上の Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、72 ページの「Portal Server: BEA WebLogic が Web コンテナの場合」の表を参照してください。

表 4-27 BEA WebLogic Server 上の Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR	デフォルト値は /usr/local/boa/weblogic81 です。
インスタンスディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR	デフォルト値は /usr/local/boa/user_projects/domains です。
JDK ホームディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_JDK_DIR	デフォルト値は /usr/local/boa/jdk142_05 です。
サーバー / クラスポート	データ:
PS_DEPLOY_PORT	デフォルト値は 7001 です。

表 4-27 BEA WebLogic Server 上の Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
サーバー / クラスタプロトコル	データ:
PS_DEPLOY_PROTOCOL	デフォルト値は http です。
管理者ユーザー ID	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN	デフォルト値は weblogic です。
管理者パスワード	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	
管理ホスト	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	完全修飾ドメイン名。例: mycomputer.example.com
管理ポート	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	デフォルト値は 7001 です。
管理プロトコル	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	デフォルト値は http です。
管理対象サーバー	データ:
PS_DEPLOY_NOW	デフォルト値は n です。

IBM WebSphere Application Server 上の Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、73 ページの「Portal Server: IBM WebSphere が Web コンテナの場合」の表を参照してください。

表 4-28 IBM WebSphere Application Server 上の Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
インストールディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_DIR	デフォルト値は次のとおりです。 /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer

表 4-28 IBM WebSphere Application Server 上の Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
セル名	データ:
PS_DEPLOY_CELL	デフォルト値は DefaultNode です。
ノード名	データ:
PS_DEPLOY_NODE	デフォルト値は DefaultNode です。
サーバーインスタンス	データ:
PS_DEPLOY_INSTANCE	デフォルト値は server1 です。
サーバーインスタンスポート	データ:
PS_DEPLOY_PORT	デフォルト値は 9080 です。
サーバーインスタンスプロトコル	データ:
PS_DEPLOY_PROTOCOL	デフォルト値は http です。
ドキュメントルートディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_DOCROOT	デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/AppServer/installedApps\DefaultNode/DefaultApplication.ear です。
JDK ホームディレクトリ	データ:
PS_DEPLOY_JDK_DIR	デフォルト値は /opt/IBM/WebSphere/Express51/Appserver/java です。
管理者ユーザー ID	データ:
PS_DEPLOY_ADMIN	デフォルト値は weblogic です。
管理者パスワード	WebSphere 管理者 (システムユーザー) のパスワード。
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD	
管理ホスト	管理サーバーホスト名。完全修飾ドメイン名。たとえば、mycomputer.example.com です。
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	
管理ポート	デフォルト値は 7090 です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	

表 4-28 IBM WebSphere Application Server 上の Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理プロトコル PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	管理ポートがセキュリティー保護されたポートであるかどうかを指定します。セキュリティー保護されたポートでは、HTTPS プロトコルが使用されます。セキュリティー保護されていないポートでは、HTTP が使用されます。 デフォルト値は http です。

Web コンテナ上の Portal Server

このワークシートの各フィールドの詳細については、75 ページの「Portal Server Web コンテナの配備に関する情報」の表を参照してください。

表 4-29 Web Container 上の Portal Server の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ポータルアクセス URL PS_PORTALACCESS_URL	データ: _____
ポータル ID PS_PORTAL_ID	データ: _____
検索 ID PS_SEARCH_ID	デフォルト値は portal1 です。 データ: _____
配備 URI PS_DEPLOY_URI	デフォルト値は search1 です。 データ: _____
ポータルインスタンス ID PS_INSTANCE_ID	デフォルト値は /portal です。 データ: _____
Secure Remote Access を有効 SRA_SWITCH_CORE	データ: _____
開発者用サンプル PS_DEVELOPER_PORTAL	デフォルト値は Disabled です。 データ: _____
	デフォルトでオンになっています。

表 4-29 Web Container 上の Portal Server の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
エンタープライズサンプル	データ:
PS_ENTERPRISE_PORTAL	デフォルトでオンになっています。
コミュニティーサンプル	データ:
PS_COMMUNITY_PORTAL	デフォルトでオンになっています。

Portal Server Secure Remote Access の設定情報

この節には、次のトピック用のワークシートが含まれます。

- 113 ページの「Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセス」
- 114 ページの「Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ設定」
- 115 ページの「Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシ」
- 116 ページの「Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシ」
- 116 ページの「Portal Server Secure Remote Access 証明書」

Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセス

このワークシートの各フィールドの詳細については、77 ページの「Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセス」の表を参照してください。

表 4-30 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセスの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト名	データ:
SRA_SERVER_HOST	デフォルト値は、ローカルホストの名前です。
サブドメイン	データ:
SRA_SERVER_DOMAIN	デフォルト値は、ホストのドメイン名です。
ドメイン	データ:
SRA_GATEWAY_DOMAIN	デフォルト値はホストのデフォルトドメインです。

表 4-30 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイアクセスの設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
アクセスポート	データ:
SRA_GATEWAY_PORT	デフォルト値は 443 です。
ゲートウェイプロファイル名	データ:
SRA_GATEWAY_PROFILE	デフォルト値は default です。
ログのユーザーパスワード	データ:
SRA_LOG_USER_PASSWORD	

Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ設定

このワークシートの各フィールドの詳細については、78 ページの「Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイ設定」の表を参照してください。

表 4-31 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
プロトコル	データ:
SRA_GW_PROTOCOL	デフォルト値は https です。
ホスト名	データ:
SRA_GW_HOSTNAME	デフォルト値は、ローカルホストの名前です。
サブドメイン	データ:
SRA_GW_SUBDOMAIN	デフォルト値は存在しません。
ドメイン	データ:
SRA_GW_DOMAIN	デフォルト値は、ローカルホストのドメインです。
ホスト IP アドレス	データ:
SRA_GW_IPADDRESS	デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。

表 4-31 Portal Server Secure Remote Access ゲートウェイの設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
アクセスポート	データ:
SRA_GW_PORT	デフォルト値は 443 です。
ゲートウェイプロファイル名	データ:
SRA_GW_PROFILE	デフォルト値は default です。

Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシ

このワークシートの各フィールドの詳細については、79 ページの「[Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシ設定](#)」の表を参照してください。

表 4-32 Portal Server Secure Remote Access Netlet プロキシの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト名	データ:
SRA_NLP_HOSTNAME	デフォルト値は、ローカルホストの名前です。
サブドメイン	データ:
SRA_NLP_SUBDOMAIN	デフォルト値は存在しません。
ドメイン	データ:
SRA_NLP_DOMAIN	デフォルト値は、ローカルホストのドメインです。
ホスト IP アドレス	データ:
SRA_NLP_IPADDRESS	デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。
アクセスポート	データ:
SRA_NLP_PORT	デフォルト値は 10555 です。
ゲートウェイプロファイル名	データ:
SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE	デフォルト値は default です。

Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシ

このワークシートの各フィールドの詳細については、80 ページの「Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシ設定」の表を参照してください。

表 4-33 Portal Server Secure Remote Access Rewriter プロキシの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ホスト名	データ: _____
SRA_RWP_HOSTNAME	デフォルト値は、ローカルホストの名前です。
サブドメイン	データ: _____
SRA_RWP_SUBDOMAIN	デフォルト値は存在しません。
ドメイン	データ: _____
SRA_RWP_DOMAIN	デフォルト値は、ローカルホストのドメイン名です。
ホスト IP アドレス	データ: _____
SRA_RWP_IPADDRESS	デフォルト値は、ローカルホストの IP アドレスです。
アクセスポート	データ: _____
SRA_RWP_PORT	デフォルト値は 10443 です。
ゲートウェイプロファイル名	データ: _____
SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE	デフォルト値は default です。

Portal Server Secure Remote Access 証明書

このワークシートの各フィールドの詳細については、80 ページの「Portal Server Secure Remote Access 証明書情報」の表を参照してください。

表 4-34 Portal Server Secure Remote Access 証明書の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
組織	データ: _____
SRA_CERT_ORGANIZATION	
部署	データ: _____
SRA_CERT_DIVISION	

表 4-34 Portal Server Secure Remote Access 証明書の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
市 / 地域	データ: _____
SRA_CERT_CITY	
州 / 都道府県名	データ: _____
SRA_CERT_STATE	
国名コード	データ: _____
SRA_CERT_COUNTRY	2 文字の国名コード。
証明書データベースパスワード	データ: _____
SRA_CERT_PASSWORD	自己署名付き証明書にのみ適用されるパスワード (および確認用パスワード)。

Web Proxy Server の設定情報

このワークシートの各フィールドの詳細については、[81 ページの「Web Proxy Server の設定情報」](#)の表を参照してください。

表 4-35 Web Proxy Server 管理の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理者ユーザー ID	データ: _____
WPS_ADMIN_USER	例: admin (デフォルトは共通サーバー設定の値)
管理者パスワード	データ: _____
WPS_ADMIN_PASSWORD	デフォルトは共通サーバー設定の値です。
プロキシサーバードメイン名	データ: _____
WPS_PROXY_DOMAIN	
管理ポート	データ: _____
WPS_ADMIN_PORT	デフォルト値は次のとおりです。8888
管理サーバー実行時ユーザー ID	データ: _____
WPS_ADMIN_RUNTIME_USER	デフォルト値は次のとおりです。root
インスタンス実行時ユーザー ID	データ: _____
WPS_INSTANCE_RUNTIME_USER	デフォルト値は次のとおりです。nobody
プロキシインスタンスポート	データ: _____
WPS_INSTANCE_PORT	デフォルト値は次のとおりです。8080

表 4-35 Web Proxy Server 管理の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
システム再起動時に自動的に Web Proxy Server を起動	データ: _____ デフォルト値は N です。
WPS_INSTANCE_AUTO_START	

Web Server の設定情報

この節には、次のトピック用のワークシートが含まれます。

- 118 ページの「Web Server 設定タイプ」
- 118 ページの「Web Server 管理サーバー設定」
- 119 ページの「Web Server 管理ノード設定」
- 120 ページの「Web Server インスタンス設定」

Web Server 設定タイプ

このワークシートの各フィールドの詳細については、83 ページの「Web Server の設定タイプの選択」の表を参照してください。

表 4-36 Web Server 設定タイプの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
管理インスタンスをサーバーとして設定	データ: _____ デフォルトでオンになっています。
WS_ADMIN_IS_SERVER_MODE	
管理インスタンスをノードとして設定	データ: _____ デフォルトでオフになっています。
WS_ADMIN_IS_NODE_MODE	
システム起動後にサーバーを起動	データ: _____ デフォルト値は F です。
WS_START_ON_BOOT	

Web Server 管理サーバー設定

このワークシートの各フィールドの詳細については、83 ページの「Web Server 管理サーバー設定」の表を参照してください。

表 4-37 Web Server Administration Server 設定の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
サーバーホスト	データ: _____
WS_ADMIN_HOST	値の書式は <i>hostname.domainname</i> です。
SSL ポート	データ: _____
WS_ADMIN_SSL_PORT	デフォルト値は 8989 です。
HTTP ポート	データ: _____
WS_ADMIN_HTTP_PORT	デフォルト値は 8800 です。
実行時ユーザー ID	データ: _____
WS_ADMIN_SERVER_USER	デフォルトは、root または共通サーバー設定で指定した値です。
管理者ユーザー ID	データ: _____
WS_ADMIN_LOGIN_USER	デフォルトは、admin または共通サーバー設定で指定した値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。
管理者パスワード	データ: _____
WS_ADMIN_LOGIN_PASSWORD	デフォルトは、共通サーバー設定で指定した値です。 注意: 単一の管理者アカウントを使用する場合、このフィールドは表示されません。

Web Server 管理ノード設定

このワークシートの各フィールドの詳細については、85 ページの「[Web Server 管理ノード設定](#)」の表を参照してください。

表 4-38 Web Server 管理ノード設定の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ノードホスト	データ: _____
WS_NODE_HOST	ホストの完全修飾名。例: mycomputer.example.com
SSL ポート	データ: _____
WS_NODE_SSL_PORT	デフォルト値は 8989 です。
実行時ユーザー ID	データ: _____
WS_INSTANCE_USER	デフォルト値は root です。

表 4-38 Web Server 管理ノード設定の設定用ワークシート (続き)

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
ノードをリモート管理サーバーに登録する	データ: _____ デフォルトでオンになっています。
WS_REGISTER_NODE	
リモートサーバーホスト	データ: _____
WS_ADMIN_HOST	管理サーバーのインストール先リモートホストの完全修飾ドメイン名。
リモートサーバー SSL ポート	データ: _____
WS_ADMIN_SSL_PORT	デフォルト値は 8989 です。
リモートサーバーユーザー名	データ: _____
WS_ADMIN_LOGIN_USER	リモート管理サーバーにログインするために使用する管理者ユーザー名。
リモートサーバーパスワード	データ: _____
WS_ADMIN_LOGIN_PASSWORD	リモート管理サーバーにログインするために使用するパスワード。

Web Server インスタンス設定

このワークシートの各フィールドの詳細については、[86 ページの「Web Server インスタンス設定」](#)の表を参照してください。

表 4-39 Web Server インスタンス設定の設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
サーバー名	データ: _____
WS_SERVER_NAME	デフォルト値は次のとおりです。<hostname.domainname>
HTTP ポート	データ: _____
WS_HTTP_PORT	デフォルト値は次のとおりです。80
実行時 UNIX ユーザー ID	データ: _____
WS_SERVER_USER	デフォルト値は次のとおりです。webservd
ドキュメントルートディレクトリ	データ: _____
WS_DOCROOT	デフォルト値は次のとおりです。 Solaris OS の場合: /var/opt/SUNWwbsvr7/https- <i>hostname.domain</i> /docs Linux の場合: /var/opt/sun/webserver7/https- <i>hostname.domain</i> /docs

状態ファイル設定情報内でのみ使用されるパラメータ

このワークシートの各フィールドの詳細については、[87 ページ](#)の「状態ファイルのみで使用されるパラメータ」の表を参照してください。

表 4-40 状態ファイルで使用されるパラメータの設定用ワークシート

ラベルと状態ファイルのパラメータ	データ
CCCP_UPGRADE_EXTERNAL_ \	データ: _____
INCOMPATIBLE_JDK	このパラメータでは、大文字と小文字は区別されます。デフォルト値は no です。
CONFIG_TYPE	データ: _____ デフォルト値は Custom で、「今すぐ設定」を選択した場合と同じ結果が得られます。
DeploymentServer	データ: _____ デフォルト値は AppServer です。
PS_DEPLOY_TYPE	データ: _____ 指定可能な値は、IWS、SUNONE8、WEBLOGIC、WEBSPHERE です。
LOCALE	データ: _____ 指定可能な値は False です。
LICENSE_TYPE	データ: _____ 指定可能な値は「Evaluation」および「Deployment」ですが、このフィールドは使用されません。
PSP_EXIT_ON_DEPENDENCY_WARNING	データ: _____ 指定可能な値は No です。
PSP_LOG_CURRENTLY_INSTALLED	データ: _____ 指定可能な値は Yes です。
PSP_SELECTED_COMPONENTS	データ: _____ 指定可能な値は ALL です。

インストール可能なパッケージの一覧

次の節では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) インストーラによりインストールされるパッケージの一覧を示します。

- [123 ページの「Solaris パッケージ」](#)
- [141 ページの「Linux パッケージ」](#)

Solaris パッケージ

この節では、Solaris OS と関連のある Java ES パッケージの一覧を示します。

- [123 ページの「Solaris OS 用インストールパッケージ」](#)
- [124 ページの「Solaris OS 用アンインストールパッケージ」](#)
- [124 ページの「製品コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ」](#)
- [132 ページの「共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ」](#)
- [134 ページの「ローカライズされた Solaris パッケージ」](#)

Solaris OS 用インストールパッケージ

表 5-1 Solaris OS 用インストールパッケージ

パッケージ	パッケージ名
Java ES All	SUNWentsys5u1i
Application Platform Suite	SUNWapp-entsys5u1i
Availability Suite	SUNWavail-entsys5u1i
Identity Management Suite	SUNWident-entsys5u1i

表 5-1 Solaris OS 用インストールパッケージ (続き)

パッケージ	パッケージ名
Web Infrastructure Suite	SUNWweb-entsys5u1i
共有コンポーネントバンドル	SUNWshare-entsys5u1i

Solaris OS 用アンインストールパッケージ

表 5-2 Solaris OS 用アンインストールパッケージ

パッケージ	パッケージ名
Java ES All	SUNWentsys5u1
Application Platform Suite	SUNWapp-entsys5u1
Availability Suite	SUNWavail-entsys5u1
Identity Management Suite	SUNWident-entsys5u1
Web Infrastructure Suite	SUNWweb-entsys5u1

製品コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ

この節では、Java ES の各製品コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージを示します。

Access Manager の Solaris パッケージ

表 5-3 Solaris OS 用 Access Manager パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Access Manager	SUNWamsam
	SUNWamsci
	SUNWamrsa
	SUNWamclnt
	SUNWamutl
アイデンティティ管理とポリシーサービスコア	SUNWamsvc SUNWamsvcconfig

表 5-3 Solaris OS 用 Access Manager パッケージ (続き)

製品コンポーネント	パッケージ
管理コンソール	SUNWamcon SUNWampwd
連携管理の共有ドメインサービス	SUNWamfcd
Access Manager SDK	SUNWamext SUNWamconsdk SUNWamsdk SUNWamclnt SUNWamsdkconfig SUNWamdistauth
分散認証	SUNWamclnt SUNWamdistauth SUNWamutl
クライアント SDK	SUNWamclnt SUNWamutl
セッションフェイルオーバークライアント	SUNWamsfodb

Application Server の Solaris パッケージ

表 5-4 Solaris OS 用 Application Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server、Enterprise Edition	SUNWasacee SUNWascm1 SUNWasdem SUNWashdm SUNWasman SUNWasmanee SUNWascmn SUNWascmnse SUNWasu SUNWasuee SUNWasut SUNWasr SUNWasjdoc SUNWasJdbcDrivers
管理クライアント	SUNWasac
ロードバランスプラグイン	SUNWaslb

Directory Preparation Tool パッケージ

表 5-5 Solaris OS 用 Directory Preparation Tool パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Directory Preparation Tool	SUNWcomds

Directory Server の Solaris パッケージ

表 5-6 Solaris OS 用 Directory Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Directory Server Core Server	SUNWldap-console-agent
	SUNWldap-console-cli
	SUNWldap-console-common
	SUNWldap-console-gui
	SUNWldap-console-gui-help
	SUNWldap-console-var
	SUNWldap-directory
	SUNWldap-directory-client
	SUNWldap-directory-config
	SUNWldap-directory-dev
	SUNWldap-directory-man
Directory Service Control Center	SUNWldap-shared
	SUNWldap-console
	SUNWldap-console-common
	SUNWldap-console-gui
	SUNWldap-console-gui-help
	SUNWldap-console-var
	SUNWldap-directory-client
	SUNWldap-proxy-client
Directory Proxy Server	SUNWldap-shared
	SUNWldap-proxy
	SUNWldap-proxy-config
	SUNWldap-proxy-client
	SUNWldap-console-common
	SUNWldap-console-var
	SUNWldap-console-agent
	SUNWldap-directory-man
	SUNWldap-shared

表 5-6 Solaris OS 用 Directory Server パッケージ (続き)

製品コンポーネント	パッケージ
Directory Service コマンド行ユーティリティ	SUNWldap-console-cli SUNWldap-console-common SUNWldap-directory-client SUNWldap-proxy-client SUNWldap-console-var SUNWldap-shared

HADB の Solaris パッケージ

表 5-7 Solaris OS 用 HADB パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
HADB	SUNWhadb SUNWhadbbe SUNWhadbv SUNWhadbx SUNWhadba SUNWhadbi SUNWhadbs SUNWhadbj SUNWhadbm

Java DB Solaris パッケージ

表 5-8 Java DB Solaris パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Java DB	SUNWjavadb-common SUNWjavadb-client SUNWjavadb-core SUNWjavadb-demo SUNWjavadb-docs SUNWjavadb-javadoc

Message Queue の Solaris パッケージ

表 5-9 Solaris OS 用 Message Queue パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Message Queue	SUNWiqcdv
	SUNWiqcrt
	SUNWiqdoc
	SUNWiqfs
	SUNWiqjx
	SUNWiqlen
	SUNWiqtpl
	SUNWiqr
	SUNWiqu
	SUNWiquc
	SUNWiqum

Monitoring Console Solaris パッケージ

表 5-10 Solaris OS 用 Monitoring Console パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Monitoring Console	SUNWjesmc
	SUNWjesmcr
	SUNWmfwk-ma

Portal Server の Solaris パッケージ

表 5-11 Solaris OS 用 Portal Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Portal Server	SUNWebnfs
	SUNWportal-admin
	SUNWportal-base
	SUNWportal-portlets
	SUNWportal-search

Portal Server Secure Remote Access の Solaris パッケージ

表 5-12 Solaris OS 用 Portal Server SRA パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Portal Server Secure Remote Access	SUNWportal-sracommon SUNWportal-sracore SUNWportal-sragateway SUNWportal-sranetletproxy SUNWportal-srarewriterproxy

Service Registry の Solaris パッケージ

表 5-13 Solaris OS 用 Service Registry パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Service Registry	SUNWsrvc-registry-dev SUNWsrvc-registry-deploy

Sun Cluster Geographic Edition Solaris パッケージ

表 5-14 Solaris OS 用 Sun Cluster Geographic Edition パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Sun Cluster Geographic Edition	SUNWscmautil SUNWscmautilr SUNWscggb SUNWschbr SUNWscgctl SUNWscgctlr SUNWscgreptc SUNWscgreptcu SUNWscgsmp SUNWscgman SUNWscgrepavsu SUNWscgrepsrdfu (SPARC のみ) SUNWscgrepsrdf SUNWscgrepavs

Sun Cluster ソフトウェアとエージェントの Solaris パッケージ

表 5-15 Solaris 9 OS 用 Sun Cluster ソフトウェアパッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWscdev
	SUNWscgds
	SUNWscman
	SUNWscnm
	SUNWscr
	SUNWscsal
	SUNWscvm (SPARC のみ)
	SUNWmdm
	SUNWscsam
	SUNWscsck
	SUNWscu
	SUNWscva
	SUNWscmasa
	SUNWscspm
	SUNWscspmu
	SUNWscspmr

表 5-16 Solaris 10 OS 用 Sun Cluster パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWscdev
	SUNWscgds
	SUNWscman
	SUNWscnm
	SUNWscr
	SUNWscsal
	SUNWscvm (SPARC のみ)
	SUNWscu
	SUNWscva
	SUNWscspm
	SUNWscspmu
	SUNWscspmr
	SUNWmdmr
	SUNWmdmu
	SUNWscmasar
	SUNWscmasau
	SUNWscnmr
	SUNWscnmu
	SUNWscsckr
	SUNWscscku

表 5-17 Solaris OS 用 Sun Cluster Agents for Sun Java System パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server データサービス	SUNWscslas
Calendar Server データサービス	SUNWscics
Directory Server データサービス	SUNWldap-directory-ha
Instant Messaging データサービス	SUNWiimsc
Message Queue データサービス	SUNWscslmq
Messaging Server データサービス	SUNWscims
Sun Java System HADB 用 Sun Cluster HA データサービス	SUNWschadb
Web Server データサービス	SUNWschtt

Web Server の Solaris パッケージ

表 5-18 Solaris OS 用 Web Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Web Server	SUNWwbsvr7 SUNWwbsvr7-cli SUNWwbsvr7-dev SUNWwbsvr7x

Web Proxy Server

表 5-19 Solaris OS 用 Web Proxy Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Web Proxy Server	SUNWproxy

共有コンポーネント用にインストールされる Solaris パッケージ

表 5-20 Solaris OS 用共有コンポーネントパッケージ

共有コンポーネント	パッケージ	
Ant	SUNWant	
ACL (Apache Common Logging)	SUNWaclg	
Berkeley DB	SUNWbdb	SUNWbdbj
共通エージェントコンテナ	SUNWcacao SUNWcacaocfg SUNWcacaort SUNWcacaomon SUNWcacaowsvr	
FastInfoSet	SUNWfastinfofet	
ICU (International Components for Unicode)	SUNWicu SUNWicux (SPARC 8、9 のみ)	
J2SE (Java 2 Standard Edition) JDK 1.5	SUNWj5rt SUNWj5cfg SUNWj5dev SUNWj5dmo SUNWj5man	SUNWj5jmp SUNWj5rtx SUNWj5dvx SUNWj5dmx
JATO (Java Studio Enterprise Web Application Framework)	SUNWjato SUNWjatodoc	SUNWjatodmo
JavaHelp ソフトウェア	SUNWjhrt SUNWjhdev	SUNWjhdoc SUNWjhdem
Java Mail API	SUNWjmail	
JAXB (Java Architecture for XML Binding)	SUNWjaxb SUNWjaxb2	
JAF (JavaBeans Activation Framework)	SUNWjaf	
JAXP (Java API for XML Processing)	SUNWjaxp	
JAXR (Java API for XML Registries) Runtime	SUNWxrgrt	
JAX-RPC (Java API for XML-based Remote Procedure Call)	SUNWxrpcrt SUNWxrgrtcompat	

表 5-20 Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ (続き)

共有コンポーネント	パッケージ	
JAXWS (Java API for XML Web Services)	SUNWjaxws	
JDMK (Java Dynamic Management Kit)	SUNWjdmk-runtime SUNWjdmk-runtime-jmx	
JSTL (Java Server Pages Standard Tag Library)	SUNWjstl	
JSS (Java Security Services)	SUNWjss SUNWjssx (SPARC 8、9 のみ)	
KTSE (KT Search Engine)	SUNWktse	
LDAP C Language SDK	SUNWldk SUNWldapcsdk-dev SUNWldapcsdk-libs SUNWldapcsdk-tools	
LDAP Java SDK	SUNWljdk	
MA コア (Mobile Access コア)	SUNWamma SUNWammae SUNWma SUNWmae	
NSPR (Netscape Portable Runtime)	SUNWpr SUNWprx (SPARC) SUNWprd	
NSS (Netscape Security Services)	SUNWtls SUNWtlx (SPARC 8、9 のみ)	
SAAJ (SOAP With Attachments API for Java)	SUNWxsrt SUNWxsrtcompat	
SASL (Simple Authentication Security Layer)	SUNWsasl SUNWsaslx (SPARC 8、9 のみ)	
Sun Explorer Data Collector	SUNWexplo SUNWexplj	SUNWexplu
Sun Java Monitoring Framework	SUNWmfwk-rt SUNWservicetagr SUNWservicetagu SUNWstosreg SUNWstjapi (Sparc s9,s10 & x86 10)	
Sun Java Web Console	SUNWmcon SUNWmconr SUNWmcos	SUNWmcosx SUNWmctag

表 5-20 Solaris OS 用共用コンポーネントパッケージ (続き)

共有コンポーネント	パッケージ
WSCL (Web Services Common Library)	SUNWwsc1 SUNWwsc1compat
XWSS (XML Web Services Security)	SUNWxwss

ローカライズされた Solaris パッケージ

この節では、製品コンポーネントのローカライズされたパッケージおよびローカライズされた共有コンポーネントを示します。大半の製品コンポーネントでは、グローバルなオールインワン言語パッケージを提供します。このローカリゼーションパッケージ名には `l10n` という文字が含まれます。

ただし、一部のコンポーネントでは、言語ごとに別個のパッケージが用意されているものもあります。これらのパッケージについては、この節の個別の言語の表に示します。グローバルパッケージの一部ではないローカライズされたコンポーネントには、Application Server、Message Queue、すべての Sun Cluster コンポーネント、JavaBeans Activation Framework、Java Mail API、Mobile Access コア、および Sun Java Web Console が含まれます。グローバル言語パッケージにも、個別の言語パッケージにも記載されていないコンポーネントはローカライズされていません。ローカライズされた各言語パッケージの名前には、言語を識別するための文字が含まれます。一部のパッケージでは、パッケージ名に含まれる「SUNW」の後に 1 文字が挿入されています。たとえば、日本語にローカライズされた Web Server のパッケージ名は `SUNWjwbsvr` で、このパッケージの韓国語バージョンの名前は `SUNWkwbsvr` です。

次の表は、ローカライズされたパッケージ名の識別に使用される 1 文字と 2 文字の略号を示しています。

表 5-21 パッケージ名に含まれる言語略号

言語	1 文字の略号	2 文字の略号
簡体字中国語	c	zh
繁体字中国語	h	tw
フランス語	f	fr
ドイツ語	d	de
日本語	j	ja
韓国語	k	ko

表 5-21 パッケージ名に含まれる言語略号 (続き)

言語	1 文字の略号	2 文字の略号
スペイン語	e	es

Solaris グローバル言語パッケージ

表 5-22 Solaris 用グローバル言語パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Access Manager	SUNWam-l10n SUNWamclnt-l10n SUNWamdistauth-l10n
Directory Server	SUNWldap-directory-l10n SUNWldap-directory-client-l10n SUNWldap-shared-l10n SUNWldap-console-gui-help-l10n SUNWldap-console-gui-l10n
Monitoring Console	SUNWjesmc-l10n
Portal Server および Portal SRA	SUNWamma-l10n SUNWportal-admin-l10n SUNWportal-base-l10n SUNWportal-portlets-l10n SUNWportal-search-l10n SUNWportal-sracore-l10n SUNWportal-sranetletporxy-l10n
Service Registry	SUNWsvrc-registry-deploy-l10n SUNWsvrc-registry-dev-l10n
Web Server	SUNWwbsvr7-l10n SUNWwbsvr7-cli-l10n
Web Proxy Server	SUNWproxy-l10n

簡体字中国語の Solaris パッケージ

表 5-23 簡体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	SUNWcasacee SUNWcascmnse SUNWcasu SUNWcasuee
Message Queue	SUNWciqu SUNWciquc
Sun Cluster エージェント	SUNWcschtt SUNWcscslas SUNWcschadb SUNWcscslmq
Sun Cluster Geographic Edition	SUNWcscgctl SUNWcscgrepavsu SUNWcscgreptcu SUNWcscgrepsrdfu SUNWcscgspm
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWcsc SUNWcscspmu SUNWcscspm
Java Mail ランタイム	SUNWcjafo SWUNCjmailo SUNWcmailo
Java Beans アクティベーションフレームワーク	SUNWcjaf SUNWcjafo
Sun Java Web Console	SUNWcmcon SUNWcmctg

繁体字中国語の Solaris パッケージ

表 5-24 繁体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	SUNWhasacee SUNWhascmnse SUNWhasu SUNWhasuee

表 5-24 繁体字中国語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

製品コンポーネント	パッケージ
Message Queue	SUNWhiqu SUNWhiquc
Sun Cluster エージェント	SUNWhschtt SUNWhscslas SUNWhscslmq SUNWhschadb
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWhsc SUNWhscspm SUNWhscspmu
Java Mail ランタイム	SUNWhjafo SWUNhjmailo SUNWhmailo
Java Beans アクティベーションフレームワーク	SUNWhjaf SUNWhjafo
Sun Java Web Console	SUNWhmcon SUNWhmctg

フランス語の **Solaris** パッケージ

表 5-25 フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	SUNWfasacee SUNWfascmnse SUNWfasu SUNWfasuee
Message Queue	SUNWfiqu SUNWfiquc
Sun Cluster エージェント	SUNWfschtt SUNWfscslas SUNWfschadb SUNWfscslmq
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWfsc SUNWfscspmu SUNWfscspm
Java Beans アクティベーションフレームワーク	SUNWfjaf SUNWjjafo

表 5-25 フランス語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

製品コンポーネント	パッケージ
Java Mail ランタイム	SUNWfjafo SWUNfjmailo SUNWfmailo
Sun Java Web Console	SUNWfmcon SUNWfmctg

ドイツ語の Solaris パッケージ

表 5-26 ドイツ語にローカライズされた Solaris パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	SUNWdasacee SUNWdascmnse SUNWdasu SUNWdasuee
Message Queue	SUNWdiqu SUNWdiquc
Sun Cluster エージェント	SUNWdschtt SUNWdscslas SUNWdscslmq SUNWdschadb
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWdsc SUNWdscspmu SUNWdscspm
Java Beans アクティベーションフレームワーク	SUNWdjaf SUNWdjaf0
Java Mail ランタイム	SUNWdjaf0 SWUNdjmailo SUNWdmailo
Sun Java Web Console	SUNWdmcon SUNWdmctg

日本語の Solaris パッケージ

表 5-27 日本語にローカライズされた Solaris パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	SUNWjasacee SUNWjascmnse SUNWjasu SUNWjasuee
Message Queue	SUNWjiqu SUNWjiquc
Sun Cluster エージェント	SUNWjschtt SUNWjscslas SUNWjschadb SUNWjscslmq
Sun Cluster Geographic Edition	SUNWjscgregavsu SUNWjscgreptcu SUNWjscgrepsrdfu SUNWjscgman SUNWjscgctl SUNWjscgspm
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWjsc SUNWjscspmu SUNWjscspm SUNWjscman
Java Beans アクティベーションフレームワーク	SUNWjjaf SUNWjjaf0
Java Mail ランタイム	SUNWjjaf0 SWUNjjmail0 SUNWjjmail0
Sun Java Web Console	SUNWjmcon SUNWjmctg

韓国語の Solaris パッケージ

表 5-28 韓国語にローカライズされた Solaris パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	SUNWkasacee SUNWkascmnse SUNWkasu SUNWkasuee
Message Queue	SUNWkiqu SUNWkiquc
Sun Cluster エージェント	SUNWkschtt SUNWkscslas SUNWkschadb SUNWkscslmq
Sun Cluster Geographic Edition	SUNWkscgctl SUNWkscgrepavsu SUNWkscgreptcu SUNWkscgrepsrdfu SUNWkscgspm
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWksc SUNWkscspmu SUNWkscspm
Java Beans アクティベーションフレームワーク	SUNWkjaf SUNWkjafo
Java Mail ランタイム	SUNWkjafo SWUNkjmailo SUNWkmailo
Sun Java Web Console	SUNWkmcon SUNWkmctg

スペイン語の Solaris パッケージ

表 5-29 スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	SUNWkasacee SUNWkascmnse SUNWkasu SUNWkasuee

表 5-29 スペイン語にローカライズされた Solaris パッケージ (続き)

製品コンポーネント	パッケージ
Message Queue	SUNWeiqu SUNWeiquc
Sun Cluster エージェント	SUNWeschtt SUNWeschadb SUNWescs1mq SUNWescs1as
Sun Cluster ソフトウェア	SUNWesc SUNWescspm SUNWescspmu
Java Beans アクティベーションフレームワーク	SUNWejaf SUNWejafo
Java Mail ランタイム	SUNWemailo SWUNejmailo SUNWejafo
Sun Java Web Console	SUNWemcon SUNWemctg

Linux パッケージ

この節では、Linux オペレーティングシステムと関連のある Java ES パッケージを示します。

- 141 ページの「Linux 用インストールパッケージ」
- 142 ページの「Linux 用アンインストールパッケージ」
- 142 ページの「製品コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ」
- 148 ページの「共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ」
- 149 ページの「ローカライズされた Linux パッケージ」

Linux 用インストールパッケージ

表 5-30 Linux 用インストールパッケージ

パッケージ	パッケージ名
Java ES All	sun-entsys5u1i
Application Platform Suite	sun-app-entsys5u1i

表 5-30 Linux 用インストールパッケージ (続き)	
パッケージ	パッケージ名
Identity Management Suite	sun-ident-entsys5u1i
Web Infrastructure Suite	sun-web-entsys5u1i
共有コンポーネントバンドル	sun-share-entsys5u1i

Linux 用アンインストールパッケージ

表 5-31 Linux 用アンインストールパッケージ

パッケージ	パッケージ名
Java ES All	sun-entsys5u1
Application Platform Suite	sun-app-entsys5u1
Identity Management Suite	sun-ident-entsys5u1
Web Infrastructure Suite	sun-web-entsys5u1

製品コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ

この節では、Java ES の各製品コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージを示します。

Access Manager の Linux パッケージ

表 5-32 Linux 用 Access Manager パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-samples sun-identity-sci sun-identity-clientsdk sun-identity-utils
アイデンティティ管理とポリシーサービスコア	sun-identity-services sun-identity-services-config

表 5-32 Linux 用 Access Manager パッケージ (続き)

製品コンポーネント	パッケージ
管理コンソール	sun-identity-console sun-identity-password
連携管理の共有ドメインサービス	sun-identity-federation
Access Manager SDK	sun-identity-distauth sun-identity-console-sdk sun-identity-external sun-identity-sdk sun-identity-sdk-config sun-identity-clientsdk
分散認証	sun-identity-clientsdk sun-identity-distauth sun-identity-utils
クライアント SDK	sun-identity-clientsdk sun-identity-utils
セッションフェイルオーバークライアント	sun-identity-sfodb

Application Server の Linux パッケージ

表 5-33 Linux 用 Application Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server、Enterprise Edition	sun-asJdbcDrivers sun-asacee sun-asctl sun-ascmn sun-ascmnse sun-asdem sun-ashdm sun-asjdoc sun-asman sun-asmanee sun-asu sun-asuee sun-asut sun-aswbcr
Administration Client	sun-asac
ロードバランスプラグイン	sun-aslb

Directory Preparation Tool Linux パッケージ

表 5-34 Linux 用 Directory Preparation Tool パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Directory Preparation Tool	sun-comms-dssetup

Directory Server の Linux パッケージ

表 5-35 Linux 用 Directory Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Directory Server Core Server	sun-ldap-directory sun-ldap-directory-client sun-ldap-directory-config sun-ldap-directory-dev sun-ldap-console-common sun-ldap-console-var sun-ldap-console-agent sun-ldap-directory-man sun-ldap-shared
Directory Service Control Center	sun-ldap-console-common sun-ldap-console-gui sun-ldap-console-gui-help sun-ldap-console-var sun-ldap-directory-client sun-ldap-proxy-client sun-ldap-shared
Directory Proxy Server	sun-ldap-proxy sun-ldap-proxy-config sun-ldap-proxy-client sun-ldap-console-common sun-ldap-console-var sun-ldap-console-agent sun-ldap-proxy-man sun-ldap-shared

表 5-35 Linux 用 Directory Server パッケージ (続き)

製品コンポーネント	パッケージ
Directory Service コマンド行ユーティリティ	sun-ldap-console-cli sun-ldap-console-common sun-ldap-directory-client sun-ldap-proxy-client sun-ldap-console-var sun-ldap-console-agent sun-ldap-shared

HADB の Linux パッケージ

表 5-36 Linux 用 HADB パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
HADB	sun-hadb-a sun-hadb-c sun-hadb-e sun-hadb-i sun-hadb-j sun-hadb-m sun-hadb-s sun-hadb-v sun-hadb-x

Java DB Linux パッケージ

表 5-37 Java DB Linux パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Java DB	sun-javadb-client sun-javadb-common sun-javadb-core sun-javadb-demo sun-javadb-docs sun-javadb-javadoc

Message Queue の Linux パッケージ

表 5-38 Linux 用 Message Queue パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Message Queue	sun-mq sun-mq-config sun-mq-var sun-mq-ent sun-mq-jaxm sun-mq-jmsclient sun-mq-xmlclient sun-mq-compatible sun-mq-capi

Monitoring Console Linux パッケージ

表 5-39 Linux 用 Monitoring Console パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Monitoring Console	sun-jesmc sun-jesmcr sun-mfwk-ma

Portal Server の Linux パッケージ

表 5-40 Linux 用 Portal Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Portal Server	sun-portal-admin sun-portal-base sun-portal-portlets sun-portal-search sun-webnfs

Portal Server Secure Remote Access の Linux パッケージ

表 5-41 Linux 用 Portal Server SRA パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Portal Server Secure Remote Access コア	sun-portal-sracommon sun-portal-sracore sun-portal-sragateway sun-portal-sranetletproxy sun-portal-srarewriterproxy

Service Registry の Linux パッケージ

表 5-42 Linux 用 Service Registry パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Service Registry	sun-srvc-registry-dev sun-srvc-registry-deploy

Web Server の Linux パッケージ

表 5-43 Linux 用 Web Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Web Server	sun-webserver7 sun-webserver7-cli sun-webserve7r-dev

Web Proxy Server の Linux パッケージ

表 5-44 Linux 用 Web Proxy Server パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Web Proxy Server	sun-proxyserver

共有コンポーネント用にインストールされる Linux パッケージ

表 5-45 Linux 用共有コンポーネントパッケージ

共有コンポーネント	パッケージ
Ant	sun-ant
ACL (Apache Common Logging)	sun-aclg
Berkeley DB	sun-berkeleydatabase-core sun-berkeleydatabase-java
共通エージェントコンテナ	sun-cacaomon sun-cacaort sun-cacao-man sun-cacaort sun-cacaowsvr
FastInfoSet	sun-fastinfoaset
ICU (international Components for Unicode)	sun-icu
J2SE (Java 2 Standard Edition、JDK)	jdk-1_5_0_06-linux-amd jdk-1_5_0_06-linux
JAF (JavaBeans Activation Framework)	SUNW-jaf
JavaHelp ソフトウェア	sun-javahelp
Java Mail API	sun-javamail
JAXB (Java Architecture for XML Binding)	sun-jaxb sun-jaxb2
JAXP (Java API for XML Processing)	sun-jaxp
JAXR (Java API for XML Registries)	sun-jaxr
JAX-RPC (Java API for XML-based Remote Procedure Call)	sun-jaxrpc
JAXWS (Java API for XML Web Services)	sun-jaxws
JDMK (Java Dynamic Management Kit) Runtime Library	sun-jdmk-runtime sun-jdmk-runtime-jmx
JSS (Java Security Services)	sun-jss sun-jss3

表 5-45 Linux 用共有コンポーネントパッケージ (続き)

共有コンポーネント	パッケージ
JSTL (Java Server Pages Standard Tag Library)	sun-jstl
KTSE (KTSerch Engine)	sun-ktsearch
LDAP C Language SDK	sun-ldapcsdk sun-ldapcsdk-dev sun-ldapcsdk-libs sun-ldapcsdk-tools
LDAP Java SDK	sun-ljdk
MA コア (Mobile Access コア)	sun-mobileaccess sun-mobileaccess-config
NSPR (Netscape Portable Runtime)	sun-nspr sun-nspr-devel
NSS (Netscape Security Services)	sun-nss sun-nss-devel
SAAJ (SOAP With Attachments API for Java)	sun-saaaj
SASL (Simple Authentication Security Layer)	sun-sasl
Sun Java Monitoring Framework	sun-mfwk-rt sun-servicetag sun-servicetag-japi
Sun Java Web Console	SUNWmcon SUNWmconr SUNWmcos SUNWmcosx SUNWmctag
WSCL (Web Services Common Library)	sun-wscl
XWSS (XML Web Services Security)	sun-xwss

ローカライズされた Linux パッケージ

この節では、製品コンポーネントのローカライズされたパッケージおよびローカライズされた共有コンポーネントを示します。大半の製品コンポーネントでは、グローバルなオールインワン言語パッケージを提供します。このローカリゼーションパッケージ名には `l10n` という文字が含まれます。

ただし、一部のコンポーネントでは、言語ごとに別個のパッケージが用意されているものもあります。これらのパッケージについては、この節の個別の言語の表に示します。グローバルパッケージの一部ではないローカライズされたコンポーネント

には、Application Server、Message Queue、JavaBeans Activation Framework、Java Mail API、Mobile Access コア、および Sun Java Web Console が含まれます。グローバル言語パッケージにも、個別の言語パッケージにも記載されていないコンポーネントはローカライズされていません。

ローカライズされた各言語パッケージの名前には、言語を識別するための文字が含まれます。たとえば、日本語にローカライズされた Message Queue のパッケージ名は sun-mq-ja で、このパッケージの韓国語バージョンは sun-mq-ko です。

Linux グローバル言語パッケージ

表 5-46 Linux 用グローバル言語パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-identity-sdk-l10n sun-identity-distauth-l10n sun-identity-mobileaccess-l10n sun-identity-clientsdk-l10n
Directory Server	sun-ldap-directory-l10n sun-ldap-directory-client-l10n sun-ldap-shared-l10n sun-ldap-console-gui-l10n
Monitoring Console	sun-jesmc-l10n
Portal Server および Portal SRA	sun-portal-admin-l10n sun-portal-base-l10n sun-portal-portlets-l10n sun-portal-search-l10n sun-portal-sracore-l10n sun-portal-sracommon-l10n sun-portal-sranetletporxy-l10n
Service Registry	sun-srvc-registry-deploy-l10n sun-srvc-registry-dev-l10n
Web Server	sun-webserver-l10n
Web Proxy Server	sun-proxyserver-l10n

簡体字中国語の Linux パッケージ

表 5-47 簡体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	sun-asacee-zh_CN sun-ascmnse-zh_CN sun-asu-zh_CN sun-asuee-zh_CN
Message Queue	sun-mq-zh_CN
JavaBeans Activation Framework	sun-jafo-zh_CN sun-jaf-zh_CN
Java Mail ランタイム	sun-jmail-zh_CN sun-jmailo-zh_CN
Sun Java Web Console	SUNWcmcon SUNWemctg SUNWcmtcg

繁体字中国語の Linux パッケージ

表 5-48 繁体字中国語にローカライズされた Linux パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	sun-asacee-zh_TW sun-ascmnse-zh_TW sun-asu-zh_TW sun-asuee-zh_TW
Message Queue	sun-mq-zh_TW
JavaBeans Activation Framework	sun-jaf-zh_TW sun-jafo-zh_TW
Java Mail ランタイム	sun-jmail-zh_TW sun-jmailo-zh_TW
Sun Java Web Console	SUNWhmcon SUNWhmctg SUNWhmtcg

フランス語の **Linux** パッケージ

表 5-49 フランス語にローカライズされた Linux パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	sun-asacee-fr sun-ascmnse-fr sun-asu-fr sun-asuee-fr
Message Queue	sun-mq-fr
JavaBeans Activation Framework	sun-jaf-fr sun-jafo-fr
Java Mail ランタイム	sun-jmail-fr sun-jmailo-fr
Sun Java Web Console	SUNWfmcon SUNWfmctg SUNWfmtcg

ドイツ語の **Linux** パッケージ

表 5-50 ドイツ語にローカライズされた Linux パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	sun-asacee-de sun-ascmnse-de sun-asu-de sun-asuee-de
Message Queue	sun-mq-de
JavaBeans Activation Framework	sun-jaf-de sun-jafo-de
Java Mail ランタイム	sun-jmail-de sun-jmailo-de
Sun Java Web Console	SUNWdmcon SUNWdmctg SUNWdmtcg

日本語の **Linux** パッケージ

表 5-51 日本語にローカライズされた Linux パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	sun-asacee-ja sun-ascmnse-ja sun-asu-ja sun-asuee-ja
Message Queue	sun-mq-ja
JavaBeans Activation Framework	sun-jaf-ja sun-jafo-ja
Java Mail ランタイム	sun-jmail-ja sun-jamilo-ja
Sun Java Web Console	SUNWjmcon SUNWjmctg SUNWjmtcg

韓国語の **Linux** パッケージ

表 5-52 韓国語にローカライズされた Linux パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	sun-asacee-ko sun-ascmnse-ko sun-asu-ko sun-asuee-ko
Message Queue	sun-mq-ko
JavaBeans Activation Framework	sun-jaf-ko sun-jafo-ko
Java Mail ランタイム	sun-jmail-ko sun-jamilo-ko
Sun Java Web Console	SUNWkmcon SUNWkmctg SUNWkmtcg

スペイン語の **Linux** パッケージ

表 5-53 スペイン語にローカライズされた Linux パッケージ

製品コンポーネント	パッケージ
Application Server	sun-asacee-es
	sun-ascmnse-es
	sun-asu-es
	sun-asuee-es
Message Queue	sun-mq-es
JavaBeans Activation Framework	sun-jaf-es
	sun-jafo-es
Java Mail ランタイム	sun-jmail-es
	sun-jmailo-es
Sun Java Web Console	SUNWemcon
	SUNWemctg
	SUNWemtcg

索引

A

Access Manager

- インストールタイプ, 44, 50
- インストールのタイプ, 52
- 設定情報, 43
- デフォルトディレクトリ, 30
- デフォルトポート, 33
- パッケージ, 124, 142

Access Manager SDK

- 設定情報, 57
- ワークシート, 90-97, 98-101

ACL パッケージ, 132

AM_ENC_PWD 状態ファイルパラメータ, 45, 58

AM_REALM, 44

Ant パッケージ, 132, 148

Apache (ACL) パッケージ, 132

Apache ログパッケージ, 148

Application Server

- 設定情報, 62-65
- デフォルトディレクトリ, 30
- デフォルトポート, 33
- ノードエージェントのパラメータ, 63-64
- パッケージ, 125, 143
- ワークシート, 101-104

Application Server のドメイン管理, 62-65

Application Server のノードエージェント, 63-64

AS_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 63

AS_ADMIN_USER_NAME 状態ファイルパラメータ, 62

AS_HTTP_PORT 状態ファイルパラメータ, 63

AS_JMX_PORT 状態ファイルパラメータ, 63

AS_MASTER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 63

AS_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 63

AS_WEB_SERVER_LOCATION 状態ファイルパラメータ, 65

AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE 状態ファイルパラメータ, 64

ASNA_ADMIN_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ, 63

ASNA_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 64

ASNA_ADMIN_USER_NAME 状態ファイルパラメータ, 64

ASNA_MASTER_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 64

ASNA_NODE_AGENT_NAME 状態ファイルパラメータ, 64

ASNA_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 64

B

Berkeley DB パッケージ, 132, 148

C

CCCP_UPGRADE_EXTERNAL_INCOMPATIBLE_JDK 状態ファイルパラメータ, 87

CDS_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 49, 54

CMN_ADMIN_PASSWORD, 43

CMN_ADMIN_USER, 43

CMN_AS_DOMAINDIR 状態ファイルパラメータ, 30

CMN_AS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 30

CMN_DOMAIN_NAME 状態ファイルパラメータ, 42

CMN_HADB_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 30

CMN_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ, 42

CMN_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 42
CMN_IS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 30
CMN_MC_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 31
CMN_PS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 31
CMN_REG_SERVER_ROOT 状態ファイルパラメータ, 31
CMN_SRA_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 31
CMN_SYSTEM_GROUP, 43
CMN_SYSTEM_USER, 43
CMN_WPS_INSTALLDIR 状態ファイルパラメータ, 32
CMN_WS_INSTANCE_DIR, 65
CMN_WS_INSTANCEDIR 状態ファイルパラメータ, 32
CONFIG_TYPE 状態ファイルパラメータ, 87
CONSOLE_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 50, 52, 53
CONSOLE_HOST 状態ファイルパラメータ, 51, 52
CONSOLE_PORT 状態ファイルパラメータ, 51, 53
CONSOLE_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 50
CONSOLE_REMOTE 状態ファイルパラメータ, 50
COOKIE_DOMAIN_LIST 状態ファイルパラメータ, 49, 54, 61
CREATE_INSTANCE, 65, 67

D

DeploymentServer 状態ファイルパラメータ, 87
Directory Preparation Tool
 デフォルトディレクトリ, 30
 パッケージ, 126, 144
Directory Proxy Server
 デフォルトディレクトリ, 30
 デフォルトポート, 33
Directory Server
 設定情報, 65-67
 デフォルトディレクトリ, 30
 デフォルトポート, 33
 パッケージ, 126, 144
 ワークシート, 104-105
Directory Service Control Center, デフォルトディレクトリ, 30
Directory Server コア, デフォルトディレクトリ, 30
DSEE_BASE 状態ファイルパラメータ, 30
DSEE_DN_MANAGER, 66
DSEE_INSTANCE_DIRECTORY, 66
DSEE_INSTANCE_DIR 状態ファイルパラメータ, 30

DSEE_INSTANCE_GROUP, 66
DSEE_INSTANCE_INSTANCE_SSL_PORT, 66
DSEE_INSTANCE_PASSWORD, 66
DSEE_INSTANCE_PORT, 66
DSEE_INSTANCE_USER, 66
DSEE_SUFFIX, 67

F

FastInfoSet パッケージ, 132, 148

H

HADB

 設定情報, 67-68
 デフォルトディレクトリ, 30
 デフォルトポート, 33
 パッケージ, 127, 145
 ワークシート, 106
HADB_ALLOW_GROUPMANAGE 状態ファイルパラメータ, 68
HADB_AUTO_START 状態ファイルパラメータ, 68
HADB_DEFAULT_ADMINPORT 状態ファイルパラメータ, 67
HADB_DEFAULT_GROUP 状態ファイルパラメータ, 67
HADB_DEFAULT_RESDIR 状態ファイルパラメータ, 67
HTTPS ポート, 63

I

ICU パッケージ, 132, 148
IS_ADMIN_USER_ID 状態ファイルパラメータ, 44, 58
IS_ADMINPASSWD 状態ファイルパラメータ, 44, 58
IS_DIRMGRDN 状態ファイルパラメータ, 55
IS_DIRMGRPASSWD 状態ファイルパラメータ, 55, 59
IS_DIRMGR 状態ファイルパラメータ, 59
IS_DS_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 55, 59
IS_DS_PORT 状態ファイルパラメータ, 55, 59
IS_IAS81_ADMINPASSWORD 状態ファイルパラメータ, 46
IS_IAS81_ADMINPORT 状態ファイルパラメータ, 46
IS_IAS81_ADMIN 状態ファイルパラメータ, 46

IS_IAS81INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ, 46
IS_LDAP_USER 状態ファイルパラメータ, 44, 58
IS_LDAPUSERPASSWD 状態ファイルパラメータ, 45, 58
IS_LOAD_DIT 状態ファイルパラメータ, 56, 60
IS_ORG_NAMING_ATTR 状態ファイルパラメータ, 56, 60
IS_ORG_OBJECT_CLASS 状態ファイルパラメータ, 56, 60
IS_ROOT_SUFFIX 状態ファイルパラメータ, 55, 59
IS_SERVER_HOST, 62
IS_SERVER_HOST 状態ファイルパラメータ, 49, 53
IS_SERVER_PORT, 62
IS_SERVER_PROTOCOL, 62
IS_USER_NAMING_ATTR, 60
IS_USER_NAMING_ATTR 状態ファイルパラメータ, 57, 61
IS_USER_OBJECT_CLASS 状態ファイルパラメータ, 56, 61
IS_WS_ADMIN_ID 状態ファイルパラメータ, 47
IS_WS_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 47
IS_WS_DOC_DIR, 47
IS_WS_HOST_NAME 状態ファイルパラメータ, 47
IS_WS_INSTANCE_DIR 状態ファイルパラメータ, 48
IS_WS_INSTANCE_PORT 状態ファイルパラメータ, 47
IS_WS_PROTOCOL, 48
IS_WSHOST_NAME, 61

J

J2SE パッケージ, 132, 148
JAF パッケージ, 132, 148
JATO パッケージ, 132
Java DB
 デフォルトディレクトリ, 31
 デフォルトポート, 34
 パッケージ, 127, 145
JAVADB_BASEDIR 状態ファイルパラメータ, 31
JavaHelp パッケージ, 132, 148
Java Mail パッケージ, 132, 148
JAX-RPC パッケージ, 132, 148
JAXB パッケージ, 132, 148

JAXP パッケージ, 132, 148
JAXR パッケージ, 132, 148
JDKM パッケージ, 133, 148
JMX ポート, 63
JSS パッケージ, 133, 148
JSTL パッケージ, 133, 149

K

KTSE パッケージ, 133, 149

L

LDAP C SDK パッケージ, 133, 149
LDAP Java SDK パッケージ, 133, 149
LICENSE_TYPE 状態ファイルパラメータ, 88
Linux
 配布内容, 24-27
 パッケージ, 141-142
 ローカライズされたパッケージ, 149-154
LOCALE 状態ファイルパラメータ, 87

M

MA コアパッケージ, 133, 149
Message Queue
 デフォルトディレクトリ, 31
 デフォルトポート, 34
 パッケージ, 128, 146
Monitoring Console
 デフォルトポート, 34
 パッケージ, 128, 146
Monitoring Framework パッケージ, 133, 149

N

NSPR パッケージ, 133, 149
NSS パッケージ, 133, 149

P

PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 49, 52, 53

Portal Server

- 設定情報, 68
- デフォルトディレクトリ, 31
- パッケージ, 128, 146
- ワークシート, 106-113

Portal Server Secure Remote Access

- 設定情報, 76-81
- デフォルトディレクトリ, 31
- デフォルトポート, 34
- パッケージ, 129, 147
- ワークシート, 113-117

PS_COMMUNITY_PORTAL, 76

PS_DEPLOY_ADMIN_HOST, 71, 75

PS_DEPLOY_ADMIN_HOST 状態ファイルパラメータ, 73

PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 70, 73, 74

PS_DEPLOY_ADMIN_PORT, 71, 75

PS_DEPLOY_ADMIN_PORT 状態ファイルパラメータ, 70, 73

PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL, 75

PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 70, 72, 73

PS_DEPLOY_ADMIN 状態ファイルパラメータ, 70, 73, 74

PS_DEPLOY_DIR 状態ファイルパラメータ, 69, 71, 73

PS_DEPLOY_DOCROOT 状態ファイルパラメータ, 70, 74

PS_DEPLOY_DOMAIN, 71

PS_DEPLOY_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 69

PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR 状態ファイルパラメータ, 69, 72

PS_DEPLOY_INSTANCE 状態ファイルパラメータ, 74

PS_DEPLOY_JDK_DIR 状態ファイルパラメータ, 74

PS_DEPLOY_NODE 状態ファイルパラメータ, 74

PS_DEPLOY_NOW, 73

PS_DEPLOY_PORT 状態ファイルパラメータ, 70, 71, 72, 74

PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR 状態ファイルパラメータ, 72

PS_DEPLOY_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 70, 72, 74

PS_DEPLOY_TYPE, 69

PS_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 76

PS_DEVELOPER_PORTAL, 76

PS_ENTERPRISE_PORTAL, 76

PS_INSTANCE_DIR 状態ファイルパラメータ, 71

PS_INSTANCE_ID, 76

PS_PORTAL_ID, 75

PS_PORTALACCESS_URL, 75

PS_SEARCH_ID, 75

PSDEPLOYTYPE 状態ファイルパラメータ, 87

PSP_EXIT_ON_DEPENDENCY_WARNING 状態ファイルパラメータ, 88

PSP_LOG_CURRENTLY_INSTALLED 状態ファイルパラメータ, 88

PSP_SELECTED_COMPONENTS 状態ファイルパラメータ, 88

S

SAAJ パッケージ, 133, 149

SASL パッケージ, 133, 149

SERVER_DEPLOY_URI 状態ファイルパラメータ, 49, 53, 61

SERVER_HOST 状態ファイルパラメータ, 49, 53

Service Registry

- デフォルトディレクトリ, 31
- デフォルトポート, 34
- パッケージ, 129, 147

Solaris OS

- パッケージ, 123-124
- ローカライズされたパッケージ, 134-141

Solaris SPARC, 配布内容, 19-22

Solaris x86, 配布内容, 22-24

SRA_CERT_CITY 状態ファイルパラメータ, 81

SRA_CERT_COUNTRY 状態ファイルパラメータ, 81

SRA_CERT_DIVISION 状態ファイルパラメータ, 81

SRA_CERT_ORGANIZATION 状態ファイルパラメータ, 81

SRA_CERT_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 81

SRA_CERT_STATE 状態ファイルパラメータ, 81

SRA_GATEWAY_DOMAIN, 77

SRA_GATEWAY_PORT, 77

SRA_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 77

SRA_GATEWAY_PROTOCOL, 77

SRA_GW_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 78
 SRA_GW_HOSTNAME, 78
 SRA_GW_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 78
 SRA_GW_PORT 状態ファイルパラメータ, 78
 SRA_GW_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 79
 SRA_GW_PROTOCOL 状態ファイルパラメータ, 78
 SRA_GW_SUBDOMAIN, 78
 SRA_LOG_USER_PASSWORD, 77
 SRA_NLP_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 79
 SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 79
 SRA_NLP_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 79
 SRA_NLP_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 79
 SRA_NLP_PORT 状態ファイルパラメータ, 79
 SRA_NLP_SUBDOMAIN 状態ファイルパラメータ, 79
 SRA_RWP_DOMAIN 状態ファイルパラメータ, 80
 SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE 状態ファイルパラメータ, 80
 SRA_RWP_HOSTNAME 状態ファイルパラメータ, 80
 SRA_RWP_IPADDRESS 状態ファイルパラメータ, 80
 SRA_RWP_PORT 状態ファイルパラメータ, 80
 SRA_RWP_SUBDOMAIN 状態ファイルパラメータ, 80
 SRA_SERVER_DOMAIN, 77
 SRA_SWITCH_CORE, 76
 Sun Cluster
 デフォルトディレクトリ, 32
 デフォルトポート, 33, 35
 パッケージ, 130
 Sun Cluster Geographic Edition, パッケージ, 129
 Sun Explorer Data Collector パッケージ, 133
 Sun Java Monitoring Framework パッケージ, 133, 149
 Sun Java Web Console パッケージ, 133, 149

U

USE_DEFAULT_PASSWORD 状態ファイルパラメータ, 42
 USE_DSAME_SERVICES_WEB_CONTAINER 状態ファイルパラメータ, 50

W

Web Proxy Server

デフォルトディレクトリ, 32
 デフォルトポート, 35
 パッケージ, 131, 147
 ワークシート, 117-118

Web Server

設定情報, 82-86
 デフォルトディレクトリ, 32
 デフォルトポート, 35
 パッケージ, 131, 147
 ワークシート, 118-121

WPS_ADMIN_PASSWORD, 82
 WPS_ADMIN_PORT, 82
 WPS_ADMIN_RUNTIME_USER, 82
 WPS_ADMIN_USER, 81
 WPS_INSTANCE_AUTO_START, 82
 WPS_INSTANCE_PORT, 82
 WPS_INSTANCE_RUNTIME_USER, 82
 WPS_PROXY_DOMAIN, 82
 WS_ADMIN_HOST, 84, 85
 WS_ADMIN_HTTP_PORT, 84
 WS_ADMIN_IS_NODE_MODE, 83
 WS_ADMIN_IS_SERVER_MODE, 83
 WS_ADMIN_LOGIN_PASSWORD, 85
 WS_ADMIN_LOGIN_USER, 85
 WS_ADMIN_SERVER_USER, 84
 WS_ADMIN_SSL_PORT, 84, 85
 WS_DOCROOT 状態ファイルパラメータ, 86
 WS_HTTP_PORT 状態ファイルパラメータ, 86
 WS_INSTANCE_USER, 85
 WS_LOGIN_PASSWORD, 84
 WS_LOGIN_USER, 84
 WS_NODE_HOST, 85
 WS_NODE_SSL_PORT, 85
 WS_REGISTER_NODE, 85
 WS_SERVER_NAME, 86
 WS_SERVER_USER 状態ファイルパラメータ, 86
 WS_START_ON_BOOT 状態ファイルパラメータ, 83
 WSCL パッケージ, 134, 149

X

XWSS パッケージ, 134, 149

あ

アンインストール

- Linux パッケージ, 142
- Solaris パッケージ, 124

い

「今すぐ設定」用ワークシート, 89-121

インストール

- Linux パッケージ, 141-142
- Solaris パッケージ, 123-124
- デフォルトディレクトリ, 29

か

- 管理クライアントパッケージ, 125
- 管理者アカウントのパスワード選択, 42

き

- 旧バージョンモード (Access Manager), 44
- 共通エージェントコンテナ, デフォルトポート, 33
- 共通エージェントコンテナパッケージ, 132, 148
- 共通サーバー設定, 42-43
- 共有コンポーネント
 - パッケージ, 132-134, 148-149

け

言語パッケージ

- Linux 用, 149-154
- Solaris OS 用, 134-141

し

状態ファイルのパラメータ

- AM_ENC_PWD, 45, 58
- AM_REALM, 44
- AS_ADMIN_PORT, 63
- AS_ADMIN_USER_NAME, 62

状態ファイルのパラメータ (続き)

- AS_HTTP_PORT, 63
- AS_JMX_PORT, 63
- AS_MASTER_PASSWORD, 63
- AS_PASSWORD, 63
- AS_WEB_SERVER_LOCATION, 65
- AS_WEB_SERVER_PLUGIN_TYPE, 64
- ASNA_ADMIN_HOST_NAME, 63
- ASNA_ADMIN_PORT, 64
- ASNA_ADMIN_USER_NAME, 64
- ASNA_MASTER_PASSWORD, 64
- ASNA_NODE_AGENT_NAME, 64
- ASNA_PASSWORD, 64
- CDS_DEPLOY_URI, 49, 54
- CMN_ADMIN_PASSWORD, 43
- CMN_ADMIN_USER, 43
- CMN_AS_DOMAINSDIR, 30
- CMN_AS_INSTALLDIR, 30
- CMN_DOMAIN_NAME, 42
- CMN_DSSETUP_INSTALLDIR, 30
- CMN_HADB_INSTALLDIR, 30
- CMN_HOST_NAME, 42
- CMN_IPADDRESS, 42
- CMN_IS_INSTALLDIR, 30
- CMN_MC_INSTALLDIR, 31
- CMN_PS_INSTALLDIR, 31
- CMN_REG_SERVER_ROOT, 31
- CMN_SRA_INSTALLDIR, 31
- CMN_SYSTEM_GROUP, 43
- CMN_SYSTEM_USER, 43
- CMN_WPS_INSTALLDIR, 32
- CMN_WS_INSTANCE_DIR, 65
- CMN_WS_INSTANCEDIR, 32
- CONSOLE_DEPLOY_URI, 50, 52, 53
- CONSOLE_HOST, 51, 52
- CONSOLE_PORT, 51, 53
- CONSOLE_PROTOCOL, 50
- CONSOLE_REMOTE, 50
- COOKIE_DOMAIN_LIST, 49, 54, 61
- CREATE_INSTANCE, 65, 67
- DSEE_BASE, 30
- DSEE_DN_MANAGER, 66
- DSEE_INSTANCE_DIR, 30
- DSEE_INSTANCE_DIRECTORY, 66

状態ファイルのパラメータ (続き)

DSEE_INSTANCE_GROUP, 66
DSEE_INSTANCE_PASSWORD, 66
DSEE_INSTANCE_PORT, 66
DSEE_INSTANCE_SSL_PORT, 66
DSEE_INSTANCE_USER, 66
DSEE_SUFFIX, 67
IS_ADMIN_USER_ID, 44, 58
IS_ADMINPASSWD, 44, 58
IS_DIRMGR, 59
IS_DIRMGRDN, 55
IS_DIRMGRPASSWD, 55, 59
IS_DS_HOSTNAME, 55, 59
IS_DS_PORT, 55, 59
IS_IAS7INSTANCE_PORT, 46
IS_IAS81_ADMIN, 46
IS_IAS81_ADMINPASSWORD, 46
IS_IAS81_ADMINPORT, 46
IS_LDAP_USER, 44, 58
IS_LDAPUSERPASSWD, 45, 58
IS_LOAD_DIT, 56, 60
IS_ORG_NAMING_ATTR, 56, 60
IS_ORG_OBJECT_CLASS, 56, 60
IS_ROOT_SUFFIX, 55, 59
IS_SERVER_HOST, 49, 53, 62
IS_SERVER_PORT, 62
IS_SERVER_PROTOCOL, 62
IS_USER_NAMING_ATTR, 57, 60, 61
IS_USER_OBJECT_CLASS, 56, 61
IS_WS_ADMIN_ID, 47
IS_WS_ADMIN_PASSWORD, 47
IS_WS_DOC_DIR, 47
IS_WS_HOST_NAME, 47, 61
IS_WS_INSTANCE_DIR, 48
IS_WS_INSTANCE_PORT, 47
IS_WS_PROTOCOL, 48
JAVADB_BASEDIR, 31
PASSWORD_SERVICE_DEPLOY_URI, 49, 52, 53
PS_COMMUNITY_PORTAL, 76
PS_DEPLOY_ADMIN, 70, 73, 74
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST, 71, 73, 75
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD, 70, 73, 74
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT, 70, 71, 73, 75
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL, 70, 72, 73, 75

状態ファイルのパラメータ (続き)

PS_DEPLOY_DIR, 69, 71, 73
PS_DEPLOY_DOCROOT, 70, 74
PS_DEPLOY_DOMAIN, 69, 71
PS_DEPLOY_INSTANCE, 74
PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR, 69, 72
PS_DEPLOY_JDK_DIR, 74
PS_DEPLOY_NODE, 74
PS_DEPLOY_NOW, 73
PS_DEPLOY_PORT, 70, 71, 72, 74
PS_DEPLOY_PRODUCT_DIR, 72
PS_DEPLOY_PROTOCOL, 70, 72, 74
PS_DEPLOY_TYPE, 69
PS_DEPLOY_URI, 76
PS_DEVELOPER_PORTAL, 76
PS_ENTERPRISE_PORTAL, 76
PS_INSTANCE_DIR, 71
PS_INSTANCE_ID, 76
PS_PORTAL_ID, 75
PS_PORTALACCESS_URL, 75
PS_SEARCH_ID, 75
SERVER_DEPLOY_URI, 49, 53, 61
SERVER_HOST, 49, 53
SRA_CERT_CITY, 81
SRA_CERT_COUNTRY, 81
SRA_CERT_DIVISION, 81
SRA_CERT_ORGANIZATION, 81
SRA_CERT_PASSWORD, 81
SRA_CERT_STATE, 81
SRA_GATEWAY_DOMAIN, 77
SRA_GATEWAY_PORT, 77
SRA_GATEWAY_PROFILE, 77
SRA_GATEWAY_PROTOCOL, 77
SRA_GW_DOMAIN, 78
SRA_GW_HOSTNAME, 78
SRA_GW_IPADDRESS, 78
SRA_GW_PORT, 78
SRA_GW_PROFILE, 79
SRA_GW_PROTOCOL, 78
SRA_GW_SUBDOMAIN, 78
SRA_LOG_USER_PASSWORD, 77
SRA_NLP_DOMAIN, 79
SRA_NLP_GATEWAY_PROFILE, 79
SRA_NLP_HOSTNAME, 79

状態ファイルのパラメータ (続き)

SRA_NLP_IPADDRESS, 79
SRA_NLP_PORT, 79
SRA_NLP_SUBDOMAIN, 79
SRA_RWP_DOMAIN, 80
SRA_RWP_GATEWAY_PROFILE, 80
SRA_RWP_HOSTNAME, 80
SRA_RWP_IPADDRESS, 80
SRA_RWP_PORT, 80
SRA_RWP_SUBDOMAIN, 80
SRA_SERVER_DOMAIN, 77
SRA_SWITCH_CORE, 76
USE_DEFAULT_PASSWORD, 42
USE_DSAME_SERVICES_WEB_CONTAINER, 50
WPS_ADMIN_PASSWORD, 82
WPS_ADMIN_PORT, 82
WPS_ADMIN_RUNTIME_USER, 82
WPS_ADMIN_USER, 81
WPS_INSTANCE_AUTO_START, 82
WPS_INSTANCE_PORT, 82
WPS_INSTANCE_RUNTIME_USER, 82
WPS_PROXY_DOMAIN, 82
WS_ADMIN_HOST, 84, 85
WS_ADMIN_HTTP_PORT, 84
WS_ADMIN_IS_NODE_MODE, 83
WS_ADMIN_IS_SERVER_MODE, 83
WS_ADMIN_LOGIN_PASSWORD, 85
WS_ADMIN_LOGIN_USER, 85
WS_ADMIN_SERVER_USER, 84
WS_ADMIN_SSL_PORT, 84, 85
WS_DOCROOT, 86
WS_HTTP_PORT, 86
WS_INSTANCE_USER, 85
WS_LOGIN_PASSWORD, 84
WS_LOGIN_USER, 84
WS_NODE_HOST, 85
WS_NODE_SSL_PORT, 85
WS_REGISTER_NODE, 85
WS_SERVER_NAME, 86
WS_START_ON_BOOT, 83
コンポーネント製品以外のパラメータ, 87-88

す

スイートの配布内容

Linux, 24-27
Solaris OS, 19-22
スイートパッケージ
Linux, 141-142
Solaris OS, 123-124

せ

設定情報

Access Manager, 43
Access Manager SDK, 57
Application Server, 62-65
Directory Server, 65-67
HADB, 67-68
Portal Server Secure Remote Access, 76-81
Web Server, 82-86
収集, 37-88
用語, 40-41
設定情報の収集, 37-88
設定用の用語, 40-41

て

ディレクトリ、インストールのデフォルト, 29

は

配布内容

Linux, 24-27
Solaris SPARC, 19-22
Solaris x86, 22-24
パッケージ
Access Manager, 124, 142
Application Server, 125, 143
Directory Preparation Tool, 126, 144
Directory Server, 126, 144
HADB, 127, 145
Java DB, 127, 145
Linux, 141-142, 142
Message Queue, 128, 146

パッケージ (続き)

- Monitoring Console, 128, 146
- Portal Server, 128, 146
- Portal Server Secure Remote Access, 129, 147
- Service Registry, 129, 147
- Solaris OS, 123-124, 124
- Sun Cluster Geographic Edition, 129
- Sun Cluster software, 130
- Web Proxy Server, 131, 147
- Web Server, 131, 147
- 一覧, 123-154
- 管理クライアント, 125
- 共有コンポーネント, 132-134, 148-149
- ローカライズされた, 134-141, 149-154
- ローカライズされたパッケージ, 134-141, 149-154

ほ

- ポート番号、インストールデフォルト, 32

よ

- 用語集、リンク, 15

れ

- レルムモード (Access Manager), 44

